



文化庁

平成30年度文化庁委託事業

劇場・音楽堂等基盤整備事業

報告書



THE ASSOCIATION OF PUBLIC THEATERS AND HALLS IN JAPAN
公益社団法人全国公立文化施設協会



平成30年度文化庁委託事業

劇場・音楽堂等基盤整備事業

報告書



THE ASSOCIATION OF PUBLIC THEATERS AND HALLS IN JAPAN
公益社団法人全国公立文化施設協会

はじめに

公益社団法人全国公立文化施設協会では、平成30年度において文化庁より「劇場・音楽堂等基盤整備事業（情報提供及び研修）」を受託いたしました。本事業は劇場・音楽堂等における活動や事業が自主的、主体的に行なわれる環境の醸成を目的に、劇場・音楽堂等に働く職員や文化行政担当者等に対し、必要となる情報収集や提供、研修を実施するものです。

本年度は情報収集・提供事業において、これまで実施してきたホームページやメールマガジンでの発信、日常相談業務、支援員の派遣、ハンドブックの作成に加え、新たにテーマ別専門家チームの派遣を実施いたしました。

また、研修事業においては、地域別研修会やスタッフ交流研修事業といった地域における研修事業を実施するとともに、これまで別々に実施してきた全国規模のアートマネジメント及び技術職員研修会を、初めて合同で国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催いたしました。こうした専門研修を実施することで、劇場や音楽堂等で働く職員の皆さまの専門性の向上を図ってまいりました。

本報告書は、本年度に実施した「劇場・音楽堂等基盤整備事業」の概要を取りまとめたものです。劇場・音楽堂等に関わる職員や文化行政を担当する皆さまが、それぞれの職場で職務を遂行する上でご参考にさせていただければ幸いです。

なお、事業の詳しい内容については、私ども全国公立文化施設協会のホームページに掲載しております。是非ご参照ください。

末筆ながら、本年度の事業実施にあたりご支援・ご協力をいただいた専門家の皆さまをはじめとする関係者の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

平成31年（2019年）3月 公益社団法人全国公立文化施設協会

目次

詳細HP

ホームページで詳細な報告をご覧ください
▶ <https://www.zenkoubun.jp/>

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

1. 基盤整備事業概要

平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」…………… 6

2. 情報提供事業

劇場・音楽堂等及び我が国の文化芸術の振興に関する情報、
資料の収集・提供…………… 10 詳細HP

支援員の派遣による支援…………… 14 詳細HP

日常相談業務対応…………… 20

テーマ別専門家チームの派遣…………… 23

研修教材の製作企画・編集・発行（ハンドブックの発行）…………… 24 詳細HP

3. 研修・交流事業

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会…………… 28 詳細HP

地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会…………… 32 詳細HP

スタッフ交流研修事業…………… 47 詳細HP

II 全国劇場・音楽堂等職員

アートマネジメント・舞台技術研修会 記録…………… 49

III 参考資料

基盤整備事業一覧…………… 82

支援員の派遣による支援事業募集について…………… 86

専門家チームの派遣募集について…………… 90

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会募集要項…………… 92

スタッフ交流研修事業募集要項…………… 98

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

1. 基盤整備事業概要

平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」

平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」

事業名

平成30年度「劇場・音楽堂等基盤整備事業」

目的

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(平成24年法律第49号。以下「劇場法」という。)及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」(平成25年文部科学省告示第60号)を踏まえ、我が国の文化拠点である劇場・音楽堂等(劇場法第2条第1項に規定する劇場・音楽堂等をいう。以下同じ。)において、実演芸術(劇場法第2条第2項に規定する実演芸術をいう。以下同じ。)に関する活動や、劇場・音楽堂等の事業が自主的・主体的に行われるよう情報提供事業及び研修・交流事業を実施することにより、劇場・音楽堂等の活性化のための基盤整備を行う。

実施期間

平成30年5月17日から平成31年3月29日まで

事業内容

【I 情報提供事業】

(1) 芸術文化情報提供事業

① 劇場・音楽堂等及び我が国の文化芸術の振興に関する情報、資料の収集・提供

これまで公益社団法人全国公立文化施設協会(以下「全国公文協」という。)で行ってきた資料の収集、整理、保管を引き続き適切に行い、利用者の要望に応えるとともに、ホームページでの情報アクセスの簡易化、施設情報等のデータベース化に努め、迅速・的確に活用できるように改善を図る。また、施設からの問合せや相談に的確に対応できるよう相談体制を充実する。さらに、文化施設情報及び公演情報の収集と提供を随時行うとともに、文化庁文化情報ポータルサイトと連動し、国内外への発信力を高める。

(ア) ホームページでの発信

(イ) メールマガジンの発行

(ウ) FAQの作成

(エ) 文化プログラムへの参加推進

② 劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援

(a) 支援員の派遣による支援

劇場・音楽堂等や自治体からの申請に基づき、その適格性を審査し、個別課題解決のために必要とされる専門家(支援員)を派遣し、指導助言を行う。また、単独の施設だけでなく、地域の抱える課題に対応する専門家を派遣し、地域力の向上や課題解決を図る。

(b) 日常相談業務対応

劇場・音楽堂等を運営していく上で生じる様々な疑問や課題に対応し、懇切に相談を受けるとともに、必要とされる情報やノウハウを提供し、劇場・音楽堂等の活性化等を多面的に支援する。

(c) テーマ別専門家チームの派遣

劇場・音楽堂等にとって喫緊かつ優先度の高い課題に対応した専門家チームを編成し、地域で開催する研修会や講習会等に派遣する。複数の専門家をチームで派遣することにより、よりニーズに適合し、問題解決への道筋につながる効果的な指導・助言等を行う。

(2) 研修教材の製作企画・編集・発行

劇場・音楽堂等における施設運営や人材養成等に資するため、時期に即応し、かつニーズの高いテーマの中から一つを選定し、業務遂行や職員研修、自己啓発等に活用できる教材を作成する。

- ・タイトル：劇場・音楽堂等子どものためのプログラム企画ハンドブック

子どものためのプログラムを提供するための企画に役立てると共に、「鑑賞型」だけでなく、「参加型」ワークショップの事例等を紹介し、広く次世代を育成するヒントとする。

【II 研修・交流事業】**(1) 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会**

劇場・音楽堂等の活性化、地域の文化芸術の振興を目的として、アートマネジメントと舞台技術に関する専門的研修を体系的に実施することにより、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を支援する。

- ・開催日：平成31年2月6日(水)～8日(金) (3日間)

- ・場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) 地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会

劇場・音楽堂等における基本的な知識や、地域の持つ課題等をテーマに研修を行う。また、当該地域に働く職員の交流を深め、相互のネットワーク形成及び情報交換の場とする。

- ・開催日：平成30年8月～31年2月

- ・場 所：全国7地域における施設(北海道地域、東北地域、関東甲信越静地域、東海北陸地域、近畿地域、中四国地域、九州地域)

(3) 劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業

劇場・音楽堂等のアートマネジメントや舞台技術等の専門性を向上させることを目的に地域の劇場・音楽堂等において中心的役割を担う職員を、優れた活動を行う他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行う。

- ①実務者派遣研修

- ②実務者相互派遣研修

- ③実務者交換研修

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

2. 情報提供事業

劇場・音楽堂等及び我が国の文化芸術の振興に関する情報、
資料の収集・提供

支援員の派遣による支援

日常相談業務対応

テーマ別専門家チームの派遣

研修教材の製作企画・編集・発行 (ハンドブックの発行)

劇場・音楽堂等及び我が国の文化芸術の振興に関する情報、資料の収集・提供

目的

これまで全国公文協で行ってきた資料の収集、整理、保管を引き続き適切に行い、利用者の要望に応えるとともに、ホームページでの情報アクセスの簡易化、施設情報等のデータベース化に努め、迅速・的確に活用できるように改善を図る。また、施設からの問合せや相談に的確に対応できるよう相談体制を充実する。さらに、文化施設情報及び公演情報の収集と提供を随時行うとともに、地域からの情報発信を行なう。さらに、文化庁文化情報ポータルサイトと連動し、国内外への発信力を高める。

実施期間

平成30年5月17日から平成31年3月29日まで

事業内容

(1) 提供内容

- 国及び地方公共団体の文化芸術振興施策、助成制度
- 劇場・音楽堂等の管理や運営に関する統計資料、調査報告
- アートマネジメントに関する研修資料、調査報告
- 舞台技術に関する研修資料、調査報告
- 人材養成及び確保に関する研修資料、調査報告
- 経営の安定化に関する資料、調査報告
- 施設改修に関する資料、調査報告
- 安全管理に関する資料、調査報告
- 劇場・音楽堂等施設情報及び公演情報
- 各地の施設、団体等からの情報発信
- 文化プログラムへの参加推進 等

(2) 提供方法

- ホームページでの発信
- メールマガジンの発行
- FAQの作成
- 情報コーナーの設置
- 電話、電子メール、ファクシミリ 等

実施内容

(ア) ホームページでの発信

ホームページを活用し、劇場・音楽堂等が必要かつ有益な情報、活動の幅が広がる情報を分かりやすく整理し、提供をする。

活動支援: 施設に対する情報、支援、相談情報等を掲載

助成金／支援員／相談／よくある質問 (FAQ)／改修相談／その他

研修・イベント: 研修会、イベント等の開催情報、募集等

全国アートマネジメント研修会／全国技術職員研修会／地域別アートマネジメント研修会／地域別技術職員研修会／スタッフ交流研修会／その他

政策・制度: 国、行政の文化政策に関する情報を掲載

劇場・音楽堂等関連法規／文化政策／その他

出版物・資料: 公文協がこれまで発行したハンドブック、書籍、事業実施報告書、調査研究報告書等を掲出

主な内容

情報プラザ (地域等からの情報発信)

各地の施設、団体等からのお知らせを随時掲載

主な掲載事項

研修会、講演会、フォーラム等の開催案内、人材募集案内、公演情報等

掲載件数 57件 (平成31年2月現在)

情報プラザ (地域等からの情報発信)

2019/02/14	九州	加藤雅男 文化講演会「あたらしVJコモノカタチ」
2019/02/08	近畿	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 総務経理担当副団長の募集について
2019/01/11	関東	舞台技術者のための横断的総合研修「上級」
2019/01/10	関東	Yellow Magic Children ～40年後のYMOの遺伝子～
2019/01/08	関東	全国公立文化施設協会 共催による特別講演会のお知らせ [ライブ・エンターテインメントEXPO]
2019/09/16	中部	お竹楽舞団改組報告会開催報告

新着情報を掲載しています。その他の情報は一覧からご覧いただけます。 [一覧](#)

情報プラザに掲載ご希望の方はお申込方法をご覧ください [>](#)

全国公立文化施設検索

全国の公立文化施設の施設情報を掲載

主な掲載事項

施設所在地、開館年数、運営機関、規模 (座席数)、舞台形式、主な用途、附属施設等

掲載件数 2,194施設

全国公立文化施設検索 [地域から探す](#)

検索条件設定

ブロック	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input type="checkbox"/> 関東甲信越 <input type="checkbox"/> 東海北陸 <input type="checkbox"/> 近畿 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 九州
郵便番号	<input type="text" value="〒000 0000"/>
開館年	<input type="text" value="1980"/> <input type="text" value="2020"/>
規模	<input type="checkbox"/> 座席数499席以下 <input type="checkbox"/> 座席数500～999席 <input type="checkbox"/> 座席数1000～1999席 <input type="checkbox"/> 座席数2000席以上
運営機関	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他
舞台形式	<input type="checkbox"/> プロセニウム <input type="checkbox"/> ビューボックス <input type="checkbox"/> ライズアード <input type="checkbox"/> アリーナ <input type="checkbox"/> 平土層 <input type="checkbox"/> その他
主な用途	<input type="checkbox"/> クラシック音楽 <input type="checkbox"/> オペラ・バレエ <input type="checkbox"/> 演劇・ミュージカル <input type="checkbox"/> ダンス・舞踊 <input type="checkbox"/> ポップス・実演音楽 <input type="checkbox"/> 伝統芸能 <input type="checkbox"/> 演説 <input type="checkbox"/> その他
附属施設	<input type="checkbox"/> シアタビット <input type="checkbox"/> バイブアールカン <input type="checkbox"/> リハーサル室 <input type="checkbox"/> 楽屋 <input type="checkbox"/> 楽屋裏 <input type="checkbox"/> 本楽 <input type="checkbox"/> 楽手室 <input type="checkbox"/> 楽手室 <input type="checkbox"/> 楽室・楽屋
キーワード	<input type="text"/>

[リセット](#) [検索](#)

専門人材情報

各種専門家をアドバイザー・コーディネーターとして登録。研修会講師や相談員、支援員として活用

登録者数 アドバイザー 12名
コーディネーター 64名

公文協事業アーカイブ

これまでの研修会、支援員等の実施報告書のアーカイブ
年度、事業名、分野等から検索が可能

助成金

募集中の助成・活動支援等に関する情報を紹介

政策・法律

劇場・音楽堂等関連法規、文化政策等を随時掲載

出版物・資料

全国公文協がこれまで発行したハンドブック・書籍・研修会報告書等を掲載

(イ) メールマガジンの発行

メールマガジン「全国公文協 情報フォーラム」を定期的（原則毎月15日）に発行。主に（1）全国公文協からののお知らせ、（2）ピックアップ、（3）会員等からののお知らせ、（4）コラム、（5）助成等に関する情報を掲載

発行 第82号（平成30年6月15日）～第91号（平成31年3月15日）
臨時号：平成30年10月1日、11月21日、12月5日、平成31年1月18日

送信数 約3,800通／毎回

主な内容

号	発行日	内容
82号	平成30年 6月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報プラザ」ご案内 ※83号にも掲載 ・新会員紹介 ・文化庁 平成30年度予算の概要 ・「キッズウィーク」に向けたお願い ・コラム（地震に備える！～『劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック』より～） ※助成情報（臨時号を除き毎号掲載）
83号	平成30年 7月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員派遣事業 派遣先決定 ・大阪府北部地震 公立文化施設被害状況調査結果 ・「文部科学省設置法」の一部が改正 ・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律」施行 ・バリアフリー化の改修工事により固定資産税が減免 ・文化審議会の動向 ・コラム（劇場・音楽堂等の障害者サポート①）
84号	平成30年 8月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別研修会のご案内 ・専門家チームを派遣のご案内 ※85号にも掲載 ・文化庁「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」公募開始 ・コラム（劇場・音楽堂等の障害者サポート②）

号	発行日	内容
85号	平成30年 9月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会※86・87号にも掲載 ・劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業(国内交流研修)募集のご案内 ・文化庁委託事業(ハンドブック・地域別研修会)のお知らせ ・文化庁 平成31年度の概算要求 ・コラム(劇場・音楽堂等の障害者サポート③)
86号	平成30年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁の新組織、シンボルマーク変更について ・文化審議会の動向 ・Culture NIPPON シンポジウム(全体案内:京都・東北・中四国・東京)のご案内 ・コラム(劇場・音楽堂等の障害者サポート④)
87号	平成30年11月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・TPP11協定の発効に伴う著作権法改定について ・Culture NIPPON シンポジウム(東北大会)のご案内 ・コラム(社会における文化施設の役割とは①)
88号	平成30年12月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 のご案内 ※89号にも掲載 ・文化庁 文化施設の適正管理に係る地方債措置の拡充について ・Culture NIPPON シンポジウム(中国・四国大会)のご案内 ・コラム(社会における文化施設の役割とは②)
89号	平成31年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁 平成31年度予算(案)の概要 ・Culture NIPPON シンポジウム(中国・四国大会及び東京大会)のご案内 ・コラム(社会における文化施設の役割とは③)
90号	平成31年 2月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立文化施設における壁のパネル落下事故 注意喚起 ・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 参加の御礼 ・文化庁 文化審議会文化政策部会の動向 ・改元に伴うシステム改修等への対応のお願い ・コラム(社会における文化施設の役割とは④)
91号	平成31年 3月15日	・冊子送付のご案内等(平成30年度文化庁委託事業における各種研修会・ハンドブック等)
臨時号	平成30年10月 1日	・劇場・音楽堂等機能強化推進事業 募集中
	平成30年11月21日	・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会2019～募集要項公開のお知らせ～
	平成30年12月 5日	・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会2019～受付開始のお知らせ～
	平成31年 1月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 申し込み締め切り延長のお知らせ ・入場券の不正転売禁止の法律公布

(ウ) FAQの作成

日常相談業務に寄せられた各種相談、問い合わせ等の内容とその回答、アドバイス等の事例をテーマ別にまとめ「よくある質問」としてホームページに掲載

カテゴリー：文化政策(公共政策など)

- 劇場・音楽堂とは(法律基盤・役割など)
- 施設運営・管理(組織・人材・資金調達など)
- 安全対策・危機管理(危機管理体制・緊急対応、保険など)
- 事業企画・運営(予算・助成・著作権など)
- 貸館事業(稼働率・自主公演など)
- 舞台設備(最新技術・機構・用語など)
- 改修

(エ) 文化プログラムへの参加推進・ホームページでの発信

[beyond2020プログラム]とのリンク

メールマガジンでの紹介

文化庁情報とのリンク

支援員の派遣による支援

目的

劇場・音楽堂等において、実演芸術に関する活動や、劇場・音楽堂等の事業が自主的・主体的に行われるよう、自主事業の企画・実施、施設の管理・運営等に関する指導助言を行う専門家（以下、「支援員等」という）を派遣し、企画・運営力等の向上を図ることを目的とする。

支援内容（テーマ）

- (1) 運営方針等に関する指導助言
- (2) 年間事業計画に関する指導助言
- (3) 個別の自主企画事業の企画制作に関する指導助言
- (4) 中期計画（3か年程度）の企画立案に関する指導助言
- (5) 劇場・音楽堂等が行う芸術文化活動（創作活動）の企画制作に関する指導助言
- (6) 施設の管理・運営に関する指導助言
- (7) 施設の修繕・改修計画の企画立案に関する指導助言
- (8) 劇場・音楽堂等の新設に関する指導助言（基本構想立案段階でも可）
- (9) その他劇場・音楽堂等の活性化につながる指導助言

派遣の種類

- ・館派遣型：1施設を対象に派遣
- ・地域派遣型：複数施設に対しての支援（同一市内、同一県内の複数施設の支援、同一管理者の施設等）

派遣回数、時間

年間最大3回まで。1回の支援時間は概ね4時間程度

派遣する支援員等

- ・劇場・音楽堂等の活動の活性化に資する文化政策、舞台芸術、管理運営、事業企画、舞台技術、施設改修等の分野に関する有識者又は専門家
- ・原則として、申込者毎に1名の派遣とする。審査会で支援内容により複数の支援員の派遣が望ましいと判断された場合は、複数の支援員を派遣する。
- ・同じ支援員は、同じ施設等に連続して2年までとする。

派遣先の決定

学識経験者等による「審査会」を開催し、派遣先、支援内容、実施回数等を決定する。

申込期間

平成30年5月17日(木)から平成30年6月12日(火)まで

審査会

平成30年6月22日(月) 派遣決定件数 30件79回

支援員派遣実績一覧

★地域派遣型

No.	都道府県	施設名	支援員	回数	(1) 運営 方針	(2) 年間 計画	(3) 自主企画 事業	(4) 中期 計画	(5) 芸術文化 活動企画	(6) 管理・ 運営	(7) 修理・ 改修計画	(8) 新設	(9) その他
1	宮城	名取市文化会館	山形 裕久	1						○			
			本間 基照	2						○			
2	福島	国見町観月台文化センター	柴田 英紀	1			○						
			坂崎 裕二	1			○						
3	埼玉	吉見町民会館(フレサよしみ)	酒井 誠	3		○							
★ 4	千葉	きらり鎌ヶ谷市民会館(外1施設)	渡辺 日佐夫	3									○
5	千葉	習志野市習志野文化ホール	大石 時雄	1			○						
			松井 憲太郎	2			○						
6	東京	練馬区立練馬文化センター	山本 康友	2							○		
			塩入 徹	1							○		
7	東京	くにたち市民芸術小ホール	渡邊 邦男	1							○		
			草加 叔也	2							○		
8	東京	八王子市芸術文化会館	本杉 省三	3						○			
9	神奈川	神奈川県立青少年センター	鈴木 京子	1			○						
			小野木 豊昭	1			○						
★ 10	愛知	春日井市民会館(外1施設)	森 隆一郎	3	○								
★ 11	愛知	小牧市市民会館(外3施設、1団体)	中川 幾郎	3	○					○			○
12	愛知	岡崎市シビックセンター	塩入 徹	1							○		
			加藤 亮一	2							○		

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

II 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 記録

III 参考資料

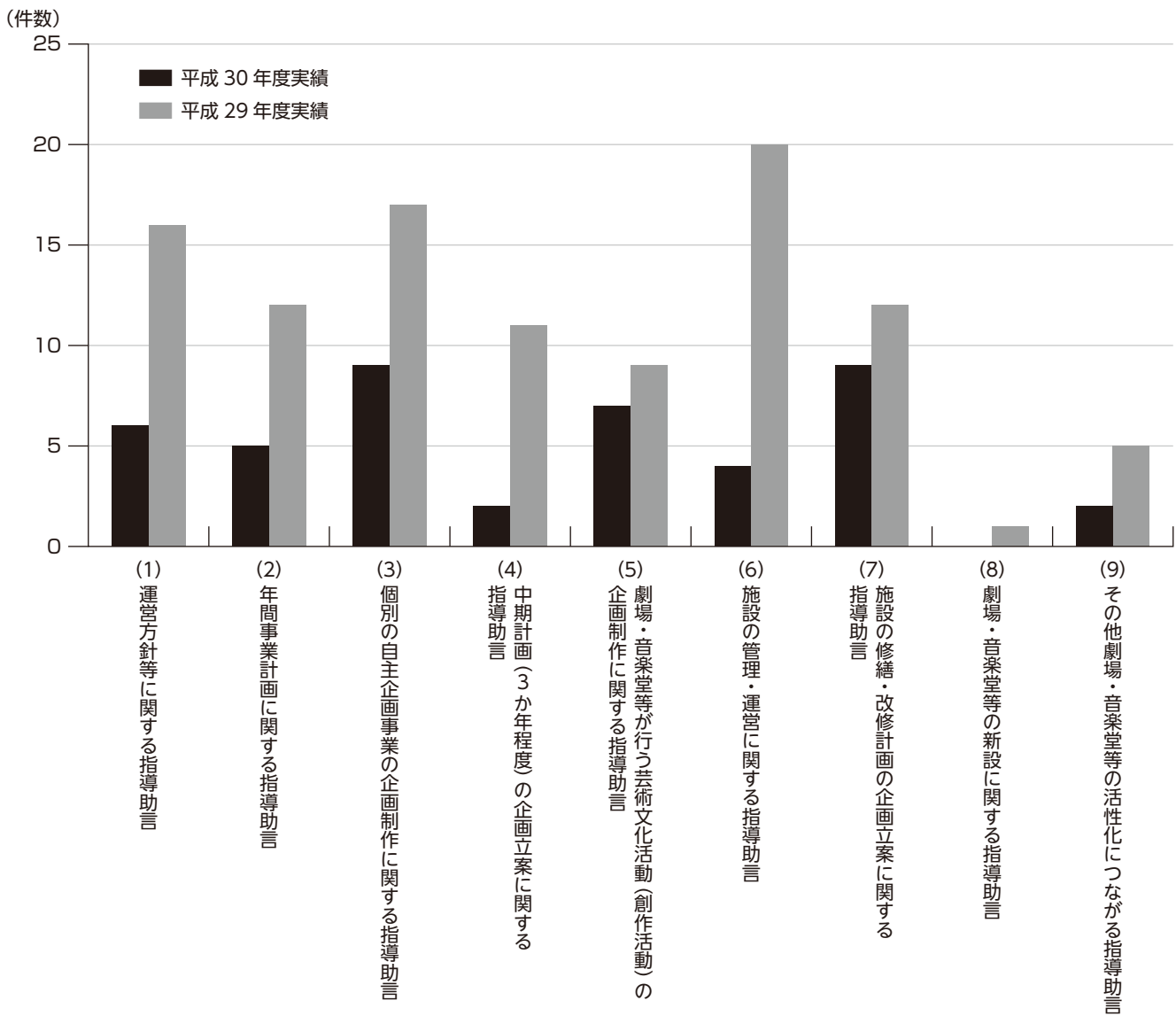
No.	都道府県	施設名	支援員	回数	(1) 運営 方針	(2) 年間 計画	(3) 自主企画 事業	(4) 中期 計画	(5) 芸術文化 活動企画	(6) 管理・ 運営	(7) 修理・ 改修計画	(8) 新設	(9) その他	
★ 13	愛知	知多市勤労文化会館 (外2施設)	佐藤 克明	3			○							
14	大阪	堺市立西文化会館(ウエスティ)	渡辺 昌明	1	○	○	○		○					
			水戸 雅彦	1	○	○	○		○					
★ 15	大阪	堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺) (外4施設)	大石 時雄	1	○		○		○					
			水戸 雅彦	1	○		○		○					
			林 健次郎	1	○		○		○					
16	大阪	豊中市立文化芸術センター	林 健次郎	3					○					
17	兵庫	西宮市民会館	澤村 潤	2					○					
18	和歌山	和歌山県民文化会館	山海 隆弘	2							○			
★ 19	島根	島根県芸術文化センター「グラントワ」 (外12施設)	吉本 光宏	1			○							
20	島根	松江市八雲林間劇場 しいの実シアター	本杉 省三	3				○			○			
21	岡山	玉島市民交流センター	金邊 卓資	3						○				
22	広島	三次市民ホール	岸 正人	3		○	○							
23	福岡	アクロス福岡	柴田 英紀	1	○			○						
24	熊本	あさぎり町須恵文化ホール	近江 哲朗	3							○			
★ 25	熊本	天草市民センター (外1施設)	本田 恵介	2	○	○			○					
26	熊本	宇土市民会館	草加 叔也	3							○			
★ 27	大分	大分県立(iichiko)総合文化センター (外9施設)	矢作 勝義	1					○					
			森 隆一郎	1					○					
28	宮崎	都城市総合文化ホール	間瀬 勝一	2		○				○				
29	沖縄	那覇市新文化芸術発信拠点施設	草加 叔也	3					○					
30	沖縄	浦添市てだこホール	山本 康友	3							○			

実施回数 78回 支援員 31名

館派遣型 22件 22施設
 地域派遣型 8件 41施設
 計 30件 63施設

支援内容実績比較

	(1) 運営方針等に関する指導助言	(2) 年間事業計画に関する指導助言	(3) 個別の自主企画事業の企画制作に関する指導助言	(4) 中期計画(3か年程度)の企画立案に関する指導助言	(5) 劇場・音楽堂等が行う芸術文化活動(創作活動)の企画制作に関する指導助言	(6) 施設の管理・運営に関する指導助言	(7) 施設の修繕・改修計画の企画立案に関する指導助言	(8) 劇場・音楽堂等の新設に関する指導助言	(9) その他劇場・音楽堂等の活性化につながる指導助言
平成30年度実績	6	5	9	2	7	4	9	0	2
平成29年度実績	16	12	17	11	9	20	12	1	5



ここでは平成30年度に実施したもののうち、2事例を紹介します。

実施例①

対象施設所在地

大阪府

実施期間

平成30年7月～10月 計3回 参加職員数 20名

支援員

施設企画制作、広報・マーケティング専門職

分野

劇場・音楽堂等が行う芸術文化活動（創作活動）の企画制作に関する指導助言（広報・宣伝）

応募の経緯

開館準備当初より「公共ホール」での広報経験者が不在だったため、手探りで試行錯誤をしながら広報活動を進めてきた。広報のノウハウや効果的な広報戦略を学ぶため当該事業を活用した。

報告（施設担当者より）

広報担当者はもちろんのこと、今回のレクチャーに参加したスタッフに「広報」というものを考えてもらう大変良い機会になったのが最大の成果であった。

オープン前より施設や自主事業公演認知のための各種広報（記者会見、情報誌の発行、Web・SNSによる情報発信）を行ってきたが、理論や戦略・戦術に基づいた広報ができていなかった。このレクチャーにより、「広報」の重要度、具体的な戦略・戦術の立て方などを学ぶことができた。

実際、支援実施期間中、自主事業公演スタッフとの会話の中で広報に関する話題が増えてきており、より具体的な広報施策も実現に向け動きだしている。今まで行ってきた広報と理論や戦術・戦術に基づいた広報の良いところを掛け合せて実践していきたい。

報告（支援員より）

自主事業の広報をメインテーマに、レクチャーとワークショップを実施した。レクチャーでは“広報”をターゲットやコンテンツごとに分類した上で訴求ポイントを整理し、有効な媒体は何かを考えた。ワークショップでは、来年度、実施すべき広報活動を絞り込んだ。また、広報計画についても職員を中心に具体的な案をまとめることができた。

“広報”を因数分解した上で目的や目標を明確にし、職員が情報共有しながら広報活動を展開しないと同床異夢が起りがちであることも再確認した。あわせて、今まで以上のコミュニケーションが求められることもわかってきた。

今後は、市と協力して、施設広報や普及啓発・人材養成の推進計画を具体的にまとめられることを、最後に提案させていただいた。



実施例②

対象施設所在地

熊本県

実施期間

平成30年9月～11月 計3回 参加職員数 14名

支援員

(公社)全国公立文化施設協会コーディネーター

分野

施設の修繕・改修計画の企画立案に関する指導助言(建物の修繕、改修)

応募の経緯

開館から20年以上が経過しているため、大規模な改修、また特定天井における課題を把握する必要があることから、当該事業を活用した。

報告(施設担当者より)

改修に係る様々な課題について、現在の状況を把握することができたため、非常に良い成果が得られたと感じている。当初検討していた空調設備改修、全照明LED化、ステージバリアフリー化などに加え、舞台吊物や設備等に関するアドバイス等により、非常に多くのことを学ぶことができた。実際に舞台吊物においては、支援員自ら稼働させながら、留意する点等についてアドバイスをいただいた。

改修については、今後、大規模計画に取り組む必要があるため、優先順位を十分に理解しながら、財政的な面や緊急性を要する部分等に配慮し、今回の支援員からのアドバイスを参考にしながら実施していきたい。

報告(支援員より)

今回は特に客席部の天井についての安全性の確保、一般設備の問合せが主たる要請事項であり、特定天井について具体的に解説し、現状を共に確認した。その上で物理的劣化や時代的劣化が見られる舞台設備についても現状を調査して、今後のための提案も含めて支援を行った。

ホールを今後安全に利用されるため、そして災害時等の対応施設として求められる安心・安全な環境を維持・存続することは、設置主体の持つ責務である。更新・改修を着実に実行に移されるよう、今後に期待する。

日常相談業務対応

目的

劇場・音楽堂等が抱える個別課題解決に加え、必要とされる情報やノウハウ提供等を相談を通して行い、解決への道筋を見出していく手助けを行い、劇場・音楽堂等の活性化を多面的に支援する。

実施期間

平成30年5月17日から平成31年3月29日まで

事業内容

(1) 相談の受付方法

来所、電話、ファクシミリ、電子メール等による相談に対応する。

(2) 相談の内容

- 施設の運営及び事業の企画・実施へのアドバイス
- 公演企画・契約がよりスムーズに行えるような仲介及び支援
- 芸術・文化に関する最新の情報の提供
- 施設の改修・新築計画の立て方等へのアドバイス
- その他、劇場・音楽堂等の活性化のために必要な事項

(3) 相談対応者

劇場・音楽堂等及び舞台芸術の専門家、研究者等

(4) 対応時間

原則 10時00分～17時00分

相談結果報告

主な相談事項をFAQ「よくある相談」としてまとめ、広く公開をする。

実施内容

来所による相談……………2件 (平成31年3月1日現在)

- [相談内容] ・文化政策……………1件
 ・改修……………1件

電話、ファクシミリ、電子メール等による相談……………126件 (平成31年2月20日現在)

- [相談内容] ・管理運営……………60件
 (管理24件・指定管理者10件・災害対応7件・ボランティア3件・稼働率他16件)
 ・公演企画……………4件

- 芸術・文化最新情報……………14件
- 改修、新設……………27件
- 講師紹介依頼……………21件
- [相談者] • 設置者(自治体等)……………49件
- 運営者(指定管理者等)……………49件
- その他(研究者、マスコミ、市民等)……………28件

相談内容

1 施設の管理運営

○貸館対応

- 宗教団体・営利目的・反社会的団体(ヘイトスピーチ)等の事前チェックを、他館ではどのように対応しているのか。トラブル事例はないか。
- 会館使用料を滞納している会社から20回の分割で支払いたいとの文書が来たが、認められない。今後どのように対応したらよいか。
- 直営館では、一般事業者から入場券を預かり販売することは可能か。法令違反との記憶があるが、どうか。
- 舞台利用の打合せ時に舞台技術者を立会わせているが、市の担当者からなぜ技術者の立会いが必要か説明を求められている。どう説明したらよいか。
- 親子鑑賞教室では、膝上で鑑賞する幼児は会場の定員に含まれるのか。
- 大型楽器をホールで保管してほしいと利用団体から要望されたが、対応している施設はあるのか。

○指定管理者

- 指定管理者で利用料金制を取っていない施設で、うまく経費を抑えて委託している所を知りたい。
- 指定管理者に民間企業に応募してもらうため、利用料金制の導入状況を知りたい。
- 文化施設が指定管理者制度公募にそぐわない理由を示す文書を探しているが、何か資料などないか。

○災害対応

- 震災対応で即使える標準マニュアルのようなものがほしい。
- 明日開催予定の自主事業は台風が近づいているため中止したいが、費用はどうなるのか。
- 台風でJRが運休したことによる公演中止等の周知は、どのようにしていたのか。

○ボランティア

- 有償ボランティアの事故に備えるボランティア保険には、どのようなものがあるのか。

○その他

- 文化施設を管理する財団の合併例があれば、知りたい。
- 市のホールの稼働率が、他と比べてどの程度か調べたい。

2 公演企画

- 貸館で太鼓の有料興行を実施しているが、小学生で構成される太鼓クラブが出演していることについて、学校関係者から疑義が出された。どう考えたらよいか。

- ・貸館で犬を使った演出をやりたいと依頼があり、許可するか検討している。リスクはあるか。
- ・オープンしたばかりの直営館だが、自主事業のチケット販売を強化したいので、先行事例を知りたい。
- ・舞台上でドローンを使用したいと問合せが増えているので、基準を作りたい。参考事例はないか。

3 芸術・文化に関する最新情報の提供

○文化振興基本計画

- ・文化芸術振興条例の制定に向けて検討委員会を開催するので、講師を紹介してほしい。

○障害者差別解消法

- ・イベントに盲導犬を連れての方が参加するが、当日一般の方への告知や多機能トイレの使用を認めてもよいか。

○健康増進法改正

- ・敷地内で建物以外の喫煙所の設置状況についての調査を、公文協が今後する予定はないか。

○改元対応

- ・5月の新天皇陛下の即位に伴い休日法が改正されるが、利用料金は休日扱いにするのか。

○消費税改定

- ・10月からの消費税増税はもう利用料金に上乗せしてもらってよいものか。それとも国税庁の経過措置の適用となるのか。

○東京オリンピック・パラリンピック大会

- ・東京オリパラ開催中にパブリックビューイングを自主事業として実施したいが、著作権等はどのように対応したらよいか。

4 施設の改修・新築計画

○老朽化に伴う改修工事

- ・開館以来50年を経過し長寿命化か廃止かの検討中なので、最近建てられたホールの建設費を教えてください。
- ・照明や音響等の老朽化や事故等で廃止になった施設はないか。
- ・ホールを改修する場合に利用可能な補助金を教えてください。
- ・築50年以上経っているが、設備の不具合で公演中止や事故、怪我の場合の保険はあるか。
- ・ホールの音響卓を入れ替える予算がついたが、業者の納入品を検収するノウハウがない。どうしたらよいか。

○特定天井

- ・特定天井改修工事を実施したいので、全国的な実施状況や工法を知りたい。

○新設

- ・ホールを新築する場合の検討委員会から竣工までのスケジュールを教えてください。
- ・新設を検討しており建築単価を知りたいので、最近開設された1000席程度の施設リストがほしい。

テーマ別専門家チームの派遣

目的

劇場・音楽堂等にとって喫緊かつ優先度の高い課題に対応した専門家チームを編成し、地域で開催する研修会や講習会等に派遣する。複数の専門家をチームで派遣することにより、よりニーズに適合し、問題解決への道筋につながる効果的な指導・助言等を行う。

派遣の内容

- 複数の劇場・音楽堂等や地方自治体、関係機関・団体等の職員、関係者等を対象にした研修会、講演会、勉強会等に、テーマに沿った専門家チームを講師として派遣する。
- 専門家は、実施内容、実施時間、希望講師等を申込者と話し合いの上、2名～3名程度を派遣する（目安1名1時間～2時間程度）。
 - (A) 伝統芸能事業企画制作
 - (B) 震災対策・危機管理
 - (C) 施設、設備の改修（天井耐震化含む）

対象とする研修会等

劇場・音楽堂等や地方自治体、関係機関・団体等が主催（共催）する研修会、講演会、フォーラム、勉強会等で複数の団体等から参加者を募集するもの。

事業実績

派遣テーマ	(B) 震災対策・危機管理
公演会名	奈良県公立文化施設協議会 自主文化事業情報連絡会及び技術研修会
派遣講師名	大石 時雄 (いわき芸術文化交流館 アリオス 館長) 本間 基照 (MS&AD インターリスク総研株式会社 リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ マネジャー上席コンサルタント)
実施日時	平成30年11月2日(金) 13:30～16:30
会場	奈良県橿原文化会館
参加対象者	奈良県公立文化施設協議会加盟 28 施設
参加者数	20名(12施設)
実施内容	講演「自然災害(地震・大雨・台風)への備えについて」 1) 講義「二つの減災」(講師:大石 時雄) 2) 座学「自然災害(地震・大雨・台風)への備えについて」及び災害想定訓練(講師:本間 基照)

研修教材の製作企画・編集・発行（ハンドブックの発行）

目的

劇場・音楽堂等における施設運営や人材育成等に資するため、時期に即応し、かつニーズの高いテーマの中から一つを選定して、業務遂行や職員研修、自己啓発等に活用できる教材を編集・発行する。

タイトル

劇場・音楽堂等子どものためのプログラム企画ハンドブック

内容

子どものためのプログラムを提供するための企画に役立てると共に、「鑑賞型」だけでなく、「参加型」ワークショップの事例等を紹介し、広く次世代を育成するヒントとする。

編集委員

阪本 洋三 近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻 教授
下山 久 演劇プロデューサー / エーシーオー沖縄 代表
田村 孝子 (公社)全国公立文化施設協会 副会長
美山 良夫 慶應義塾大学名誉教授
森本 真也子 NPO法人子どもと文化全国フォーラム 代表理事

実施内容

- 企画編集会議（第1回）** 平成30年8月22日（水）13:30～15:30
議題：研修教材ハンドブック 編集・発行方針について
タイトル、全体構成、章立て、内容について
各委員の担当（執筆等）について
- 企画編集会議（第2回）** 平成30年10月2日（火）15:00～17:00
議題：タイトル、全体構成、章立て、内容について
各委員の担当（執筆等）について
- 企画編集会議（第3回）** 平成30年12月18日（火）16:00～18:00
議題：タイトルについて
内容（原稿案）について

目次

- 第1章 子どもの成長と文化・芸術の意義
- 第2章 芸術にたずさわるものが次世代のためにできること
- 第3章 子どものためのプログラムの企画と進め方
- 第4章 子どものためのプログラム実践事例（国内編）
- 「こどものためのえんげきひろば」（サザンクス筑後）
 - 「未来のわたしー劇場の仕事ー」（ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会）
 - グランシップ伝統芸能普及プログラム「触れてみよう能楽師」（静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ）
 - 子どものための人形劇活動支援事業（飯田文化会館）
 - 「アリオス・こどもプロジェクト・あそび工房」（いわき芸術文化交流館アリオス）
 - 「こども狂言ワークショップ」「横浜こども狂言会」（横浜能楽堂）
 - 市民創作劇「遠野物語ファンタジー」（遠野市民センター）
 - 「りっかりっか*フェスタ（国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）」（一般社団法人 エーシーオー沖縄）
- 第5章 子どものためのプログラム実践事例（海外編）
- イギリス 文化・芸術の理念実現を目指す劇場の取組と人材
 - ドイツ 子どもと芸術・劇場がつながるードイツの劇場での取組と環境ー
 - アメリカ 次世代のために、より良い社会を目指す舞台芸術NPOの活動
 - アジア 「開かれた劇場」をつくる
- おわりに 「文化の力」「芸術の力」を活かして

仕様・部数

A5サイズ 96ページ 印刷 2,600部

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

3. 研修・交流事業

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会
地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会
スタッフ交流研修事業

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会

目的

劇場・音楽堂等の活性化、地域の文化芸術の振興を目的として、アートマネジメントと舞台技術に関する専門的研修を体系的に実施することにより、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を支援する。

対象

劇場・音楽堂等職員、地方自治体の文化芸術振興行政担当者、アートマネジメント教育関係者、舞台技術関係者、学生、アートマネジメント・舞台技術に関心のある方、一般の方等

開催日

平成31年2月6日(水)から8日(金)まで(3日間)

会場

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

募集期間

平成30年12月5日(水)から平成31年1月17日(木)まで

実施内容

企画会議

企画委員：間瀬 勝一 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー
草加 叔也 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー
柴田 英杞 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー
岸 正人 (公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター

開催日時：平成30年7月12日(木) 13:00～15:00

開催場所：東京都中小企業会館4階 南側会議室

議 題：平成29年度研修会実施状況について
平成30年度研修会の企画について

企画調整会議

モデレーター：伊藤 美歩	(公社)全国公立文化施設協会	コーディネーター	
小川 幹雄	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
岸 正人	(公社)全国公立文化施設協会	コーディネーター	
草加 叔也	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
酒井 誠	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
柴田 英杞	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
鈴木 輝一	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
田村 孝子	(公社)全国公立文化施設協会	副会長	
中川 幾郎	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
中村 よしき	東京芸術劇場 事業企画課	次席	
平野 英俊	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
本間 基照	(公社)全国公立文化施設協会	コーディネーター	
間瀬 勝一	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	
本杉 省三	(公社)全国公立文化施設協会	アドバイザー	(50音順)

企画調整会議(第1回)

開催日時：平成30年10月18日(木) 10:00～12:00

開催場所：東京都中小企業会館4階 南側会議室

議 題：昨年度研修会報告

今年度研修会概要(1) テーマ (2) 基調講演 (3) ファイナルプログラム (4) 各プログラム
今後のスケジュールについて(1) 講師依頼 (2) 印刷物作成 (3) 各種提出物期限
その他(運営委託先、撮影・録音、その他について)

企画調整会議(第2回)

開催日時：平成31年1月7日(月) 14:00～16:00

開催場所：東京都中小企業会館4階 南側会議室

議 題：研修会概要説明

申込み状況
連絡事項
今後のスケジュールについて
報告書の作成について
各プログラム個別打合せ

研修会

開催日：平成31年2月6日(水)から8日(金)まで

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：1,179名(延べ4,134名)

プログラム一覧

2月6日(水)

	11:00~11:15	開講式
	11:15~12:00	共通 基調講演 日本における文化と観光
アートマネジメント関連講座	13:00~15:00	企画制作 中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開 安全管理 公立文化施設の大規模改修 -災害への備えとバリアフリー化に向けて- ワークショップ/企画制作 指導者養成演劇ワークショップ -手から手へコミュニケーションをつなぐ-
	15:30~17:30	文化政策 劇場・音楽堂等及び芸術団体の評価制度を考える -日本芸術文化振興会におけるアーツカウンシル機能の成果報告- 安全管理 自然災害(地震、風水害)への備え。 -平成29年度「地震だ!!どうする!?劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック」のポイントと、業務継続計画(BCP)の策定- プレゼンテーション(演劇・舞踊) 劇場・ホールの自主制作公演の紹介 演劇・舞踊編 -2020年度以降の連携と全国展開に向けて-
舞台技術 関連講座	13:00~15:00	労働安全衛生法施行令の一部改正 -高所作業のあり方を学ぶ-
	15:30~17:30	劇場・音楽堂のITV設備の比較と課題検討
人材養成 基礎講座	13:00~14:15	講座1 第1章 劇場・ホールとは
	14:30~17:30	講座2 第2章 施設運営とは 第3章 劇場・ホールの事業とは

2月7日(木)

アートマネジメント 関連講座	10:00～12:00	<p>組織・事業の管理運営 マーケティング入門</p> <p>文化政策 自治体文化政策の基本を理解する - 劇場・音楽堂経営やその実務に携わる人のために -</p> <p>プレゼンテーション(音楽) 劇場・ホールの自主制作公演の紹介 音楽編 - 2020年度以降の連携と全国展開に向けて -</p>
	13:00～15:00	<p>組織・事業の管理運営 「働き方改革」は文化施設に何をもたらすか</p> <p>ワークショップ/企画制作 親子のための伝統芸能ワークショップーことば遊びとリズム遊びの表現ー</p> <p>企画制作 「観劇サポート」とは！</p>
	15:30～17:30	<p>企画制作 “ハコ”を活かして！</p>
	15:30～18:00	<p>企画制作 企画立案と若手人材の活用 - 邦楽デモンストレーションと舞台のしつらえ -</p>
舞台技術 関連講座	10:00～12:00	舞台美術家の仕事、舞台美術の活かし方・可能性
	13:00～15:00	特定ラジオマイクの運用とこれからの課題 - 劇場で使うワイヤレスマイクの現状を知り、歴史と未来を探る -
	15:30～17:30	最新の劇場から舞台技術について学ぶ - 札幌文化芸術劇場 hitaru -
人材養成 基礎講座	10:00～12:00	講座3 第4章 劇場空間とは
	13:00～15:00	講座4 第5章 ①舞台業務の概要
	15:30～17:30	講座5 第5章 ②舞台設備

2月8日(金)

10:00～11:45	<p>共通 ファイナルプログラム 近藤良平のダンス語り</p>
11:45～12:00	閉講式

地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会

目的

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（平成24年法律第49号。以下「劇場法」という。）及び同指針に基づき、研修プログラムを策定し、劇場・音楽堂等の企画力、創造力、運営能力、技術の強化や、職員の自発的な研鑽と自己啓発を促すため、若手職員等を対象とした研修会を行う。また、当該地域に働く職員の交流を深め、相互のネットワーク形成及び情報交換の場とすることを目的とする。

(1) アートマネジメント研修会

各地域において、劇場・音楽堂等の優れた自主事業等を企画する能力、管理運営能力の養成を図るため、劇場・音楽堂等の若手職員等を対象とした研修会を実施する。

(2) 舞台技術研修会

各地域において、劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門的知識や技術の習得を図るため、舞台技術初任者を対象とした舞台技術研修会を実施する。

開催期間

平成30年8月～平成31年2月

対象者

- ・劇場・音楽堂等に勤務する若手職員（指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運営業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む。）
- ・地方自治体の文化芸術行政担当職員及び劇場・音楽堂等施設関係者
- ・民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術やアートマネジメントの教育関係者・学生等、また関心のある市民等

開催場所

全国7地域
(北海道地域、東北地域、関東甲信越静地域、東海北陸地域、近畿地域、中四国地域、九州地域)

実施日数

原則1日以上

地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 実施一覧

地域別アートマネジメント研修会

参加人数計 371名 214施設

地域	日程	会場	参加者数
北海道	平成30年8月28日(火)～8月29日(水)	北広島市芸術文化ホール	23名 15施設
東北	平成30年10月4日(木)～10月5日(金)	五所川原市ふるさと交流圏民センター	25名 16施設
関東甲信越静岡	平成31年1月16日(水)～1月17日(木)	国立劇場	83名 53施設
東海北陸	平成31年1月24日(木)～1月25日(金)	富山県民会館 ※舞台技術研修会と同日開催	47名 30施設
近畿	平成31年2月14日(木)～2月15日(金)	吹田市文化会館メイシアター ※舞台技術研修会と合同開催	88名 33施設
中四国	平成31年1月23日(水)～1月24日(木)	おかやま旧日銀ホール(ルネスホール)	43名 30施設
九州	平成30年9月11日(火)～9月12日(水)	長崎ブリックホール(国際会議場)	62名 37施設

地域別劇場音楽堂等舞台技術研修会

参加人数計 463名 206施設

地域	日程	会場	参加者数
北海道	平成30年10月24日(水)～10月25日(木)	音更町文化センター(ふれあいホール)	20名 15施設
東北	平成30年11月15日(木)～11月16日(金)	名取市文化会館	48名 31施設
関東甲信越静岡	平成30年11月12日(月)	ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)	186名 55施設
東海北陸	平成31年1月24日(木)～1月25日(金)	富山県民会館 ※アートマネジメント研修会と同日開催	30名 22施設
近畿	平成31年2月14日(木)～2月15日(金)	吹田市文化会館メイシアター ※アートマネジメント研修会と合同開催	88名 33施設
中四国	平成31年1月17日(木)～1月18日(金)	高知県立県民文化ホール	54名 32施設
九州	平成30年12月6日(木)～12月7日(金)	宜野座村文化センター(がらまんホール)	37名 18施設

アートマネジメント研修会報告書

北海道

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 北海道地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年8月28日(火)～8月29日(水)
会場	北広島市芸術文化ホール 〒061-1121 北海道北広島市中央6丁目2-1
事務局担当施設	北広島市芸術文化ホール
参加人数	23名(参加施設 15施設)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
8/28 (火)	13:00～13:30	受付	
	13:30～13:40	開講式 主催者挨拶 ほか	
	13:50～15:05	(講義Ⅰ) 「これからの劇場・ホールについて」 ～我が国の文化政策の動向から～	(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー 柴田 英杞 氏
	15:15～16:30	(講義Ⅱ) 「公立文化施設の運営のポイントについて」 ～全国の事例紹介と助成金について～	
	16:40～17:10	(フリートーク)「各文化施設からの情報提供」	
	18:00～	情報交換会	
8/29 (水)	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:30	(講義Ⅲ) 「公立文化施設における広報の役割」	いわき芸術文化交流館アリオス 経営総務課 広報グループ チーフ 長野 隆人 氏
	10:45～11:45	(講義Ⅳ) 「鑑賞者開発のためのマーケティングとは」	
	11:45～12:00	閉講式 主催者挨拶	

東北

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 東北地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年10月4日(木)～10月5日(金)
会場	五所川原市ふるさと交流圏民センター 〒037-0065 青森県五所川原市字幾世森24-15
事務局担当施設	五所川原市ふるさと交流圏民センター
参加人数	25名(参加施設16施設)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
10/4 (木)	13:00～14:00	受付	
	14:00～14:10	開講式	
	14:10～15:10	「多目的ホールで伝統芸能を上演するために」 ～芸能と演技空間の微妙な関係～	(公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター 滝 善光 氏
	15:10～15:20	休憩	
	15:20～16:20	「偉大なる先人たちの遺産 立佞武多」	立佞武多の館 館長 菊地 忠 氏
	16:20～16:30	移動	
	16:30～16:50	立佞武多の館にて現地講義	立佞武多の館 館長 菊地 忠 氏
	16:50～17:00	事務連絡	
	18:00～20:00	情報交換会	
10/5 (金)	8:45～9:00	受付	
	9:00～9:30	移動	
	9:30～11:30	太宰治記念館「斜陽館」 津軽三味線会館	説明者 館職員
	11:30～11:40	閉講式	

関東甲信越静

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 関東甲信越静地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成31年1月16日(水)～1月17日(木)
会場	国立劇場 〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
事務局担当施設	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
参加人数	83名(参加施設 53施設)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
1/16 (水)	13:00～14:00	受付・伝統芸能情報館 各自視察	
	14:15～14:30	開講式	
	14:30～16:00	基調講演 「東京オリンピック・パラリンピックへ向けた国立劇場の取り組み」	日本芸術文化振興会理事 大和田 文雄 氏
	16:00～16:30	休憩・移動	
	16:00～17:00	歌舞伎公演終演後のバックステージ視察	国立劇場職員
	17:30～17:45	閉講式	
	17:45～	情報交換会	
1/17 (木)	10:30～12:00	(講義Ⅰ) 「舞台監督、美術について」	国立劇場制作部 舞台監督 美術課長 田中 良一 氏 国立劇場制作部 舞台監督 美術課美術係長 豊住 ゆかり 氏
	12:00～13:00	休憩	
	13:00～14:00	(講義Ⅱ) 「舞台について」	国立劇場舞台技術部 舞台課長 田中 浩 氏 国立劇場舞台技術部 舞台課小劇場舞台係主任 秦 愛二郎 氏
	14:00～14:15	休憩	
	14:15～15:15	(講義Ⅲ) 「照明について」	国立劇場舞台技術部 技術課長補佐 山口 泉 氏
	15:15～15:30	休憩	
	15:30～16:30	(講義Ⅳ) 「音響について」	国立劇場舞台技術部 副部長 石井 眞 氏
	16:30～16:45	閉講式	

東海北陸

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 東海北陸地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成31年1月24日(木)～1月25日(金)
会場	富山県民会館 〒930-0006 富山県富山市新総曲輪4-18
事務局担当施設	愛知県芸術劇場
参加人数	47名(参加施設 30施設)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
1/24 (木)	12:45～13:15	受付	
	13:15～13:30	開講式	
	13:30～15:00	研修会① 「文化事業の成果をマネジメントする ～社会的インパクト評価～」	ケイスリー(株) 最高執行責任者 落合 千華 氏
		休憩	
	15:15～17:00	【東海北陸支部研修会】	
	17:15～17:45	施設見学会	
	17:45～19:00	情報交換会	
1/25 (金)	10:00～10:30	受付	
	10:30～12:00	研修会② 「地域アーツカウンシルと劇場 ～地域に求められる中間支援機能と専門人材～」	(公財)新潟市芸術文化振興財団 アーツカウンシル新潟 プログラム・ディレクター 杉浦 幹男 氏
	12:00～13:00	昼休憩	
	13:00～15:00	研修会③ ディスカッション 「文化施策と指定管理 ～名古屋市文化振興事業団のイマとミライ～」	プレゼンター: (公財)名古屋市文化振興事業団事業部 事業推進課長 島崎 逸哉 氏 同財団 文化振興部主幹 宮田 健 氏 パネリスト: (公財)羽島市地域振興公社 企画振興課係長 大塚 浅子 氏 (公財)富山県文化振興財団 事業企画課長 笹谷 努 氏 前金沢芸術創造財団 事業課長 近藤 恭代 氏 モデレーター: (公財)三重県文化振興事業団 総務部総務課長 安田 賢司 氏
	15:00～15:15	閉講式	

近畿

近畿ブロックは、アートマネジメント研修会と舞台技術研修会を合同で実施しました。

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 近畿地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術合同研修会
趣旨	近畿地域の公立文化施設の職員等を対象として、アートマネジメント能力と技術能力の向上に関する専門的な研修を行い、地域の文化芸術の振興と公立文化施設の活性化に資することを目的とする。
開催期間	平成31年2月14日(木)～2月15日(金)
会場	吹田市文化会館メシアター 〒564-0041 大阪府吹田市泉町2丁目29番1号
事務局担当施設	吹田市文化会館メシアター
参加人数	88名(参加施設 33施設 他6)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
2/14 (木)	12:30	受付	
	13:15～13:25	開会	
	13:25～14:25	講義Ⅰ 劇場における映像分野の進出度	(公財) 浜松市文化振興財団 文化事業課長 後藤 康志 氏
	14:25～14:40	休憩(15分)	
	14:40～16:20	実習Ⅰ 劇場における映像機器の初級から実践まで	ヒビノ(株) 庄司 至 氏 (株)セカンドステージ 西脇 丈也 氏
	16:20～16:35	休憩(15分)	
	16:35～17:35	実習Ⅱ パネルディスカッション 「劇場における映像分野の現状」	コーディネーター&パネラー: 大阪スクールオブミュージック 高等専修学校長 喜多 静一郎 氏 パネラー: 赤星 マサノリ 氏 野崎 みどり 氏
	17:50～19:10	情報交換会	
2/15 (金)	10:00	受付	
	10:30～11:10	実習Ⅲ 映像を使用したミニコンサート	ポルトガルギター&マンドリン マリオネット
	11:10～11:25	休憩(15分)	
	11:25～12:30	講義Ⅱ 講演 「文化芸術基本法」について ～「文化芸術振興基本法」からここが変わった	神戸大学大学院 教授 藤野 一夫 氏
	12:30～13:25	休憩(55分)	
	13:25～14:25	実習Ⅳ 地域の現場から～アートを縁にして、この街で	NPO法人こえとことばとこころの部屋・詩人 上田 假奈代 氏
	14:25～14:35	休憩(10分)	
	14:35～15:45	実習Ⅴ パネルディスカッション 「指定管理者制度の現状と行方」	コーディネーター&パネラー: 神戸大学大学院 教授 藤野 一夫 氏 パネラー: 川西市みつなかホール 常務理事 岡本 健一 氏 香川県民ホール 館長 米田 優 氏
15:45～15:50	閉会		

中四国

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 中四国地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成31年1月23日(水)～1月24日(木)
会場	おかやま旧日銀ホール(ルネスホール) 〒700-0824 岡山県岡山市北区内山下1-6-20
事務局担当施設	おかやま旧日銀ホール(ルネスホール)
参加人数	43名(参加施設30施設)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
1/23 (水)	13:40～14:55	「ベネッセアートサイト 直島の活動の軌跡と瀬戸内国際芸術祭」 ～現代アート活動による地域活性化～	(株)直島文化村 代表取締役社長 笠原 良二 氏
	15:05～16:20	「官民協働によるルネスホールの再生」 ～ルネス方式による文化振興活動～	NPO法人バンクオブアーツ岡山 特別顧問 黒瀬 仁志 氏 小玉 康仁 氏 前理事長 半田 正巳 氏
	16:30～17:30	「オペラ歌手の発声の仕組みについて」	テノール歌手 榎木 和敬 氏
1/24 (木)	9:15～10:15	「地域の文化芸術コレクション研究を大学が主導するケースにおいて、市民に還元する手法としてのアートイベントの運営に関する報告」	岡山大学大学院教育学研究科 《国吉康雄研究講座》准教授 才士 真司 氏
	10:20～12:00	国吉康雄の作品見学及び作品説明	才士 真司 氏

九州

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 九州地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の職員等を対象として、アートマネジメントに関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年9月11日(火)～9月12日(水)
会場	長崎ブリックホール(国際会議場) 〒852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38
事務局担当施設	熊本県立劇場
参加人数	62名(参加施設 37施設)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
9/11 (火)	13:30～13:50	受付	
	13:50	開講式	
	14:00～17:00	セミナーⅠ 誰もが文化芸術を楽しむことができる劇場 「インクルーシブ・シアター」について①	国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」 プロデューサー 鈴木 京子 氏 (株)リアライズバリアフリー イベントディレクター 南部 充央 氏
	18:00～20:00	情報交換会	
9/12 (水)	9:00～ 9:20	受付	
	9:30～11:30	セミナーⅡ 誰もが文化芸術を楽しむことができる劇場 「インクルーシブ・シアター」について②	鈴木 京子 氏 南部 充央 氏 長崎市心身障害者団体連合会 日田 陽子 氏
	11:30～	閉講式	

舞台技術研修会報告書

北海道

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 北海道地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年10月24日(水)～10月25日(木)
会場	音更町文化センター(ふれあいホール) 〒080-0302 北海道河東郡音更町木野西通15丁目8番地
事務局担当施設	音更町文化センター
参加人数	20名(参加施設15施設)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
10/24 (水)	13:00～13:30	受付	
	13:30～13:40	(開講式) 主催者挨拶 ほか	
	13:40～15:00	(講義Ⅰ) 北海道における災害予知 「最新の防災情報(地震・津波・火山・気象など)」 ～観客への避難指示の心構え～	気象庁 釧路地方気象台 地震津波防災官 佐鯉 央教 氏
	15:10～18:30	(講義Ⅱ) 劇場・音楽堂等人材養成講座テキスト 基礎編 「舞台作業の危険と管理」 管理者が知っておきたい高所作業	(一社)日本劇場技術者連盟 会員 山形 等 氏 フリー 吉田 仁志 氏 帯広市民文化ホール 舞台技術係 係長 児山 徹 氏 ㈱北海道共立 夷石 徳男 氏
	18:00～	情報交換会	
10/25 (木)	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:30	(講義Ⅲ) 舞台管理者の運営マニュアル ～舞台施設利用者(主催者)への対応～	山形 等 氏 児山 徹 氏
	10:40～11:50	(講義Ⅳ) 意見交換	夷石 徳男 氏
	11:50～12:00	(閉講式) 主催者挨拶	

東北

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 東北地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年11月15日(木)～11月16日(金)
会場	名取市文化会館 〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田520番地
事務局担当施設	名取市文化会館
参加人数	48名(参加施設 31、その他 1社)

研修計画・日程

	日時	内容	講師等
11/15 (木)	13:00～13:30	受付	
	13:30～13:40	開講式	(公財)名取市文化振興財団 理事長 三浦 亮一 氏 大館市民文化会館 館長 日景 省蔵 氏
	13:40～15:40	講義Ⅰ「初心者のための『舞台』」	埼玉会館 館長兼シニアテクニカルアドバイザー 山海 隆弘 氏
		休憩	
	16:00～17:30	講義Ⅱ「舞台機構について」	三精テクノロジーズ(株) 舞台機構事業本部 営業部 部長 木村 文一 氏 同社 技術研究所 課長 井立 尚 氏 同社 仙台営業所 所長 石田 貴裕 氏
	18:30～20:30	情報交換会	
11/16 (金)	9:00～9:20	受付	
	9:20～10:20	講義Ⅲ「大規模改修について」 1	コーディネーター： 仙台高等専門学校 建築デザインコース 教授 坂口 大洋 氏
		休憩	パネリスト： 山海 隆弘 氏
	10:30～11:50	講義Ⅲ「大規模改修について」 2	(公財)武蔵野文化事業団 常務理事・事務局長 佐々木 岳 氏
	11:50～12:00	閉講式	日景 省蔵 氏

関東甲信越静

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 関東甲信越静地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を主な対象とし、技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年11月12日(月)
会場	ホクト文化ホール(長野県県民文化会館) 〒380-0928 長野県長野市若里一丁目1番3号7
事務局担当施設	長野県県民文化会館
参加人数	186名(参加施設 55施設)

研修計画・日程

日時	内容	講師等
11/12 (月)	10:00～18:00	パネル展示 長野県建設部 施設課 長野県官公庁営繕技術連絡協議会
	11:00～11:30	※希望者による現場事前見学 長野県建設部 施設課 担当者 長野県県民文化会館 担当者
	12:30～13:00	受付
	13:00～13:15	開講式 関東甲信越静支部技術部 会長 (長野県県民文化会館 館長) 金沢 茂 氏 長野県官公庁営繕技術連絡協議会 会長 (国土交通省関東地方整備局 長野営繕事務所長) 大谷 信広 氏
	13:15～14:45	講義Ⅰ 基調講演 「既存文化施設の耐震化の重要性について」 日本耐震天井施工協同組合 技術委員長 塩入 徹 氏
	14:45～14:55	休憩
	14:50～16:20	講義Ⅱ 事例報告 「天井耐震改修について」 ～実際の事例から～ ・耐震改修方法(準構造化)について ・耐震化の取り組みについて ・改修工事について 設計者:㈱日建設計 設計部 LCD設計部 主管 佐々木 敬大 氏 長野県建設部 施設課 課長 荒城 功次 氏 課長補佐兼施設第二係長 北島 嘉人 氏 施工者:北野建設㈱ 建築部 工事所長 竹下文也 氏
	16:20～16:30	質疑応答
	16:30～17:20	現場見学 長野県建設部 施設課 職員 長野県県民文化会館 職員
	17:20～17:30	閉講式
17:30～18:00	更新舞台設備見学と情報交換 (舞台照明・舞台音響) 長野県県民文化会館 職員	

東海北陸

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 東海北陸地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成31年1月24日(木)～1月25日(金)
会場	富山県民会館 〒930-0006 富山県富山市新総曲輪4-18
事務局担当施設	愛知県芸術劇場
参加人数	30名(参加施設 22施設)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
1/24 (木)	12:45～13:15	受付	
	13:15～13:30	開講式	
	13:30～15:00	研修会① 「イベント映像の基礎(プロジェクターの 設置調整、最近の映像信号について)」 (講演)	(株)オトムラ 榎本 博行 氏
		休憩	
	15:15～17:00	【東海北陸支部研修会】	
	17:15～17:45	施設見学会	
	17:45～19:00	情報交換会	
1/25 (金)	10:00～10:30	受付	
	10:30～12:00	研修会② 「もう一度基礎からのホール照明設備」	(公財)富山市民文化事業団 富山市芸術文化ホール(オーバードホール) 舞台技術課 照明アドバイザー 渡部 良一 氏
	12:00～13:00	昼休憩	
	13:00～15:00	研修会③ 「現在要求されているホールの照明設備」	渡部 良一 氏
	15:00～15:15	閉講式	

中四国

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 中四国地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成31年1月17日(木)～1月18日(金)
会場	高知県立県民文化ホール 〒780-0870 高知県高知市本町4-3-30
事務局担当施設	高知県立県民文化ホール
参加人数	54名(参加施設 32施設、その他 3団体)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
1/17 (木)	14:00～14:30	受付	
	14:30～14:40	開講式	
	14:40～14:50	講義Ⅰ 「ホール管理者として知っておきたいこと」	(公社)日本照明家協会四国支部 沖田 考文 氏
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～17:10	講義Ⅱ 「舞台技術者が知っておきたい照明」	(株)松村電機製作所 升崎 宏昭 氏
	18:30～20:30	情報交換会	
1/18 (金)	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:40	討論会 「舞台技術者が知っておきたい電源」	高知市文化プラザかるぼーと 副館長 久川 俊秀 氏 TOA(株) 松本 泰 氏 ヤマハサウンドシステム(株) 兼子 紳一郎 氏
	10:40～10:50	休憩	
	10:50～12:00	対談 「舞台技術者が知っておきたい音響」	久川 俊秀 氏 (株)エス・シー・アライアンス サウンドクラフト エンジニアリング 丹尾 隆広 氏
	12:00～12:10	閉講式	

九州

実施要項

事業名	平成30年度文化庁委託事業 九州地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
趣旨	劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員等を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	平成30年12月6日(木)～12月7日(金)
会場	宜野座村文化センター(がらまんホール) 〒904-1302 沖縄県国頭郡宜野座村宜野座314-4
事務局担当施設	佐賀市文化会館
参加人数	37名(参加施設18施設)

研修計画・日程

日時		内容	講師等
12/6 (木)	14:00～14:30	受付	
	14:30～14:40	開講式	
	14:40～16:10	講座Ⅰ 音響の基礎知識と劇場システムの概要	(公財)高岡市民文化振興事業団 事務局 エグゼクティブ・プロデューサー 山本 広志 氏
	16:10～16:20	休憩	
	16:20～17:30	ワークショップⅠ 舞台音響作業の実際	山本 広志 氏
12/7 (金)	9:15～9:30	受付	
	9:30～10:30	講座Ⅱ 照明システムの基礎知識	(公財)静岡県文化財団 総務課参事兼事業課テクニカルディレクター 山田 真理 氏
	10:30～10:45	休憩	
	10:45～11:45	ワークショップⅡ 照明システムの基礎知識	山田 真理 氏
	11:45～12:00	閉講式	

スタッフ交流研修事業

目的

劇場・音楽堂等のアートマネジメントや舞台技術等の専門性を向上させることを目的に地域の劇場・音楽堂等において中心的役割を担う職員を、優れた活動を行う他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行う。

事業内容

(1) 実務者派遣研修

地域の劇場・音楽堂等において、アートマネジメント及び舞台技術を担当している中堅職員を、優れた活動を行っている他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行う。

(2) 実務者相互派遣研修

劇場・音楽堂等に勤務する職員を相互に派遣し、共通の問題の改善・向上を目的に、実務研修や交流を行う。

(3) 実務者交換研修

劇場・音楽堂等に勤務する職員を1か月～6か月程度の中期に渡って相互に派遣し、実務に従事しながら研修や交流を行う。

派遣期間

(1) 実務者派遣研修 (2) 実務者相互派遣研修

平成30年7月10日(火)から平成30年12月31日(月)のうち、7～14日間程度。

(3) 実務者交換研修

平成30年7月10日(火)から平成31年1月31日(木)のうち、1～6か月間程度。

補助額

(1) 実務者派遣研修

[研修生] ① 旅費交通費：往復の交通費

② 宿泊費：宿泊を伴う場合(宿泊費の2分の1、かつ1派遣につき3万円を限度)

[受入施設] 指導謝金：1日につき上限15,300円

(2) 実務者相互派遣研修

[研修生] ① 旅費交通費：往復の交通費

② 宿泊費：宿泊を伴う場合(宿泊費の2分の1、かつ1派遣につき3万円を限度)

(3) 実務者交換研修

[研修生] 宿泊費：宿泊を伴う場合(宿泊費の実費相当額かつ1か月当たり6万円を限度とし、1か月に満たない期間については日割計算する。)

応募期間

平成30年5月17日(木) から平成30年6月12日(火) まで
再募集 平成30年9月14日(金) から平成30年10月5日(金) まで

実施内容

実務者派遣研修 1件

派遣元

金沢市文化ホール(公益財団法人金沢芸術創造財団)

研修生名

坂東 渉

受入先

埼玉会館/彩の国さいたま芸術劇場(公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

研修期間

平成30年7月27日(金) から平成30年8月4日(土) のうち、計8日間

研修概要

埼玉会館、彩の国さいたま芸術劇場の舞台関係設備とその運用について見聞し、自館での運営に役立つと思われる事柄について理解を深める。また、音響についての基本的な機器操作手順と音響スタッフとしての心得を、実際の現場の中で体得する。

研修生の感想(この研修で得られた成果)

この研修では、自主事業や貸館事業といった違う形態での催し物、また、埼玉会館と彩の国さいたま芸術劇場という性質の異なる会館での様々な催し物を体験する事で、それぞれの立場での音響スタッフとしての動き方というものを学んだ。また、仕込みからリハーサル、本番という流れを音響スタッフと行動を共にする事で、今何をすべきか、また、何に気を付けなければいけないかという事を学んだ。

Ⅱ 全国劇場・音楽堂等職員 アートマネジメント・舞台技術研修会 記録

共通

基調講演

日本における文化と観光

2月6日(水) 11:15~12:00 カルチャー棟 小ホール

〔講師〕デービッド・アトキンソン (株)小西美術工芸社 代表取締役社長

〔司会〕松本辰明 (公社)全国公立文化施設協会 専務理事兼事務局長

日本の文化は、今、経済とともに大きな転換期を迎えている。日本において今後、生産年齢人口が半減するからである。税金を払う層が減少し、一方高齢者は増加する。年金や医療費をどう賄うか、国の借金にどう対応するかなど課題が多く、こうした背景から文化予算も削減されている。問題解決のためには、海外から人を誘致して負担を外国人にも求めるしかない。文化の将来を維持するために、観光戦略に注力する必要がある。

日本が観光戦略をとるには、発想の転換も必要である。寺社詣でや伝統芸能など観光には日本の文化資源が活かされるが、まず解説の多言語化が必要である。観光客は楽しむために日本を訪れる。内容が理解できるかどうかは重要である。案内板を設置すること、多言語で解説することを“設備投資”と考えて取り組んでほしい。

またチケットを入手する際の利便性も大切である。例えば、ロンドンには一日の催事が一堂に並べられ、チケットの売買ができるビューローがある。

SNSが発達した現在、内容さえ面白ければ観光客は自分で探してやって来る。文化施設は展示・演目こそを磨くべきである。その際、内容も趣味の世界に繋がるなど、多様性があるのが望ましい。例えば、世界で最も愛好者が多い趣味は釣りである。日本は釣りをめぐる環境が充実しているのだから、それを活かす発想があってもいい。さらに観光客が夜に観光できるスポットが少ないなどの声もある。発想次第でいくらでも多彩な取り組みができる。

日本の観光収入はここ数年で飛躍的に伸びている。財務省も文化財の位置づけを考え直し、観光資源として助成を増やしつつある。自らの施設の魅力を磨き上げれば、将来は輝くものとなるだろう。



デービッド・アトキンソン氏



デービッド・アトキンソン (株)小西美術工芸社 代表取締役社長
1965年イギリス生まれ。オックスフォード大学(日本学専攻)卒業後、大手コンサルタント会社や証券会社を経て、1992年ゴールドマン・サックス証券会社入社。大手銀行の不良債権問題をいち早く指摘し、再編の契機となった。同社取締役を経てパートナー(共同出資者)となるが、2007年退社。2009年に国宝・重要文化財の補修を手掛ける小西美術工芸社入社、2014年に代表取締役社長に就任し現在に至る。1999年に裏千家に入門し、2006年に茶名「宗真

(そうしん)」を拝受。2016年 財界「経営者賞」、2018年総務省「平成29年度ふるさとづくり大賞個人表彰」、日本ファッション協会「日本文化貢献賞」受賞。著書は「新・観光立国論」(山本七平賞、不動産協会賞)、「世界一訪れたい日本のつくりかた」、「新・生産性立国論」(以上東洋経済新報社)など多数。日本遺産審査委員、迎賓館(迎賓館赤坂離宮・京都迎賓館)アドバイザー、二条城特別顧問、観光戦略実行推進タスクフォース有識者メンバーなどを務めている。

アートマネジメント 企画制作

中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開

2月6日(水) 13:00~15:00 センター棟 101号室

[講師] 小西昌幸(創世ホール 元館長) 出口亮太(長崎市チトセピアホール 館長)
[モデレーター] 岸正人((公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長)

資金・人手不足の中、いかにして充実した事業を行えるかが中小規模館の課題である。低予算でユニークな自主事業を行う小西氏、出口氏から事例を含め紹介があった。共通項としては、利用可能な施設部分を多目的に活用して、チケット等収入のみで事業経費をまかなえる内容や規模の事業を企画し、年間を通じて展開することにより収支均衡をはかること。そのための経費削減策として、①出演者等への直接交渉による依頼 ②チラシ等の宣材自作やインターネット利用による広報展開 ③近隣の施設とネットワーク開催による交通宿泊費の分担 ④設置自治体内の他部署や地域内の他セクターとの連携や協同などである。具体例として、ロビーで若手による落語会を行い、一体感があると好評を得た出口氏の事例が紹介された。また、同時代性のある、いわゆる“尖った”企画により施設の独自性を発揮するとして、小西氏によるアイルランド音楽や遠藤ミチロウコンサートなどの報告があった。さらに、自治体直営館での実行委員会開催による利益を残す開催形態などについても説明された。

また鑑賞事業を単体で行うのではなく、関連トークや食イベントなどに結びつけた事例も紹介され、「予算ゼロだから」と諦めるのではなく、むしろ中小規模館ならではの機動力を活かした活動への示唆が行われた。



小西昌幸氏



出口亮太氏



岸正人氏

小西昌幸(創世ホール 元館長)

1956年3月30日徳島県北島町生まれ。1979年北島町役場就職。産業課、税務課等を経て、94年8月から北島町立図書館・創世ホールで企画広報に従事。2003年から2012年迄、館長。公務員最後の4年間は町教委事務局長～教育次長を務めつつ、創世ホールの企画に関与。退職後、2年間ホール囑託。2018年4月から図書館等協議会委員長&サポーターとして館の企画広報に関わる。独自性の高い企画で知られる。海野十三の会副会長。先鋭疾風社代表。先端的硬派雑誌『ハードスタッフ』編集発行人。日本推理作家協会会員。徳島アイルランド音楽愛好会会員。徳島謄写印刷研究会事務局長。共著に南陀楼綾繁編『編む人』(ビレッジプレス)など。

出口亮太(長崎市チトセピアホール 館長)

1979年長崎市生まれ。東京学芸大学で博物館学を学ぶ。表参道・桃林堂画廊の運営、長崎歴史文化博物館の教育普及研究員を経て公共ホール管理会社・ステージサービス入社。2015年に若干35歳で長崎市チトセピアホール館長に就任、60本あまりの自主事業を実施。先鋭的な企画を外資資金に頼らず独立採算で実施する事業計画が、指定管理者制度下の地方中小規模館の先進的な運営

スタイルとして注目を集める。近年では大学や医療福祉機関、NPOなど他ジャンルとの協働事業を展開しつつ、現場の知見をもとにホール運営についての講演を各地の大学、文化施設協議会等で行う。また、近隣の施設・団体と連携した事業巡回のネットワークづくりも行っている。

岸正人

(公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長

1986~96年青山スパイラルにて施設運営と制作に携わる。フリーランスを経て、98年より世田谷パブリックシアターにて制作や貸館運営を担当。2001年秋より山口情報芸術センターの開設準備を担い、開館後は制作課長として、施設特性であるメディアを取り入れたダンス・演劇の滞在制作や映画上映などを統括。08年度より神奈川芸術劇場の開設準備を行い、開館後は広報営業課長、財団総務課にて企画調整等を行う。12年度よりあうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)支配人、16年度よりの兼務を経て現職。区が今年11月に開館を予定する1,300席の新ホールの開設準備中。玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科非常勤講師、公文協理事。

アートマネジメント 安全管理

公立文化施設の大規模改修 —災害への備えとバリアフリー化に向けて—

2月6日(水) 13:00~15:00 センター棟 102号室

〔講師〕 関山知子(茅ヶ崎市 文化生涯学習部 文化生涯学習課長)

〔モデレーター〕 本杉省三(日本大学 理工学部 特任教授)

建物のバリアフリー化、また耐震補強など災害対策の必要性から大規模改修を迫られている文化施設が今日多数ある。

このプログラムでは、2018年、計画から10年をかけて大規模改修を終えた茅ヶ崎市民文化会館の事例を講師の関山氏より聞く。改修に至る経緯、検討委員会の設置、プロポーザル方式による設計者の選定、改修箇所、工事の進捗状況、その後の反響などがきめ細かく報告された。

同館では、改修工事でロビーをバリアフリー化、大小ホールの座席を拡幅、音響設備改修、練習室の増設・改善などを行った。途中、計画の延伸があるなど、想定外の事態に見舞われることもあった。報告では、総工費、耐震性能の推移などだけでなく、改修中ピアノなど音響機器の保管に費用がかかること、閉館中の業務、アウトリーチなどにも触れられた。

またモデレーター本杉氏からは、全国10施設の改修事例調査の報告が行われた。それにより明らかになったことは、大規模改修計画がスタートしてから工事が完了しリニューアルオープンするまでに約10年近い歳月がかかること、職員の異動もある中、関係者間でねばり強い協議が必要であること、などである。また改修箇所には、客席天井他、客席通路に手すりを設けるなどのケースが多数みられた。

さらに施設の大規模改修には、3つの検討方式がある。庁内で検討する、委員会を設けて広く意見を募る、民間の資金を導入・検討するの3ケースである。この中で、改修の目的として単に施設の老朽化対策でなく施設の機能向上をめざす割合は、委員会形式が最も高かった。しかし改修に際し、他の改修事例を見る例は少なく、さらなる情報公開・情報収集が必要であるとの報告がなされた。



関山知子氏



本杉省三氏

関山知子(茅ヶ崎市 文化生涯学習部 文化生涯学習課長)

1989年茅ヶ崎市に入庁。税、福祉関係部署等を経て、2009年に企画部文化推進課文化推進担当主査として配属。文化行政、文化施設(文化会館、美術館、茶室書院等)の所管として、総合的な企画及び調整を担う。特に文化会館では、当時、再整備事業が本格的に動き出す時期であり、担当として基本計画の策定、基本設計・実施設計委託業者のプロポーザルを実施。3年間で市民意見等をくみ取りながら、実施設計までを終了させる。その後、他部署を経験した後、2014年に文化生涯学習部文化生涯学習課長として文化行政、生涯学習施策等に携わり、現在に至る。

本杉省三(日本大学 理工学部 特任教授)

日本大学理工学部特任教授(工学博士)。1950年横浜市生まれ。1974年日本大学大学院修了後、同大学助手、その後2016年3月まで教授。ベルリン自由大学演劇研究所留学(1981-83年DAAD奨学生)、この間ベルリン・ドイツオペラ、シャウビューネ劇場で研究・実習。劇場・ホールの運営から施設・改修計画まで幅広い研究活動を行っている。シアターコクーン、新国立劇場、愛知芸術文化センター、新潟りゅーとぴあ、なら100年会館、ビックハート出雲、Kunstlinie Almere、まつもと市民芸術館、台中國家歌劇院等の構想・計画・設計に関わる。主な著書は、「劇場空間の源流」「劇場・コンサートホール」等。

アートマネジメント ワークショップ/企画制作

指導者養成演劇ワークショップ ―手から手へコミュニケーションをつなぐ―

2月6日(水) 13:00～15:00 カルチャー棟 リハーサル室

[講師] 河田園子(演出家)
[アシスタント] 木村雅子(俳優)
[モデレーター] 酒井誠(演劇制作アドバイザー)

最初に円陣を描いて座り、講師よりワークショップの目的を聞く。
目的：演劇を通して自分の考えを相手に伝え、コミュニケーションする楽しみを知り、最終的には「つながる」ことの喜びを体験する。

・いくつかのメソッドを体験する

- 1 音楽を流し自由に歩き、すれ違う人と握手をする。その後、出身県・名前・好きな食べ物を伝える。
- 2 全員、誕生日順に一列に並ぶ。その際、自分の誕生日を声に出さずに相手に伝える。(45秒間)
- 3 名字のアルファベット順に一列に並ぶ(1分間)
- 4 全員を7チームに分け、ジェスチャーゲームをする。

それぞれのチームで、1～3人が与えられた課題をジェスチャーと“デタラメ語”で表現、チームの他のメンバーに当ててもらおう。(5分間)

・ストーリーを作り、チームごとに発表する

『桃太郎』のストーリーを現代風にアレンジした創作劇をつくる。
桃太郎の旅立ちから鬼ヶ島で鬼退治までの7シーンを設け、7つのチームでそれぞれ表現するシーンを選ぶ。

劇の長さは3分程度、セリフを15～20個入れる。

(チームに分かれ40分間構想)

最初のチームからシーンを演じる。

最初のチーム(シーン：桃太郎の旅立ち)

「婚活パーティで結婚サギに会い、相手をとっちめに行くOLの話」

最後のチーム(シーン：桃太郎の勝利)

「痴漢冤罪の裁判で無罪を勝ちとった桃太郎」

各チームの発表に、笑い、拍手。

講師「今体験したことがまさに演劇。何人が集まることで、一人では浮かばない物語や登場人物が生まれる。演劇の喜びをまた体験してほしい」



河田園子氏



木村雅子氏



酒井誠氏

河田園子(演出家)

演劇企画JOKO演出家。1996年(財)現代演劇協会劇団昂に所属。その後イギリス・アメリカ・ロシア人演出家の助手を務めるなど研鑽を積む。2007年演劇企画JOKOのメンバーとなる。代表作に「クリスマスキャロル」「エデンの東」「十二夜」「恋の骨折れ損」などがある。2004年長野県駒ヶ根市での市民劇の演出をきっかけに、地域劇場の活性化に取り組み始める。2017年度文化庁在外研修員として英国のプリストル・オールド・ビック劇場にて研修。地域劇場が「人・コミュニティー・街」を変化させていく創造的な場として発展していけるよう活動している。静岡市民文化会館での主催事業や鹿児島県での演劇人育成事業などで演出を担当している。

木村雅子(俳優)

東京都あきる野市出身。高校演劇から演劇を始め、専門学校東京メディアアカデミーを卒業後、JOKO演劇学校を経て、2013年に劇団昂に入団。劇団昂ザ・

サードステージ公演「BLUE」「街と飛行船」「グリーンクス」、劇団俳小公演「満月」に出演。俳優活動を中心に、自主企画公演にて演出も行う。2015年より東京都立東久留米総合高校演劇部にて、非常勤講師を務める。2018年まで劇団昂に所属。

酒井誠(演劇制作アドバイザー)

1969年、(財)現代演劇協会(劇団雲・樺)の公演制作部に入団。1981年、同財団(劇団昂・三百人劇場)事業部長。1993年度文化庁在外研修第一回アートマネジメント特別研修員として英米で研修。1994年同財団退職。同年(財)新国立劇場運営財団・制作部演劇チーフプロデューサー。開場記念公演他渡辺浩子芸術監督作品担当。2000年事業部長。オペラ研修所・バレエ研修所・演劇研修所担当。2008年退職。以降、日本大学演劇学科、武蔵野音楽大学音楽環境運営学科非常勤講師。2012年～2017年川崎市アートセンター。2012年～2018年(独)日本芸術文化振興会PD。現在、演劇制作アドバイザー。

アートマネジメント 文化政策

劇場・音楽堂等及び芸術団体の評価制度を考える

—日本芸術文化振興会におけるアーツカウンシル機能の成果報告—

2月6日(水) 15:30~17:30 センター棟 101号室

〔講師〕矢田文雄(独)日本芸術文化振興会 基金部長 西川信廣(公社)日本劇団協議会 会長

〔モデレーター〕柴田英紀(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー

日本にアーツカウンシル機能が本格導入されて8年、どのような評価方法を行ってきたか、またその成果を報告した。まず矢田氏より日本にアーツカウンシル機能が導入された経緯、評価制度のしくみ、プログラムディレクター(PD)・プログラムオフィサー(PO)の役割、財源も含め具体的な助成内容について8年間の変遷をふまえて詳細な解説があった。そして平成30年度、文化庁補助金がアーツカウンシルに移管したことによる活動の改変部分が伝えられた。評価方法は従来と変わらず事前評価・採択審査・事後評価によること、PD、POによる芸術団体への事後評価伝達・助言・アドバイスを実施していることなどが述べられた。

アーツカウンシルの成果に関しては西川氏が助成を受ける側からの発言を行った。当初は漠然とした計画書で申請していた団体も、PD、POと意見交換し事後評価を受けながら、計画をどこまで実現できるかというビジョンが生まれた。アーツカウンシル機能が活動モデルとしている、PD、POを仲立ちとしたPDCAサイクルが効果的に機能しているとの指摘があった。

さらに矢田氏からチケットシステムを見直し収益を上げた劇団や、音響効果を再考し、活動の質を高めたオーケストラの事例などが紹介され、アーツカウンシル機能が日本に根付き、成果を上げつつあることが報告された。



矢田文雄氏



西川信廣氏



柴田英紀氏

矢田文雄(独)日本芸術文化振興会 基金部長)

島根県出身。島根大学法文学部法学科卒。昭和63年、岡山大学入職。平成2年、文部省高等教育局での勤務を経て、平成3年より文化庁へ転任。地域文化振興や芸術文化に対する助成、宗務、著作権などに係る業務を担当。平成16年、独立行政法人特殊教育総合研究所総務課長に転任した後、平成19年、文化庁に復帰し、宗務課専門官、国際課課長補佐、同国際文化交流室長補佐、芸術文化課文化活動振興室長補佐、同課長補佐を経て、平成28年4月より現職。

西川信廣(公社)日本劇団協議会 会長)

1949年東京生まれ。文学座演出部所属。86年度文化庁在外研修生として渡英。プリストル・オールドビック、ロイヤル・ナショナル・シアターなどで一年間研鑽。帰国後、所属の文学座を中心に、新国立劇場、商業劇場、各種プロデュース公演で、ストリート・プレーからミュージカル、オペラまで幅広く活躍する。また、近年は地域劇場での仕事や、演劇教育にも力を入れている。最近の主な仕事『黒草の手帖』(明治座)、『マイフェア・レディ』(東宝)、『音楽劇・人形の家』(俳優座演劇プロデュース)、『再びこの地を踏まず〜異説・野口英世物語』『真実』(以上文学座)。紀伊国屋演劇賞個人賞、芸術選奨文部大臣新人賞、読売演劇大賞優秀演出家賞・審査員特別賞、日本劇団協議会会長、日本演出家協会理事、東京芸術大学客員教授。

柴田英紀(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

文化審議会委員。(独)日本芸術文化振興会 プログラムディレクター(演劇・劇場)。(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー。劇団俳優座演劇制作部勤務後、平成7年度より、北海道、仙台、広島等の自治体で実施した演劇による人材育成事業に着手し、演劇プロデューサーを務める。地域における文化芸術振興事業を数多く手がけ、文化ボランティアや文化事業の企画立案や評価等、広範な活動に参画。平成9年度文化庁在外研修員として英米の地域劇場にて研修。全国公募により、平成14年から9年間に渡り、鳥取県文化振興財団文化芸術デザイナーに就任し、片山善博前鳥取県知事(現・早稲田大学公共経営大学院教授)の文化政策を推進する。平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事、平成24年度~平成29年度まで(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇)、平成27年度~平成29年度まで文化審議会第12期~15期文化政策部会委員を務める。平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成28年度~平成30年度まで、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任。平成30年度からは、障害者文化芸術活動推進有識者会議委員、(独)日本芸術文化振興会プログラムディレクターに就任し現在に至る。

アートマネジメント 安全管理

自然災害(地震、風水害)への備え。

—平成29年度「地震だ!! どうする!? 劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック」のポイントと、業務継続計画(BCP)の策定—
2月6日(水) 15:30~17:30 センター棟 102号室

[モデレーター・講師] 本間基照 (MS&ADインターリスク総研(株) リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ マネジャー上席コンサルタント)
[講師] 石山翔子 ((公財)名取市文化振興財団 事業企画係兼施設管理係)

災害発生時、公立文化施設では利用者の安全を確保するだけでなく、避難所としての対応が必要となるケースがある。本間氏が、災害発生からの施設が取り組むべき対応を解説した。初動対応・避難所対応・復旧復興の3つの段階があるが、初動対応の避難誘導では、屋外は落下物の危険性があるため、建物の耐震性が確保されていれば館内避難が望ましいとされる。そのために施設の耐震強度、被災状況を見極めるポイントが示された。さらに避難所として機能するための備蓄や備えを紹介した。復旧復興の段階では、BCP(業務継続計画)を策定することを推奨した。BCPは業務停止から再開するまで、あらかじめ施設の重要な業務を洗い出し、優先順位を決めることによってスムーズな業務の再開を促す計画である。本間氏よりBCP策定のポイントが示された。

宮城県・名取市文化会館は、東日本大震災の際、避難所として機能した。現在BCPを作成中である。担当者の石山氏が同館のBCPを映像で示しながら、どのように作成しつつあるかを報告した。石山氏の報告では、業務の中で再開の優先度が高いのはシステム復旧である。インフラがストップする中、いち早くシステム復旧するためには、外部の委託業者との平常時からの連携が必要であることを指摘した。

最後に本間氏が最近頻発している風水害への対応を解説した。BCPは、地震だけでなく他の自然災害にも適用でき、改めてその有用性を強調した。



本間基照氏



石山翔子氏

本間基照

(MS&ADインターリスク総研(株) リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ マネジャー上席コンサルタント)

【所属】

- ・MS&ADインターリスク総研(株)
- ・関西大学社会安全学部非常勤講師
- ・(公社)全国公立文化施設協会コーディネーター
- ・(公財)日本体育施設協会 公共施設研究所専門員

【著書】

- ・大震災後に考えるリスク管理とディスクロージャー (同文館、2013年)
- ・スポーツリスクマネジメントの実践-スポーツ事故の防止と法的責任- (日本体育協会、2015年)
- ・学校・大学リスクマネジメントの実践 (同文館、2016年)
- 全国公立文化施設協会編集
- ・劇場・音楽堂等トラブル対応ハンドブック (2017年3月)
- ・地震だ!! どうする!? 劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック (2018年3月)

石山翔子 ((公財)名取市文化振興財団 事業企画係兼施設管理係)

新潟県出身。東北福祉大学子ども科学部子ども教育学科を卒業後、小学校講師などを経て、平成26年4月(公財)名取市文化振興財団に入職。施設管理を担当し、会館広報誌の制作など、主に広報の仕事に従事するほか、防災体制構築と緊急時対応マニュアルの作成を担当しながら、MS&ADインターリスク総研(株)本間基照氏と共にBCP(業務継続計画)の作成を進めている。平成29年4月より事業企画を兼務し、現在に至る。広報の仕事を行う一方、事業の企画立案及び制作にも従事する。

アートマネジメント プレゼンテーション(演劇・舞踊)

● 劇場・ホールの自主制作公演の紹介 演劇・舞踊編 —2020年度以降の連携と全国展開に向けて—

2月6日(水) 15:30~17:30 センター棟 311号室

[講師] 2020年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの事業担当者

[モデレーター] 岸正人(公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長

自主制作事業を行っている8施設と1団体が、2020年度以降に巡回可能な公演を予算負担なども含めてプレゼンテーションした。また共同開催への呼びかけも行われた。各館の作品ラインナップは下記の通りである。

世田谷パブリックシアター ●「悟空 ~Before the Journey to the West~」 ●「殺意(ストリップショウ)」 ●「現代能楽集X」

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 ●Noism 劇的舞踊vol.4「ROMEO & JULIETS」 ●りゅーとぴあ 発 物語の女たちシリーズ

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) ●「絵本の時間だよ！」 ●シアターサーカス「マシーン・ドゥ・シルク」 ●みんなのシリーズ第4弾「能でよむ~漱石と八雲~」(仮)

KAAT 神奈川芸術劇場 ●KAATキッズ・プログラム2019「二分間の冒険」 ●KAATダンス・プログラム「星の王子様」(仮)

東京芸術劇場 ●ニーハイ来日公演「ヴィテブスクの空飛ぶ恋人たち」 ●木ノ下歌舞伎「三人吉三」 ●野田秀樹戯曲小劇場上演 ●トーマス・オスターマイヤー演出「人形の家」 ●シルビウ・プルカレーテ演出「野田版 真夏の夜の夢」

愛知県芸術劇場 ●加藤訓子(パーカッション)×平山素子(ダンス)「DOPE」 ●島地保武×環ROY ダンスとラップ「あしか」 ●W.A.モーツァルト作曲 オペラ「バスティアンとバスティエンヌ」 ●愛知県芸術劇場 ファミリー・プログラムレパートリー作品「小さな島とエヴァ」

ロームシアター京都 ●木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」 ●ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドレー「ショールームダミーズ #4」 ●村川拓也「ムーンライト」

新国立劇場 ●バレエ「ドン・キホーテ」 ●こどものためのバレエ劇場 ●ダンス 小野寺修二「ふしぎの国のアリス」 ●演劇「反応工程」 他

アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会) ●アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会)世界大会



岸正人

(公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長

(51ページ参照)

アートマネジメント 組織・事業の管理運営

マーケティング入門

2月7日(木) 10:00~12:00 センター棟 101号室

[講師] 川又啓子(青山学院大学 総合文化政策学部 教授)

[モデレーター] 伊藤美歩(㈱アーツブリッジ 代表)

ホールで実施する事業を成功させるには、マーケティング的な視座が必要になる。マーケティングとは売れる仕組みを作る活動である。企業の対市場行動に影響を与える、社会文化的な行動意識を変えるには時間がかかる。しかしバレンタインデーのチョコレートのようにマーケティングによって市場を創造することが可能である。マーケティング戦略の策定においてはSTP(セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング)が重要であり、朝用の需要を開発した缶コーヒーの成功事例などを挙げ、それぞれが解説された。

さらにプロモーションに関しては、SNSだけでは効果が限定的で、マスメディアとの組み合わせが有効であることや、口コミの重要性が指摘された。

文化施設が提供するサービスには特徴があり、そこにマーケティングを行う難しさがある。まずサービスに形がなく、消費者の事前トライアルができないこと、利用者の参加が不可欠であるため、品質が変動することなどが特徴である。なじみのない演目へのチケット購入意欲は低くなるが、チラシの作り方などでそれを解決する手だてが紹介された。またサービスの種類には本質的サービスと表層的サービスがあり、それぞれに対する顧客満足のしくみが解説された。全体を通じて、劇団やビール飲料など具体的事例を豊富に挙げつつ、マーケティングの考え方を文化施設の経営にどう活かすか、その課題も含めて講義された。



伊藤美歩氏



川又啓子(青山学院大学 総合文化政策学部 教授)

慶應義塾大学大学院経営管理研究科後期博士課程単位取得退学、早稲田大学大学院商学研究科修了、Northwestern University, Medill School of Journalism 修了、青山学院大学文学部卒

研究テーマ：Chief Culture Officer, Japanese Pop Culture Eventの形成と発展過程、英独仏旅行者の情報探索行動、eスポーツ

【業績 (<https://researchmap.jp/read0095532>)】

-ジャパニーズ・ポップカルチャー・イベントにみるビジネス・チャンス、2018-04

<https://www.djw.de/ja/infopool/japanese-pop-culture-events-as-a-tourism-resource-jp>

-JAPANESE POP CULTURE EVENTS AS A TOURISM RESOURCE, 2018-04 <https://www.djw.de/de/infopool/japanese-pop-culture-events-as-a-tourism-resource>

-Some Preliminary Notes on the Evolution and Development Process of Japanese Pop Culture Events,

青山総合文化政策,9(2),71,pp.73-94,2017-11

伊藤美歩(㈱アーツブリッジ 代表)

米国ノースウェスタン大学卒。南メソジスト大学大学院修士課程修了、MBA及びMA(芸術運営学)の学位を取得。テキサス州サンアントニオ交響楽団で企画職を担当後、ハリウッドボウルにて企画職、ロサンゼルス・フィルハーモニーではその活動拠点となるウォルト・ディズニーコンサートホール建設のためのファンドレイジング・キャンペーンのマネジャーを務める。2004年帰国。日本の芸術団体や非営利団体へのファンドレイジング・コンサルティングや研修、音楽イベントの企画制作などを行うために2005年5月に有限会社アーツブリッジを設立。2008年にはトヨタ芸術環境KAIZENプロジェクトに採択され、「芸術団体のためのファンドレイジング・ハンドブック~個人サポーター獲得を目指して~」を発行(無料ダウンロード→<http://www.nettam.jp/kaizen/kaizen-saku/>)。

慶應義塾大学非常勤講師。日本ファンドレイジング協会理事、(一社)Music Dialogue専務理事兼事務局長を務める。

アートマネジメント 文化政策

自治体文化政策の基本を理解する —劇場・音楽堂経営やその実務に携わる人のために—

2月7日(木) 10:00~12:00 センター棟 102号室

[モデレーター・講師] 中川幾郎 (日本文化政策学会顧問 [初代会長])

まず公立文化施設の社会的な位置づけから話を始める。図書館・博物館・公民館は、従来、社会教育施設と定義されてきた。それに対して劇場・音楽堂は定義されていない。しかし劇場法の施行によって準社会教育施設へと誘導され、将来的には正式に定義されることが予測される。これによって公立文化施設は教育機関との連携が強まり、劇場法では教育・福祉・医療、コミュニティとの関わりまでを明記していることから、より広く社会包摂的な役割を担う可能性が高まった。

では、どのようにすれば自館の活動をよりよく進められるか。自治体文化政策のほとんどは「法定受託事務」ではなく「自治事務」である。従って、自治体文化政策は「自主的かつ主体的に」行われ、文化条例によって担保される必要がある。文化条例がある自治体は全国でもまだ1割程度であるが、条例に基づいて基本計画が作られ、住民参加の審議会で目標達成度を検討することが大切である。一方、自治体の文化政策が混乱する大きな要因には、市民文化政策と都市文化政策の混同がある。市民文化政策は公平・平等をめざして水平的に行われるものであり、都市文化政策は観光資源などを活かして集中・垂直的に行われるものである。それぞれ個別に取り組むべきである。

自治体の文化政策で現在課題といえるのは地元の人材育成である。プロデューサーとして劇場経営するスキルのある人材、アートと地域をつなぐコーディネーター的人材などをさらに増やさなければならない。人材育成に限らず、事業を行うときは、どんなホールをめざすかというビジョンを持つことが肝要である。それを実現するためのリソースを整備して、足りない場合は奪ってでも持って来る、そうした発展戦略を持つ施設をめざしてほしい。



中川幾郎氏



中川幾郎 (日本文化政策学会顧問 [初代会長])

塚山大学名誉教授。1969年同志社大学経済学部卒業後、大阪府豊中市役所に入所。2000年3月に大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程を修了し、2001年4月塚山大学法学部教授、2003年4月同大学大学院法政策研究科教授となる。2014年3月に退職し、現在名誉教授を務める。公共文化政策、特に自治体文化政策を専攻分野としている。自治体行政における文化政策の基本理論構築と政策体系づくり、事業企画と実践まで、これまで多数の地方自治体のお手伝いをし、現在も府県、市町の文化関係審議会委員を務めている。具

体的には、自治体文化条例の原案づくり、文化基本計画(文化振興基本方針、ビジョンなど)策定、新規文化事業の企画と実践、劇場・音楽堂等の経営改革や経営戦略づくり、文化事業の事業評価、政策評価システムづくりなどが主な実践事例。また、これと関連して、公共施設の指定管理者制度にも、多数の自治体で選定基準づくりに関わり、自ら選定委員としても選考に携わってきた。現在も、行政学、経営学、法律学、都市政策、人権などの多角的な視点から、自治体文化政策を研究している。

アートマネジメント プレゼンテーション(音楽)

劇場・ホール自主制作公演の紹介 音楽編 —2020年度以降の連携と全国展開に向けて—

2月7日(木) 10:00~12:00 センター棟 311号室

[講師] 2020年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの事業担当者
[モデレーター] 中村よしき(東京芸術劇場 事業企画課 次席[音楽制作プロデューサー])

劇場間の連携と自主制作事業の全国展開に向けて、5つの施設が2020年度以降に行う音楽事業のプレゼンテーションを行い、巡回公演や共同制作の可能性を探る。各館のプログラムは下記の通りである。

春日井市民会館 ●生演奏と投影で綴る大作曲家の大傑作シリーズ
ベートーヴェン ●生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会(オーケストラ版) ●高橋多佳子の生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会(ピアノ版) ●南野陽子&葛西聖司 伝統音楽の魅力発見! ~につぼんの楽器・弾き物編~

東京芸術劇場 ●ボンクリ・フェス“Born Creative” Festival ●NEO-SYMPHONIC JAZZ(ネオ・シンフォニック・ジャズ) ●共同制作オペラシリーズ ●パイプオルガン共同招聘企画

石川県立音楽堂 ●オーケストラ・アンサンブル金沢 公演企画「各地域の音楽愛好家と共に創るステージ」
「The 殺陣!」 「心を繋ごう! 三世代の音楽とお芝居の舞台」 ●共同制作オペラ「ZEN」2020 ●風と緑の楽都音楽祭「アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団」

東京文化会館 ●舞台芸術創造事業「Only the Sound Remains」 ●舞台芸術創造事業「秋山図」 ●舞台芸術創造事業 たいらじょう×宮田大「サロメ」「ハムレット」 ●舞台芸術創造事業「400歳のカストラート」 ●オペラBOX 「泣いた赤おに」「Help!Help!グロボリンクスだ! ~エイリアン襲来!!~」「アマールと夜の訪問者」 ●東京文化会館ミュージック・ワークショップ

福井県立音楽堂(ハーモニーホールふくい) ●地元の小学生の出演を前提とする音楽朗読劇



中村よしき氏



中村よしき

(東京芸術劇場 事業企画課 次席[音楽制作プロデューサー])

2002年から東京文化会館で様々なコンサートのプロデュースを行い、東京音楽コンクールの創設に立ち会い、当時の館長、故・三善晃氏からプロデュース論、音楽制作に関し、多大な薫陶を受ける。現在、東京芸術劇場勤務。読響との事業提携やオペラ制作、オリジナル楽器オーケストラの結成を行い、ロマン派

名作のオリジナル楽器による日本初演やレコーディングを含む様々な公演を多数プロデュース。全国の劇場・音楽堂との共同企画を推進。2009年共同制作オペラを開始、現在までに全国10都市14公演の共同制作オペラ「フィガロの結婚」の共同制作プロデューサーを含め延べ9回の共同制作オペラシリーズのプロデューサーを務めている。

アートマネジメント 組織・事業の管理運営

「働き方改革」は文化施設に何をもたらすか

2月7日(木) 13:00~15:00 センター棟 102号室

【講師】布目藍人(公社)日本芸能実演家団体協議会 市川恵(社労士法人)恵社労士事務所 社会保険労務士

【モデレーター】岸正人(公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長

始めに布目氏による劇場・音楽堂の就労者を対象とした意識調査の結果報告があった。調査実施は2016年、調査対象は公立劇場21館の職員に加え外部のフリーランススタッフなども含める。明らかになったのは、・顕著な長時間労働 ・慢性的な人手不足 ・20代後半~30代にかけて結婚・出産で離職する女性スタッフの多さ ・若手男性スタッフの参入が極端に減少している、という4点であった。

その後、市川氏より政府が推進する「働き方改革」の解説がなされた。改革の柱となっている「労働時間改革」「同一労働同一賃金」につき、それぞれ「残業時間の上限規制」など、具体的な項目について内容と対応について説明があった。さらに客席からの質問に応えるかたちで、文化施設における労働環境改善が討議された。長時間労働解消を難しくしているのは、そもそも「創造活動は労働なのか」という文化施設が抱える命題である。しかし意識調査では「実演芸術には長時間労働がつきもの」と考えるのは高齢層に多く若い層では低下しており、働き方改革を契機に、労働システムの考察が行われることが望ましいとの意見があった。

また女性の離職率の高さに関しては、「フレックス制」などの導入・活用が検討される。人手不足であると制作の職員が管理業務を兼任しなければならず、長時間労働が加速する。これには業務終了から次の始業までの時間を空ける「勤務間インターバル」などの規則を採り入れるなど、健康的で充実した就業形態を実現するための対応策について意見交換が行われた。



布目藍人氏



市川恵氏



岸正人氏

布目藍人(公社)日本芸能実演家団体協議会

2000年昭和音楽大学音楽芸術運営学科卒業、2004年立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻修了、2014年政策研究大学院大学文化政策プログラム修了。2007年より昭和音楽大学アートマネジメントコース助手。2010年より音楽系3大学(昭和音楽大学、東京音楽大学、神戸女学院大学)による共同プロジェクト特別研究員。2014年より日本芸能実演家団体協議会(芸団協)勤務。実演芸術の体験が児童・青少年にもたらす影響等を主な関心領域とし、「キッズ伝統芸能体験」を始めとする実演芸術振興事業に従事するほか、劇場等演出空間運用基準協議会や文化芸術推進フォーラムの活動を通して、調査研究や政策提言等にも携わっている。

市川恵((社労士法人)恵社労士事務所 社会保険労務士)

社会保険労務士法人恵社労士事務所代表。社会保険労務士。2003年日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒業。大学在学中は小劇団を中心に役者として活動しながら役者で身を立てることを夢見ていたが、卒業と同時に断念。卒業後は企業に就職し、人事部に配属、採用や労務管理などを担当する。2010年社会保険労務士試験に合格し、都内の大手社会保険労務士事務所に入所。2012年に独立し現在に至る。日々、「わかりやすく表現する事」「目的を達成する方法をお客様と一緒に考える事」を大切に、会社にあった就業規則の提案や労使の関係の改善など広く人事の悩みに向き合っている。また、全国の商工会議所等でセミナー活動を多く行い、好評を得ている。

岸正人

((公財)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場開設準備室 課長)
(51ページ参照)

アートマネジメント ワークショップ/企画制作

親子のための伝統芸能ワークショップ —ことば遊びとリズム遊びの表現—

2月7日(木) 13:00~15:00 カルチャー棟 リハーサル室

[講師] 葛タカ女(地唄舞 葛流家元) 望月彦慶(邦楽囃子演奏家) 芦野孝男(NPO法人舞台芸術21ネットワーク 制作・理事)
[モデレーター] 平野英俊(舞踊評論家)

平野氏がこのワークショップは「洋と邦を一緒に考える」一環であること、そして「日本の伝統芸は日常から考える」ことが大事と主旨説明。舞台芸術の長唄は、本来は地唄箏曲の検校の音楽文化であり、日本語「ことば遊び」活用の文学が長く命脈を保つことができたとの指摘。続いて芦野氏より、伝統芸能のことば遊びのパフォーマー・波瀬満子氏の功績が語られ、「外郎売」「メニュー歌舞伎」のDVDを鑑賞した。さらに七五調の語りを体験するために、歌舞伎「弁天娘女男白浪」の有名な弁天小僧のセリフ「知らざあ言って聞かせやしよう」のくだりを参加者全員で読み上げた。芦野氏の柘頭や付け打ちによる歌舞伎の効果音の解説の後、望月氏の指導の下に小鼓演奏を体験。最初に小鼓を持つ姿勢や打ち方、掛け声を習い、三味線演奏と掛け声により「さくらさくら」を演奏、3班に分かれて全員が体験した。次に平野氏よりことば遊びとリズム遊びを集約したのが地唄舞であると説明され、その後、葛氏による地唄舞「茶音頭」を鑑賞した。続いて、地唄舞の基本的な動きと“座る所作”を体験した。こうして歌舞伎の台本音読や楽器演奏、舞に触れることによって、伝統芸能の核といえることばとリズムの遊び体験の貴重な機会となった。



葛タカ女氏



望月彦慶氏



平野英俊氏

芦野孝男氏



葛タカ女(地唄舞 葛流家元)

早稲田大学文学部卒業。舞台芸術学院本科卒業。4才で日本舞踊藤間流入門。名取となる。女優として、戸板康二作「女優の愛と死」、秋元松代作「常陸坊海蔵」、榎本滋民作「淀どの日記」等々出演。地唄舞神崎流入門。神崎たか女の名で師範となる。その後、劇団四季、舞台芸術学院、都立忍岡高校等で教え、門弟の育成に努める。国際交流基金公演で中近東五ヶ国(クウェート・トルコ・カタール・アラブ首長国連邦・エジプト)を歴訪。国際交流基金公演で中南米(メキシコ・ニカラグア・ベネズエラ) 歴訪。東京都主催公演でシドニーのオペラハウス・パリ公演出演。横浜市主催でマニラ市に於て記念式典出演。2001年葛タカ女と改名し、地唄舞葛流創流。創流記念公演で舞踊批評家協会本賞受賞。2019年7月21日国立劇場に於て葛流舞の会開催予定。

望月彦慶(邦楽囃子演奏家)

東京藝術大学音楽研究科邦楽囃子専攻(博士課程)修了。邦楽囃子演奏家として古典音楽から現代音楽まで、幅広いジャンルで演奏活動している。新作初演や録音も多数ある。「田楽風囃子組曲」「海と風と」「三番叟組曲」「邦楽囃子のためのソーラン節」等の邦楽囃子を主にした作品の作曲や編曲、作調を手がける。鼓の会、銀座小鼓教室主催。全国の小中学校での演奏やワークショップ、ロシア・中国・マレーシア・韓国・デンマーク・台湾等での海外公演も多数ある。日本音楽集団所属。歳松会理事。東京藝術大学音楽学部准教授。日本・モンテネグロ友好記念公演実行委員。

芦野孝男(NPO法人舞台芸術21ネットワーク 制作・理事)

伝統芸能プロデューサー。小劇場「渋谷ジャンジャン」企画部、古典芸能制作の「舞台創造研究所・柘の会」などを経て現在、伝統芸能(邦楽、邦舞、歌舞伎、民俗芸能)などの普及を目的とする「NPO法人舞台芸術21ネットワーク」制作理事。全国各地の学校での邦楽邦舞・歌舞伎鑑賞事業などの公演活動のほか、地芝居や市民歌舞伎で歌舞伎ワークショップを開催。舞台では狂言方を務める。昨年、伝統芸能の新たな切り口として長唄・大道芸・落語を絡めたウリポ・はせ・カンパニー主催【日本の古典—ことば、声、音をあそぶ—】を企画制作。全日本郷土芸能協会専門委員、ウリポ・はせ・カンパニー理事を務める。

平野英俊(舞踊評論家)

1995年文化庁が全国公立文化施設協会を社団法人化、芸術情報プラザ(2005年まで)を設置した際、舞踊(邦舞)アドバイザー、唯一の伝統芸能系アドバイザーとして、邦舞に限らず伝統芸能全般をアドバイスを行う(現在も)。1998年全国公立文化施設協会主催の歌舞伎公演の委員会委員(2013年まで)。2001年文部科学省文化審議会(文化財部会)第4専門部会委員(2011年まで)。2004年から大学、短大で非常勤講師(2018年まで)。「舞踊論」「日本芸能史」等を講義。著者：『評論日本身体表現史—古代・中世・近世—』(日本舞踊社刊、2016年) 監修：週刊朝日百科「人間国宝」(朝日新聞社刊、2006~2007年)、他。

アートマネジメント 企画制作

「観劇サポート」とは！

2月7日(木) 13:00～15:00 センター棟 101号室

〔講師〕 廣川麻子 (NPO法人シアターアクセシビリティネットワーク (TA-net) 理事長)
美月めぐみ (ばっかりばっかり女優) 鈴木大輔 (ばっかりばっかり主宰)
〔モデレーター〕 間瀬勝一 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー)

障害者差別解消法の施行から3年近く経過し、昨年6月には、障害者による文化活動の推進に関する法律も施行された。文化施設のバリアフリー化が求められる中、本プログラムでは、特に課題となっている合理的配慮の提供などソフト面の問題について取り上げた。

まず、間瀬氏から公文協の“情報のバリアフリー化”に関する調査結果が報告された。続いて美月氏より視覚障害者の観劇サポートに関するレクチャーがあった。情報入手、チケット入手、移動(劇場内外)、ガイドヘルパーの費用負担、上演内容の把握等、舞台鑑賞に伴う様々なバリアについて説明があり、誘導のデモンストレーションや、音声ガイド、音声パンフレットの例を紹介するなど、バリア解消の方策が例示された。その後、聴覚障害者、視覚障害者の鑑賞サポートの活動を行う廣川氏から、様々な字幕システムの試み、舞台における手話通訳の方法、催事情報の告知方法など、聴覚障害者へのバリアフリー対応について具体的に説明された。

なお、本プログラムでは、音声を文字化するアプリ、UDトークを使用し、発言をリアルタイムで字幕化した。



廣川麻子氏



美月めぐみ氏



鈴木大輔氏



間瀬勝一氏

廣川麻子

(NPO法人シアターアクセシビリティネットワーク (TA-net) 理事長)
1994年日本ろう者劇団入団。1995年和光大学卒業。2009年9月から1年間ダスキン障害者リーダー育成海外派遣事業第29期生として英国Graeae Theatre Companyにて研修。2012年12月観劇支援団体シアター・アクセシビリティ・ネットワーク設立。平成27年度(第66回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞(シンポジウム「より良い観劇システムの構築に向けて、今できること」ほかの活動)。2016年12月第14回読売福祉文化賞(一般部門)をTA-netとして受賞。「NHKこども手話ウィークリー」、「NHKろうを生きる難聴を生きる」、朝日新聞「ひと」、沖縄県「アーツマネジメント講座2017」など全国各地で啓発活動を展開。文化庁文化審議会第15期文化政策部会舞台芸術ワーキンググループ専門委員。障害者文化芸術活動推進有識者会議 構成員(文化庁・厚生労働省2018年度)。

美月めぐみ (ばっかりばっかり女優)

演劇結社ばっかりばっかり所属俳優、脚本・演出家、バリアフリー映画鑑賞推進団体シティライツ副代表。1964年福島県いわき市生まれ。1985年筑波大学付属盲学校専攻科音楽科卒業。1988年頃から数年、演技を、元NHK地方局の放送劇団の演出家松本詩翁氏に師事。1989年～1999年視覚障害者関連のIT

企業(株)メディアに勤務。退職後、表現者として、朗読会、舞台劇、福祉系啓発映像作品等に出演。現在、「誰もが楽しめるエンターテインメントの追及」をライフワークとして、劇団活動、音声ガイドの研究、小中学校を中心に各種福祉講演などを行なっている。練馬区に、夫・鈴木大輔(ばっかりばっかり主宰)と共に在住。

間瀬勝一 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

1968年藤沢市民会館開館に伴い舞台スタッフとして入社。多様な市民企画公演や地域の高校演劇発表会に携わる。ホールの運営管理、舞台制作、舞台監督として、演劇、コンサート、現代舞踊、バレエ公演などに携わる。1993年から横浜市芸術文化振興財団、2005年から神奈川県逗子文化プラザホールアドバイザー、2009年から同ホール館長。2012年から小田原市文化部文化政策課芸術文化担当課長・小田原市民会館館長を経て、2016年4月から小田原市文化政策課芸術文化活動専門員。(公社)全国公立文化施設協会では、地域文化施設の人材育成に携わり、全国アートマネジメントセミナー、芸術文化支援員として地域文化の活性化に努めている。また地域文化施設の基本構想検討委員、管理運営検討委員、指定管理者選定委員、施設運営アドバイザーなど、舞台技術者と施設利用者の視点で提言している。すべての人が舞台芸術を日常的に享受できる仕組み「舞台芸術の日常化」の推進に努めている。

アートマネジメント 企画制作

“ハコ”を活かして！

2月7日(木) 15:30～17:30 センター棟 101号室

[講師] 鈴木基規 (公財) 静岡県文化財団 事務局長兼総務課長
 長谷川亜樹 (サントリーホール 企画制作部 副部长/プログラミング・ディレクター)
 [モデレーター] 田村孝子 (公社) 全国公立文化施設協会 副会長

来館者に親しみと魅力を感じさせる催事を行うにはどうすればいいか。サントリーホールと静岡グランシップの完全無料の事例を聞き、“ハコ”を活用するヒントを得る。

サントリーホールでは、毎年桜の季節、「オープンハウス～サントリーホールで遊ぼう！」を開催している。地域の桜祭りに連動するイベントで、終日ホールを無料開放。来館者は1万人を超える。行われるのはオーケストラやオルガン、オペラや室内楽の演奏会の他、「おんがくテーリング」「ガイドツアー」など館内を巡る体験型プログラム。子どもから大人まで、またクラシック初心者から愛好家まで誰もが気軽に音楽に親しめるイベントを目指し、職員総出で企画・運営している。開館30周年には、特別企画として合唱参加者を当日募集した「第九」も。“ハコ”の特徴・強みを活かすことがオリジナリティあふれる企画につながる。

静岡グランシップは、毎年GWに子ども対象の「グランシップこどものくに」を開催している。来場者は2万人。1Fから6Fまでのギャラリー等、様々な場所で安心して「触って、作って、遊べる」場づくりをしている。平成30年度の「へんてこりんはうす」など、テーマに沿ったメイン会場での創造体験や合唱ワークショップ、ボランティアによる「ゆめのおきがえ」、折り紙などの子ども遊び等を展開。芸術家や学生、最高齢90歳の県民ボランティア等、延べ400人が企画から運営に関わり、周知にも繋がっている。子どものうちから館に親しみを感じ文化や芸術に関心を持つ機会の創出を目指し、さらに来場者は増加している。



鈴木基規氏



長谷川亜樹氏



田村孝子氏

鈴木基規 (公財) 静岡県文化財団 事務局長兼総務課長
 1956年静岡県に生まれる。静岡県庁に入庁後、2006年4月から静岡県文化財団に企画制作課長として出向。静岡県コンベンションアーツセンターグランシップの指定管理者として、子どものうちから上質な文化芸術に触れるきっかけづくり「はじめての劇場」に取り組んだ。現在、県を退職後も引続き静岡県文化財団に残り、事務局長兼総務課長として財団の運営管理に従事するとともに、財団内に「ふじのくに文化情報センター」を立ち上げ、県内の文化活動を支援する取組みを進めている。

長谷川亜樹
 (サントリーホール 企画制作部 副部长/プログラミング・ディレクター)
 東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学大学院音楽研究科応用音楽学専攻修了。2003年の入職以来、音楽専攻の大学生によるプロデュース公演「レインボウ21」、全館無料開放イベント「オープンハウス」、東京都港区立小学校4年生対象のアウトリーチ&コンサート「Enjoy! Music プロジェクト」、3～6歳児対象の美術ワークショップ&コンサート「いろいろドレドレ」など数々の教育普

及プログラムを手がけている。2013年、プリティッシュ・カウンシル&BBC交響楽団主催の英国研修に参加し、様々な教育普及プログラムを視察。2012年(一財)地域創造「ステージラボ 栃木セッション」、2017年全国4館連携フォーラム事業「音楽がヒラク未来 札幌フォーラム」講師。

田村孝子 (公社) 全国公立文化施設協会 副会長
 1965年NHK入局。副会長秘書を経て、1968年から音楽番組ディレクターとして『あなたのメロディー』『N響アワー』『ときめき夢サウンド』『ジュリー・アンドリュース&アンドレ・プレヴィン指揮NHK 交響楽団コンサート』などの人気音楽番組を手掛ける。1997年～2007年までNHK 解説委員(芸術文化担当)として文化行政への提言や情報発信に努め、2007年から7年間静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長として子どもが上質で多彩な芸術文化に触れる場づくりに努める。現在は同館名誉館長を務める。主な公職歴として、2006年～2011年文化庁・文化審議会委員、2007年～2016年(公財)文化財建造物保存技術協会理事、2011年～(公財)新国立劇場運営財団評議員、等。

アートマネジメント 企画制作

企画立案と若手人材の活用 —邦楽デモンストレーションと舞台のしつらえ—

2月7日(木) 15:30~18:00 カルチャー棟 小ホール

[モデレーター兼講師] 葛西聖司(古典芸能解説者)

[講師] 味見純(東京藝術大学 音楽学部 邦楽科 准教授 東音会唄方) 杵屋勝三郎((一財)杵勝会八世家元)
福原寛(福原流笛方) 松永忠次郎(松永流唄方)曲 目: 「二人椀久」(抜粋)、抄曲集 [1.春:花見踊(桜)、2.夏:菖蒲浴衣(舟遊び)、3.秋:五色の糸(秋の一夜)、4.冬:鶯娘(淡雪より乱れ雪へ)、
5.エピローグ:鏡獅子(牡丹の花)]

演 奏: 長唄・囃子青年楽団「清響会」

〈唄〉 岩本富士子 岩本留理子 村治将之助 〈三味線〉 坂口あまね 味見優 鈴木雄司

〈囃子〉 山田崇 長尾基史 中島一樹 角田圭吾 高木瑞記

[舞台進行] ((公財)さいたま市文化振興事業団) 赤羽根哲也 井上知彦 神保富美子

[モデレーター] 柴田英紀(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

始めに、モデレーターの柴田氏より施設における企画事業の現状と、豊かな企画立案には何が必要となるのかの講義があった。

優れた企画には、鑑賞機会の創出、意欲的な職員、ジャンルとお客様のつなぎ手となる優秀なスタッフ・演奏家が欠かせない。また、多様なジャンルの企画を地域住民にバランス良く提供することが必要とされた。

近年、施設で実施される企画には、邦楽や日本舞踊など古典芸能の比重が減少している。企画立案に際して、そうした希少な企画を採り入れることの重要性が指摘された。

一方で、各ジャンルを活性化していくためには、若手人材の育成がポイントとなる。江戸文化の象徴ともいえる「長唄」を取り上げ、作品の解説を行うとともに、長唄・囃子青年楽団「清響会」の演奏を鑑賞した。清響会は、流派を超えて結成された若手演奏家の集団である。指導者のコメントを通じて、邦楽分野での人材育成の試みに触れた。

●古典芸能解説者として活躍する葛西聖司氏による解説。

・曲目「二人椀久」の解説

大坂の豪商、椀屋久兵衛が遊女である松山に惚れ、蕩尽をつくす悲恋の物語が解説された。

・長唄の楽しみ方

最初は歌詞を目で追うのではなく、演奏者の姿を見て耳で聴くことが大切など、初心者に向けて鑑賞のコツが伝えられた。

●清響会 演奏 「二人椀久」

若手演奏家による長唄・囃子青年楽団の演奏

●トークセッション(講師:味見純、杵屋勝三郎、福原寛、



柴田英紀氏



葛西聖司氏

杵屋勝三郎氏

松永忠次郎氏

味見純氏

福原寛氏



企画立案と若手人材の活用 —邦楽デモンストレーションと舞台のしつらえ—

松永忠次郎 モデレーター：葛西聖司

4名の演奏家たち（清響会メンバーの師匠方）によるトークセッションが、清響会演奏家によるデモも交えて実施された。

●初めて長唄に触れる方へのレクチャー

・長唄について

長唄の発祥や発達の歴史、長唄の構成、唄・三味線・囃子の役割などの解説。たとえば三味線の解説は、以下のように実演を通して行われた。

清響会より二人が登場、三味線を見せ、部分の名称や演奏方法について紹介する。江戸時代、郭が開く際に演奏された「すががき」や「隅田川の音」が演奏された。

・舞台のしつらえについて

山台、毛氈、金屏風、見台などについて説明される。屏風には金屏風・鳥の子屏風があり、金箔を用いた金屏風を設置する際、施設側も手袋を着用することが望ましいことなど、扱う際の注意も伝えられた。

・長唄の現状と将来について

若手人材の活用と活躍の場を広げる取組み、鑑賞者の発掘と育成の重要性が伝えられた。

杵屋氏が、自ら手がける3歳児から高校生まで100名を集めた長唄の催事を紹介、演奏の後継者育成だけでなく観客席の若返りも大切との指摘があった。

・清響会を立ち上げた理由とその意義について

・長唄メドレー抄曲集の曲目紹介と楽器の技巧解説

●清響会 演奏 「長唄メドレー 抄曲集」



清響会「二人唄久」



清響会「長唄メドレー 抄曲集」

●葛西聖司（古典芸能解説者）

NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオのさまざまな番組を担当してきた。現在はその経験を生かし、歌舞伎など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーなどを全国で展開。

【著書】

『文楽のツボ』（NHK出版）『僕らの歌舞伎』（淡交社）

『名セリフの力』（展望社）『ことばの切っ先』（展望社）

『稚翠小松脈（わかみどりこまつのにぎわい）—歌舞伎のまち・こどもの力—』（小松市）

【共著】

『歌謡曲の力 —アナウンサーふたり・口ずさみ語る—』（展望社）

『能楽史事件簿』（岩波書店）

『能狂言なんでも質問箱』（繪書店）

日本演劇協会会員（評論）

早稲田大学公開講座・NHK文化センター・朝日カルチャーセンター・山梨文化学園など講師

●味見純（東京藝術大学 音楽学部 邦楽科 准教授 東音会唄方）

長唄三味線方、東音味見亨の長男として横浜に生まれる。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。現在、東京藝術大学音楽学部邦楽科准教授、沖縄県立芸術大学非常勤講師。（一社）長唄協会、東音会、古曲会、十寸見会に所属。NHKテレビ、ラジオ放送、松竹歌舞伎公演、長唄協会演奏会、国立劇場主催演奏会、長唄東音会公演、等で演奏活動を行なっている。

●杵屋勝三郎（（一財）杵勝会八世家元）

昭和42年東京生まれ。3歳より九世松永鉄五郎氏に手ほどきを受け、6歳より杵屋勝国氏に師事、15歳で杵屋清治郎として初舞台を踏む。大学卒業後、歌舞伎公演・舞踊公演・海外公演・NHK放送等に出演し、平成20年 財団法人杵勝会理事に就任。翌平成21年 役員会の推薦により、杵勝会八世家元 杵屋勝三郎を襲名。平成22年国立劇場大劇場に於いて襲名公演を開催、平成23年南座、平成27年博多座にて杵勝会全国大会を開催、平成31年4月には歌舞伎座にて同公演を2日に渡り開催予定。長唄三味線演奏活動の他、（一財）杵勝会の定期演奏会・全国大会等の企画・制作を手掛ける。杵勝女流真幸会、若手勉強会新樹会の指導や後進の育成にも力を注ぐ。

企画立案と若手人材の活用 —邦楽デモンストレーションと舞台のしつらえ—

福原寛(福原流笛方)

四世家寶山左衛門師(六代目福原百之助 人間国宝)に手ほどきより師事。1990年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、1992年同大学院修士課程修了。歌舞伎や日本舞踊会などの古典を中心とした演奏活動のほか、NHK古典芸能鑑賞会、国立劇場主催公演などの企画公演に出演、また能楽と歌舞伎囃子の融合を目指す三響会にも初回から出演。他ジャンルの演奏家(インドバズリーの巨匠ハリプラサード・チャウラスィアー氏、サムルノリの金徳珠氏、オリエントミーの笠井観氏など)や、語りや朗読とのコラボレーションなど様々な演奏表現にも積極的に参加。1999年第2回ジョイントリサイタル「笛と唄と」にて名古屋市民芸術祭審査員特別賞受賞。2005～2006年十八代目中村勘三郎丈襲名披露興行に出演。その後、六代目中村勘九郎丈襲名披露公演や四代目市川猿之助丈襲名披露公演等に出演。横笛「苑の会」主宰。国立音楽大学非常勤講師。東京学芸大学非常勤講師。目黒学園カルチャースクール講師。1992～1997年東京経産学園講師。2006～2008年国立劇場養成課講師。

【著作物】

「篠笛の本」「篠笛曲集一」「篠笛曲集二」「篠笛曲集三」「篠笛曲集四」

【制作CD】

「日本の響さ 一篠笛曲集一」

「笛 一四季を綴る一」

松永忠次郎(松永流唄方)

1967年東京生まれ。1972年、父、松永鉄庄治(鐵十郎)のお祝い会にて初舞台。同年、家元九世松永鉄五郎に入門する。1985年から長唄を杵屋直吉に三味線を松永忠五郎に師事し、高校卒業後、本格的に長唄の道に進む。1987年に松永鉄裕輝の名を許され、以後歌舞伎、演奏会、NHK放送等に出演する。1993年、松永忠次郎を襲名。1994年から河東節を山彦節子(人間国宝)に師事し、1996年に十寸見東裕の名を許されて河東節浄瑠璃方としても活動する。

長唄・囃子青年楽団「清響会」

〈唄〉

岩本富士子

平成10年東京生まれ。父は長唄唄方松永忠次郎。長唄は「関の小万」4歳、日本舞踊は母、藤間小太郎の手ほどきで「紙人形」を3歳にて初舞台。平成26年に藤間小ふくの名を許され、平成28年、国立劇場「連獅子」にて名披露目。平成26年に河東節 山彦節子師に師事、平成29年歌舞伎座にて「助六由縁江戸桜」河東節浄瑠璃で出演。現在東京藝術大学音楽学部邦楽科1年に在籍中。清響会同人として、国立劇場、博多座などに出演し研鑽を積む。

岩本留理子

平成13年東京生まれ。父は長唄唄方松永忠次郎。長唄は「羽根の禿」3歳、日本舞踊は母、藤間小太郎の手ほどきで「羽根の禿」を3歳で初舞台。平成29年に藤間小ゆうの名を許される。平成26年に河東節 山彦節子師に師事、平成29年歌舞伎座にて「助六由縁江戸桜」河東節浄瑠璃で出演。清響会同人として、国立劇場、博多座などに出演し研鑽を積む。

村治将之助

平成9年東京生まれ。父は六代目杵屋勝四郎。4歳より長唄を父に師事、10歳よりジャーニーズ事務所入所。新橋演舞場「滝沢歌舞伎」、青山劇場「少年隊PLAYZONE」、帝劇 森光子主演「人生革命」他、Hey!Say!JUMP、KAT-TUN、SMAPのコンサートに参加。平成26年東音味見純氏に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科3年に在籍。平成29年、杵勝会八世家元杵屋勝三郎より杵屋勝四郎の名前を許される。

〈三味線〉

坂口あまね

平成10年東京生まれ。3歳より長唄を杵屋利光師に学ぶ。6歳より八代目松永忠五郎師に三味線の手解きを受ける。祖父七代目杵屋勝三郎、父、八代目杵屋勝三郎に師事。5歳で「五郎時致」にて長唄初舞台、7歳で「越後獅子」にて三味線初舞台を踏み、数々の舞台を経験。14歳で杵勝会全国大会南座公演「二人榎久」にて「杵屋あまね」を名披露目。平成27年杵勝会全国大会博多座公演にて「吉原雀」の立三味線を務める。現在東京藝術大学音楽学部邦楽科2年に在籍中。清響会の同人として同年代の仲間と共に国立劇場、博多座などに出演し研鑽を積む。

味見優

平成11年長唄唄方東音味見純の長男として東京に生まれる。長唄、長唄三味線の手ほどきを父東音味見純より受ける。2歳で長唄「お月様」、7歳で長唄三味線「宵は待ち」を国立劇場にて初舞台。平成29年4月東京藝術大学音楽学部邦楽科に長唄三味線専攻で入学。現在長唄三味線を祖父である東京藝術大学名誉教授、東音味見亨と東音新井康子師に、長唄を杵屋三左衛門師に師事。清響会同人として国立劇場、福岡博多座に出演。

鈴木雄司

平成8年東京生まれ。6歳より津軽三味線を澤田勝信師に師事、14歳より長唄・長唄三味線を成田涼子師に師事。平成28年第29回新人演奏家コンクール邦楽器部門優秀賞。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学に在籍。在学中に東音会賞を受賞。平成29年清響会同人として杵勝ゆかたまつり「鏡獅子」平成30年杵勝会名古屋公演「鞍馬山」(上調子)に出演。同世代の同人と研鑽を積む。

〈囃子〉

山田崇

平成10年笛方福原寛の次男として東京に生まれる。幼少より囃子を二代目堅田喜代師に師事、長唄を東音味見純師に師事。5歳で雛鶴三番叟の太鼓にて初舞台。平成23年に東京都立白鷗高等学校中等部の特別B枠に囃子で入学、平成29年3月同高等学校卒業。現在、東京藝術大学音楽学部邦楽科に在籍。平成20年国立劇場にて四世家寶山左衛門追善の会に長唄石橋の太鼓にて出演する他、清響会同人として国立劇場、博多座などで囃子方として出演。長唄囃子「鼓調会」「藍の会」会員。横笛「苑の会」会員。

長尾基史

平成10年東京生まれ。幼少より囃子を祖父 藤舎呂浩、父、藤舎呂英に指導を受ける。現在、囃子を六世家元藤舎呂船師、藤舎呂秀師に師事、三味線を杵屋五助師に師事。平成19年長唄囃子「かざ花の会」にて初舞台(太鼓)。現在、国立劇場主催公演、観世能楽堂「花鏡」公演、各種海外公演等、様々な公演に出演。平成30年より清響会の同人として演奏会に参加。藤舎流「青瀟会」会員。東京藝術大学音楽学部邦楽科3年に在学中。

中島一樹

平成5年群馬県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒。平成28年より邦楽囃子を藤舎呂英に師事。翌年、東京藝術大学別科邦楽囃子に入学。現在、同学科2年に在籍中。平成30年国立劇場主催公演にて藤舎呂英連中として出演。

角田圭吾

平成8年東京生まれ。平成14年6歳より大田区にて和太鼓を始め、山本寛斎スーパーショー「太陽の船」、国立劇場「日本の太鼓」などに参加。平成24年 邦楽囃子を望月左太郎、長唄を東音味見純に師事。平成27年 東京藝術大学邦楽科入学。現在同大学学部4年に在学中。「平成中村座スペイン公演」など参加。学業と並行し囃子方として活動している。

高木瑞記

平成10年愛知県生まれ。笛を福原寛師に師事、三味線を杵屋三澄那師、長唄を東音山田卓師に師事。現在東京藝術大学音楽学部邦楽科3年に在籍。平成27年より清響会同人として、国立劇場、博多座などに仲間と出演し研鑽を積む。長唄囃子「藍の会」会員。横笛「苑の会」会員。

柴田英杞((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

(54ページ参照)

舞台技術

労働安全衛生法施行令の一部改正 —高所作業のあり方を学ぶ—

2月6日(水) 13:00~15:00 センター棟 309号室

[講師] 片野豊 ((公社)日本照明家協会 安全委員)
 [モデレーター] 草加叔也 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

劇場・音楽堂での舞台技術にかかわる作業には、舞台の設営などをはじめ高所作業が多い。高所作業による墜落事故は無理な姿勢で作業を行うなど、94%がヒューマンエラーから起こるといわれる。適正な器具の使用など安全対策を身につけ、それを現場で共有し、高所作業を行うことが必要とされている。

2018年5月、厚生労働省より労働安全衛生法施行令改正の諮問と答申が公表され、2019年2月に改正された。それによると、墜落制止用器具は、日本で主流の胴ベルト型安全帯でなく、フルハーネス型安全帯の使用が原則となった。さらにフルハーネス型安全帯の使用者は、特別教育受講が必要とされている。

今回の改正のポイントを片野氏がわかりやすく解説、さらにガイドラインに基づき作業内容による器具の選択などについても詳細に説明した。また特別教育受講が必要なケースについても触れた。

「高所」の定義とは、労働安全衛生法では「作業床のない2m以上の高さ」を指す。劇場・音楽堂にも該当する箇所は多い。しかし建設現場と異なり、高所作業における責任者が明確でなく監視が行き届いていない点を片野氏は指摘する。また作業をする箇所についてのリスク判断と対応、リスクアセスメントについても言及された。

最後に、実際の鉄道事故の事例を元になぜ事故が起きたかを出席者に質問、ヒューマンエラーを防ぐためにはシステムなどしよみの整備も重要であること、コミュニケーションの食い違いによる事故の可能性についても示唆した。



片野豊氏



草加叔也氏

片野豊 ((公社)日本照明家協会 安全委員)

フリー照明家、中央労働災害防止協会：中災防・安全管理者選任時研修講師。1963年(株)共立入社、照明を志す。東京オリンピック前年祭に参加、日本武道館のビートルズ日本公演の照明を担当する。イベントでは、昭和天皇在位50年・60年・平成天皇在位10年等の式典照明を担当。また、1991年世界陸上オープニングイベント・1993年Jリーグオープニングイベントの照明を担当する。海外ではルイジアナ州ニューオリンズ世界河川博覧会のジャパンデーズショーの照明を担当、その他オランダ・韓国などでコンサート照明を行う。現在は、中災防：安全管理者選任時研修講師、日本照明家協会・全照協安全委員会アドバイザー/特任講師として活動。

草加叔也 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

1957年岡山県倉敷市生まれ。劇場・音楽堂等を中心に基本構想・基本計画から施設整備、管理運営計画、改修計画などの策定に携わる。「可児市文化創造センター」「新潟市民芸術文化会館」「神奈川芸術劇場」「兵庫県立芸術文化センター」「ミューザ川崎シンフォニーホール」「穂の国とよはし芸術劇場」「彩の国さいたま芸術劇場(改修)」「東京芸術劇場(改修)」「日生劇場(改修)」などに関わる傍ら、ピーター・ブルック、ピナ・バウシュなどの日本公演で技術監督などとしても活動。1989年芸術家在外研修員(文化庁)として渡英。現在、空間創造研究所(劇場計画コンサルタント)代表。その他に東京芸術文化評議会・専門委員会委員、岡山芸術創造劇場(仮称)スーパーバイザー、(公財)千葉県文化振興財団理事、(公社)全国公立文化施設協会アドバイザーなどを務める。

舞台技術

● 劇場・音楽堂のITV設備の比較と課題検討

2月6日(水) 15:30～17:30 カルチャー棟 小ホール

[講師] 坂下仁(ヤマハサウンドシステム(株) 計画設計室 課長代理) 浅原康二(ヤマハサウンドシステム(株) マーケティング部 部長)

[モデレーター] 草加叔也((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

劇場・音楽堂の運営には欠かせないITV設備。しかしデジタル設備の導入がなされていない施設もまだ多い。今後、アナログ設備のハードは供給が減少していくことから設備改修を計画する際、ITV設備の更新を考慮することが望ましい。複数のモニターに映像を映し出しながら、講師より最新のITV設備について比較・解説が行われた。会場内を受講者が移動しモニターの前で視聴できるかたちで4つの比較実験が行われた。

●実験1 デジタル映像とアナログ映像の見え方の比較

アナログ映像では、デジタルに比べて鮮明度が下がり、機器のデジタル化によりアナログ映像においても遅れが生じることが示された。講師より画像の解像度による印象の違いもあることが説明された。

●実験2 HD(ハイビジョン)と4Kの画質の比較

4KではHDに比べ画素数が増えることで画質が向上するが、同時に伝送するデータ量も増大する。そのため従来のインフラを使用することが難しく、新規配線など機器意外のコストを要することが解説された。

●実験3 明転・暗転を通して、デナイト機能の切り替えによる見え方の比較

●実験4 ネットワークカメラとSDIカメラをネットワークで伝送したときの画質・遅延の比較

伝送方式による映像の違いと防犯用のネットワークカメラを舞台設備で活用する方法を説明する。

4つの比較実験を通じて、施設のITV設備には用途に合わせた選択が重要であることが示唆された。

その後、映像の遅延に関する情報提供、アナログからデジタルITV設備に改修する際の工事について、どのような優先順位で判断するかなどのポイントが伝えられた。



坂下仁氏



浅原康二氏



草加叔也氏

坂下仁(ヤマハサウンドシステム(株) 計画設計室 課長代理)

1971年生まれ、三重県出身。大学在学中に音響の世界に魅了され、学業そっちのけでPAやホール運営スタッフとして日々を過ごす。卒業後、スタジオの音響設備施工会社に入社。レコーディングスタジオ、MAスタジオの設計・施工に携わり、デジタル・オーディオや音響映像の同期制御について学ぶ。その後、音響・映像機器の輸入代理店等を経て、2005年にヤマハサウンドテック(現ヤマハサウンドシステム(株))に入社。技術提案を担当し、多目的ホールや商業劇場のほか、企業のプレゼンテーションルームや録音スタジオなど幅広い分野で音響・映像システムの構築に携わる。

浅原康二(ヤマハサウンドシステム(株) マーケティング部 部長)

1969年生まれ、兵庫県出身。大学卒業後、TOA(株)、松田通商(株)を経て、2000年にヤマハサウンドテック(現ヤマハサウンドシステム(株))に入社。ホール・劇場など舞台音響設備や舞台連絡設備(インターカムやITV)のシステム構築に携わる。「神奈川芸術劇場」などを数多くの劇場の音響設備を担当。デジタル音響調整卓と光ファイバーによる高音質音声伝送を採用したフルデジタル音響システム、舞台連絡設備の構築経験をもつ。現在は、ヤマハサウンドシステム(株) マーケティング部門のマネジメント業務を行っている。

草加叔也((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

(67ページ参照)

舞台技術

舞台美術家の仕事、舞台美術の活かし方・可能性

2月7日(木) 10:00~12:00 カルチャー棟 小ホール

[講師] 土屋茂昭(舞台美術家)

[モデレーター] 草加叔也((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

土屋氏が「舞台美術」の仕事について、まず自らの発想を舞台装置として実現するまでの理念を語る。

舞台美術は美術的造形性からではなく、必ず演劇的造形性からスタートすること、戯曲を読み込み作品に密着した表現形式を適確に選ぶ必要があること、さらに演出家の表現意図と合致していなければいけないことなどが挙げられた。その後、具体的な仕事の流れが説明された。台本を読み込み、演出家とイメージをすり合わせ、スケッチを元に図面を描く。それを大道具会社に発注した後、完成したものを稽古の場で確認、調整する。同時に舞台美術の仕事は、時間、予算との葛藤があることにも触れられた。

さらに自ら手がけた劇団四季作品の映像やスケッチ画を示しながら、仕事のリアルな展開を解説した。劇団四季『鹿鳴館』では、演出家浅利慶太氏の舞台美術への注文は、「高さを重層的に使い人間関係の歪みを見せたい」ということだけだった。土屋氏はスケッチを大量に描き、装置を構想するが、稽古時に上手と下手を逆にするなど、すべてを覆すような変更が行われた。そうした曲折を経ながらも発想を舞台に作り上げてゆく醍醐味が語られた。他にもミュージカル『EVITA』など数作品の制作過程が解説された。

最後に土屋氏が地方で取り組んでいる舞台講習会について紹介された。全国高校演劇大会の講習会では、プロの指導の下に高校生が短い創作劇を創る。土屋氏の模型を高校生が製作、舞台上でプロの舞台美術・音響・照明がそれをどうデザインするかを見せる。こうした取り組みを通して、舞台装置とは“モノ”を作るのではなく、「作品のイメージを装置にする」という概念を広く普及している。



土屋茂昭氏



草加叔也氏

土屋茂昭(舞台美術家)

1972年劇団四季舞台美術部、1983年美術部長、ミュージカル「CATS」の美術総合デザインを担う。以後、劇団四季製作のほぼ全作品の舞台美術や長野冬季オリンピック開閉会式美術スーパーバイザーなどを手掛ける。2000年独立してフリー。ストレートプレイ・ミュージカル・オペラ等の舞台美術家として活動。主な作品に「鹿鳴館」(四季自由劇場)「EVITA」[李香蘭]「ウエストサイド物語」(四季劇場他)地球ゴージャス「ゼロトピア」(ACTシアター)、「ぼくに炎

の戦車を」(ACTシアター/韓国国立劇場)、「ハロー ドーリー」[ショウボート](富山オーバードホール)、「チャンバラ」(ザ スズナリ)「誓いのコイン」(坊っちゃん劇場/ロシア国立マールイ劇場)、オペラ「エレクトラ」(ザルツブルグ祝祭劇場)「トスカ」、(藤原歌劇団 東京文化会館)など。

草加叔也((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)
(67ページ参照)

舞台技術

● 特定ラジオマイクの運用とこれからの課題 —劇場で使うワイヤレスマイクの現状を知り、歴史と未来を探る—

2月7日(木) 13:00~15:00 センター棟 309号室

- [講師] 渡邊邦男 ((一社) 特定ラジオマイク運用調整機構 (特ラ機構) 理事長・舞台音響デザイナー)
甲田乃次 ((一社) 特定ラジオマイク運用調整機構 (特ラ機構) テクニカルチーフ)
[モデレーター] 草加叔也 ((公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー)

劇場や音楽堂で使用されている特定ラジオマイク(A型ワイヤレスマイク)は、現在、新周波数帯への移行が完了した。A型ワイヤレスマイクを施設で使用する際、留意する点について講師から解説された。

まず渡邊氏より1953年アメリカで開発され日本に導入されたワイヤレスマイクシステムの歴史が語られた。

特定ラジオマイクは2012年から2つの周波数帯に移行を開始、新周波数帯に対応した機器への交換や設置は、携帯電話事業者による終了促進措置によって無償で行われた。現在の周波数帯の利用期限は2019年3月31日となっているが、昨年5月に全ての移行措置が完了した。新しい周波数帯は3タイプあり、(TVホワイトスペース帯: 470~710MHz, 特定ラジオマイク専用帯: 710~714MHz, 1.2GHz帯: 1240~1260MHz) TVホワイトスペース帯では、運用する施設・場所ごとに使用可能かどうかを総務省のチャンネルリストで確認することなど、使用時の注意点が紹介された。また新規に設置する場合や、施設を改修した際の手続き、費用などにも触れられた。

また甲田氏からは、スティービー・ワンダー、ローリング・ストーンズなど来日ミュージシャンの事例を挙げ、コンサートにおける日本の電波利用システムがどのように進化してきたかの経緯が語られた。

最後にチューナーを用いてワイヤレス機器へのノイズをどのように防ぐかの実験が行われた。シールドする素材によって妨害電波をシャットアウトできる度合いが変わる様子が示され、シールドによって外からの電波を防ぐと同時に自ら発信した電波を外に漏らさないことで、より良い電波環境の実現につながるということが提案された。



渡邊邦男氏



甲田乃次氏



草加叔也氏

渡邊邦男

((一社) 特定ラジオマイク運用調整機構 (特ラ機構) 理事長・舞台音響デザイナー)
栃木県栃木市生まれ。1973年フリックプロ入社。本間明氏に師事し帝国劇場を中心に、ワイヤレスマイクの黎明期から演劇・ミュージカルの舞台音響を学ぶ。1993年に新国立劇場の開場準備に参画後、オープニング前の1994年からの21年間、新国立劇場技術部で音響・映像を統轄。幅広いジャンルでの音響デザインを手がけるとともに、舞台音響家の育成にも力を注いでいる。2016年、特ラ機構事務局に入局し現在に至る。主なミュージカル作品には、日本初演の『レ・ミゼラブル』や『ミス・サイゴン』をはじめ、『太平洋序曲』『エリザベト』『三文オペラ』などがある。(一社) 特定ラジオマイク運用調整機構理事長、(公社) 日本舞台音響家協会理事長、(一社) 舞台技術者連合副会長、日本大学芸術学部非常勤講師、武蔵野音楽大学非常勤講師。

甲田乃次

((一社) 特定ラジオマイク運用調整機構 (特ラ機構) テクニカルチーフ)
1975年3月録音技術専門学院(現 学校法人音響芸術専門学校)卒業、SRエンジニアを経て、1981年より業務用音響機器の営業担当として多くの製品を手掛ける。1996年よりイヤモニターの制度化に関係し、当時の郵政省などに働きかけを行う。2000年特定ラジオマイクの標準規格RCR STD-22 2.0版の策定に関係する。2013年特定ラジオマイク利用者連盟入局。2014年(一社) 特定ラジオマイク運用調整機構として法人化。技術系の責任者として現在に至る。

草加叔也 ((公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー)
(67ページ参照)

舞台技術

最新の劇場から舞台技術について学ぶ —札幌文化芸術劇場 hitaru—

2月7日(木) 15:30~17:30 センター棟 309号室

[講師] 伊藤久幸 ((公財)札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 舞台技術部長)

[モデレーター] 草加叔也 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

伊藤氏は、過去に歌舞伎座、新国立劇場技術部などに勤務し、その経験を活かして新劇場をつくり上げるまでの過程を語った。札幌文化芸術劇場は2018年10月に開館、前月に北海道胆振東部地震が発生した。開館準備をしていた劇場には400~500人の避難者が訪れ、携帯電話の充電設備が必要なことなど防災への備えを再認識した。

劇場は多面舞台であるため、規模の大きいオペラやバレエ公演を招聘できる。伊藤氏は、設計に新しい手法・デザインを採り入れる。かさ張りがちな音響反射板を後方に格納する設計を採用し、搬入口を9m50cmと大型にした。ステージの下には大道具庫を設置している。そのためには床機構を省いた。ハイスペックな床機構は使用頻度が低く必要ないと考えたためだ。

伊藤氏は設備のスペックを上げることだけが必ずしもより良い劇場を創り出すわけではないとする。計画する劇場が果たすべき役割を考え、施設計画のバランスを整える。また巡回公演を上演するためにも、使いやすいレベルの設備を備えていることが重要とする。

劇場の技術的な運営は職員4名と、地元7社で構成された委託会社の15名を合わせ、19名の体制で運営されている。複数の会社に関わる方が協議の場が生まれ、アイデアが出るという。さらに創造的劇場をめざす意図で舞台監督を置いた。

一方で課題もある。劇場新設にあたって技術部に映像部門を設けられなかったことだ。映像部門は舞台美術・照明・音響と並んで舞台芸術の上演にとって不可欠になりつつある。今後の目標の一つは、フリーランスのアーティストなど地元の人材育成である。創造的劇場とは大規模な事業を行う場ではなく、規模は小さいながらも新しいものを生み出す施設であるとする。



伊藤久幸氏



草加叔也氏

伊藤久幸

((公財)札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 舞台技術部長)
1978年、(株)歌舞伎座内長谷川大道具に入社する。退社以降はフリーの舞台監督として活動する。主な活動作品として、セゾン劇場のピーター・ブルック演出「カルメンの悲劇」「マハバラータ」「桜の園」「テンペスト」、仲代達矢主宰の無名塾公演「令嬢ジュリー」「リチャード三世」「ハロルドとモード」、幕張メッセ及び宮崎シーガイアの「オープニングセレモニー」などを担当。1994年(財)

国立劇場運営財団に入社以降は、新国立劇場の技術部にて活動する。2007年より2016年1月まで同劇場の技術部長を務める。2016年2月(公財)札幌市芸術文化財団 舞台技術アドバイザー。2016年4月(公財)札幌市芸術文化財団市民交流プラザ開設準備室舞台技術担当部長。2018年4月より現職。

草加叔也 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)
(67ページ参照)

基礎講座

人材養成基礎講座

● 人材養成基礎講座

● 2月6日(水)・7日(木) 全5講座 センター棟 310号室

[講 師] 田村孝子 (公社)全国公立文化施設協会 副会長
 [モデレーター・講師] 小川幹雄 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) 鈴木輝一 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)
 間瀬勝一 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)

本講座は、劇場・音楽堂等に勤務するすべての方を対象に、劇場・ホールについての概念から、管理運営、事業企画、舞台技術などの全般について体系的に学ぶことを目的に、テキストを使用し、行った。

講座1 第1章 劇場・ホールとは

日本には公立の劇場・ホールが2,200あり、世界最多といわれる。劇場・ホールは「鑑賞する場」「創造する場」として「地域の文化拠点」である。劇場に関する法整備の経過を、1948年の「世界人権宣言」から、日本の「文化芸術基本法」「劇場法」まで、内容を熟知し活用するよう説明した。

公立劇場が果たすべき使命と役割については、劇場設立の目的は地域ごとに違うことから、地域の実情をとらえ、「誰に何を提供するか」「何が達成できるか」などの点を考慮して、自治体と協力しながら運営していくのが望ましい。また施設には税金が投入されており、「公益性はあるか」ということも確認すべきポイントである。

講座2 第2章 施設運営とは

施設運営では、ホールの達成すべきミッションをいかに効率よく行うかが重要になる。そのためには専門人材を活用することも考慮したい。事業の成果は住民にも報告されることが望ましく、また住民から評価を求めることも必要である。運営では安全対策に配慮したい。外国人にはコミュニケーションボードを作ると役立つ。災害に関してはマニュアルを作り役割分担するなど事前の準備が必要になる。また観客参加型の訓練を行い、観客の誘導をぜひ体験しておきたいものである。

第3章 劇場・ホールの事業とは

ホールにはいくつかの役割があるが、場を提供する「貸館事業」では、アマチュアの方が発表する際アドバイザーになる“戦略的”貸館事業を推奨する。貸館事業は自館の特徴をアピールでき広報の機会になる。「鑑賞機会の提供」では、自分の趣味に走らないことが大切である。「文化芸術の普及啓発事業」はこれから最も重要になる。将来のお客様を作る事業であり、ワークショップ・アウトリーチ・住民による文化活動への支援などを通じて注力したい。さらに「優れた舞台芸術の創造・育成」も継続的に行うべきである。事業は「誰をターゲットに行うか」を考慮すべきであり、それにより開催時間や形態が変わってくる。その他、市民を味方につける「参加型事業」などを紹介する。



田村孝子氏



間瀬勝一氏

講座3 第4章 劇場空間とは

まず劇場空間の特徴を解説する。作り手と受け手が「一回性」で「時空間を共有」するのが劇場空間である。さらにギリシャまで遡り、世界の劇場の歴史を現代までたどる。舞台形式による分類が行われ、「プロセニウムステージ」の語源、「シューボックス型」「ワインヤード型」の音響の違いなどを実例を挙げて解説する。また舞台を作る際、尺貫法で測るとメートル法より丈が長くなること、舞台までの距離や角度など観客にとって見やすく聴きやすい客席作り、残響効果などについても詳細に説明された。劇場は舞台人から選ばれる立場にもあり、説明するために自館の特徴を把握しておくこと、有料で他館の舞台を鑑賞してみるなどがアドバイスされた。



鈴木輝一氏

講座4 第5章 ①舞台業務の概要

舞台業務とは、具体的には、舞台技術・舞台運営・舞台管理の三つを指す。施設担当者が留意すべき点を中心にそれぞれの仕事の流れとポイントを解説する。舞台業務で最も重要なのは安全管理である。事前打ち合わせの大切さ、持ち込み機材への対応、上演時に災害が起こったときの対応などを語る。また、安全を守るために禁止事項を増やし、創造行為を抑制しないことも提言された。その後、舞台機構設備について、種類別に一つずつ解説をした。



小川幹雄氏

講座5 第5章 ②舞台設備

舞台照明と音響・映像について講義が行われた。舞台照明は現在、半導体素子で調光するシステムを用いているが、照明への移行段階である。調光を行う方法やフラットライトなど照明の種類が紹介される。音響ではシンプルな音源からシンセサイザーを経て音響家の表現へと移行した音の歴史、PAシステムのしくみなどが解説された。映像は、映写機の発明からプロジェクションマッピングまで進化した過程が語られた。さらに映像のイメージを変えるアスペクト比、4Kなど映像技術の基礎知識を自作映像を見せつつ紹介した。

田村孝子（(公社)全国公立文化施設協会 副会長）
（63ページ参照）

小川幹雄（(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー）
（一社）日本舞台監督協会理事長、（一社）文化庁芸術家在外研修員の会理事長、劇場芸術国際組織日本センター副会長、（公社）劇場演出空間技術協会執行理事、他。ロンドン大学大学院修士課程修了MA。文化庁芸術家海外研修制度にて英国派遣。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー、ナショナル・シアターにて研修。海外公演、全国公演多数を含め、演劇、ミュージカル、伝統芸能、コンサート等、幅広い分野において舞台監督を務める。新国立劇場では舞台技術部テクニカル・マネジメントのヘッド、国際連携協力室初代室長を務め、オペラ、舞踊、演劇等、現代舞台芸術全般に携わる。舞台芸術創造と劇場管理運営の豊富な経験を持つ。米国北東部劇場研修コーディネーター、インドネシア教育文化省招聘全国劇場技術者指導、韓国産業技術試験院セミナー講師、他。早稲田大学講師、日本大学講師、等。著書に「舞台監督」、等。

鈴木輝一（(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー）
大学在学中に早稲田小劇場（現劇団SCOT）創立に参加し、役者・舞台デザイン・演出など演劇活動に携わる。（株）サウンドクラフト（現エス・シー・アライアンス）入社後、スタジオワークやPAなど音響の業務に幅広く従事し、以後2012年まで同社代表を務める。1970年代には日本PA協議会（現日本舞台音響家協会）の設立に参画し、1980年には中央検定委員として音響技能検定を発足させる。また日本武道館の音響設計やBUNKAMURA・新神戸オリエンタル劇場・能登演劇堂などを担当し、数十に及ぶ劇場・ホールの基本構想・施設計画・音響・演出設備設計を担当・参画してきた。また博覧会のパビリオンをはじめ、博物館・テーマパーク・大規模商業設備などにおける演出空間の創造の様々な場で活躍し、現在は演出空間の総合プロデューサーとしてソフトとハードが一体化した空間創りを目指している。

間瀬勝一（(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー）
（62ページ参照）

共通

ファイナルプログラム

近藤良平のダンス語り

2月8日(金) 10:00~11:45 カルチャー棟 小ホール

[講師] 近藤良平(コンドルズ主宰)

コンドルズを始めたのは1996年、仲間6人で結成した。2000年頃初めてニューヨーク公演に行き、それから“五大陸制覇”の夢を抱いた。以来、さまざまな国の舞台に立ち、ずいぶん面白い体験もした。

例えば、マレーシアでは上演中コーランの音が容赦なく響いたり、ブラジルはのんびりしていて観客が集まってくるのは45分遅れ(笑)、アメリカでは舞台上で煙を焚いて火災報知器を鳴らしてしまい、消防から30分叱られた後、再開した。

国内各地でも公演を重ねているが、基本的に一度行った土地ではできるかぎり継続する形をとりたいと思っている。1度だけ盛り上がるのは簡単なこと、続ける方向でいつも模索している。「ダンスと演劇、どちらをやりたいのか?」そう聞かれることも多いが、僕は「どちらでもないと思う」と23年間、言葉を濁し続けた。それが結果的には良かったと思っている。コンドルズそのものが一つの表現形式だと思ってもらえたから。

ダンスを元にさまざまなものをつなげて拵げていく活動がしたいと思っている。NHKで「サラリーマン体操」、NHK教育で親子向けの「こんどうさんちのたいそう」を作ったのもそのためだし、豊島区では毎年「にゅ～盆踊り」を多くの方に楽しんでもらっている。

個人的に劇場という空間について感じるのは、“大きなおうち”だなということ。大きな音が出せるし素足になれて気持ちいい。僕は公演最終日に帰る瞬間が好き。さっきまであれほど熱狂があったのに、さっと掃除してパチッと電気を消すとすべてゼロに戻る。翌日、電気をつけてまた新しい劇が始まる。このおうちが地域の人にとって「今日も寄ってみようかな」と思える場になればいいと思う。

最後にちょっと体を動かしてみましようか。(近藤氏の指導で客席全体でエクササイズ)体を動かすと主体的になれる。皆さんもっとゆるく考えてダンスを楽しんでほしいと思う。



近藤良平氏



近藤良平(コンドルズ主宰)

振付家・ダンサー、コンドルズ主宰。NHK「サラリーマンNEO」、「からだであそぼ」に振付出演、「てっぱん」オープニングの振付も担当。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞を受賞。いくつかの大学で非常勤講師としてダンスの指導にあたる。コンドルズは2016

年に20周年記念となるNHKホール公演を敢行、前売り券即日完売、追加公演を行う。現在、NHKエデュケーショナルと共に0歳児からの子ども向け観客参加型公演「コンドルズの遊育計画」や埼玉県と共に「近藤良平と障害者によるダンス公演」ハンドルズ公演など、多様なアプローチでコンテンポラリーダンスの社会貢献に取り組んでいる。南米育ち。愛犬家。

「全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会」アンケートより

● アートマネジメント関連講座

基調講演

- ▶ 直接的に観光戦略に関わる仕事ではないが、文化政策・文化戦略のあり方を考えさせられたので、よい機会だった。
- ▶ 勤務地域には観光地がありますので、文化と観光というテーマは大変貴重な機会でした。

中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開

- ▶ 具体的な行動の仕方や企画の成功例を聞き、試してみたい、挑戦してみたいと思うことができました。身近にある場所や事を合わせて、新たな事を生み出す発想力、柔軟性が重要だと感じました。
- ▶ 特別なことではなく、地道に出演者を見つけ、チケットを売っていくことなのだと思います。それが、プロモーターに頼らず、人の縁やTwitterなのだと。原点に戻って考えてみる気になりました。

公立文化施設の大規模改修

- ▶ 利用率が高い中、今のうちから大規模改修のことも考慮していくとなると非常に大変ですが、前向きになれるようなヒントを頂きました。

指導者養成演劇ワークショップ

- ▶ これまでのセミナーで体験したワークショップの中で、最も実践に活用できる内容でした。演技・演劇を活用したコミュニティづくりの参考にさせていただきます。
- ▶ 人との距離がグーンと一気に近くなる演劇の力を実感しました。自館のボランティア研修にも応用できそう！と感じたので、新規受入れの時に早速やってみようと思います。

劇場・音楽堂等及び芸術団体の評価制度を考える

- ▶ 普段仕事をする上で特に意識はしていなかったが、劇場の質の向上を目指すためにも「評価」を意識することも大事だと感じました。
- ▶ 劇場のレベルにもよると思いますが、しっかりとPDCAができる体制自体を作っていくことがまずは課題だと思います。

自然災害(地震、風水害)への備え

- ▶ 災害に対する取組の必要性を強く感じながらも、専門職員がいるというわけではなく、「震災対応ハンド

ブック」等を参考にして、少しずつ取り組んでいる状況です。BCPの策定ができれば、災害時の職員数にかかわらず、優先事項を誰もが理解して動くことができそうなので、ぜひやってみたいと思います。

マーケティング入門

- ▶ こういった研修会は苦手なので、あまり期待はせず参加しましたが、本当に目からウロコな話が多く、とても勉強になりました。お話もわかりやすかったです。

自治体文化政策の基本を理解する

- ▶ 非常に楽しく、わかりやすく、ひきこまれる内容の研修でした。中川先生には、支援員派遣事業を使って、ぜひ当館職員に話をしていただきたいと思っております。
- ▶ 自治体の職員として会館の指定管理担当として関わってきましたが、そもそもの政策的な基本を学びたいと思い、今回初めて受講しました。今回の研修で、本当の意味での基本、根本の考え方を理解できたと思います。中川先生のお話は、わかりやすく、とても本質を突く内容で、2時間があっという間でした。

「働き方改革」は文化施設に何をもたらすか

- ▶ テーマに沿って、詳細な資料、またお話をお伺いできて、大変参考になりました。働き方改革に伴い、特殊性のある劇場職員にも働きやすい環境を整えた上で、よりよい文化芸術を市民に提供していけると良いと思いました。

親子のための伝統芸能ワークショップ

- ▶ 日本の伝統芸能に特化した内容を初めて受講し、実際に鼓を手にして楽しかったです。今後のワークショップ企画の参考になりました。

「観劇サポート」とは

- ▶ 体験談、事例などを交え、実演もしていただきながらお話をいただけて、とてもわかりやすく良かった。すべてやってみることはなかなか難しいが、できることから取り組んでいきたいと思いました。
- ▶ 我々だけではフォローできない様々なサポートシステムのご紹介は、とても有効でした。当館の次年度事業で、これらのいくつかを絶対取り入れようと本日決めました。

“ハコ”を活かして

- ▶ 子ども向けのイベントは、各ホールで開催されていると思いますが、今日聞いた2つは、おもしろさを追求されていて、好評なのが想像できました。これから、子育て支援としてイベントのニーズが高まっていく中で、大変参考になりました。
- ▶ ホール規模の違いはありますが、企画することの意味や、チャレンジ精神などの部分で、非常に参考になることが多くあり、とても勉強になりました。

企画立案と若手人材の活用

- ▶ 邦楽に関して、若い方々（後進者）の育成の大切さにつ

いて実感しました。

- ▶ 古典芸能を伝承していくことは、今後、公立文化施設の使命として取り組むべきことと改めて思った。

ファイナルプログラム

- ▶ 本当の楽しさ、人間の心といったことを学んだ気がした。多様な考え方も学んだ。
- ▶ 劇場が“家”という感覚が素敵だと思いました。
- ▶ 最後のミニワークショップでは、人の心を開かせるきっかけとしてのダンスをほんの少し体験させて頂くことができた。明日からの業務でも役立たせることができると感じた。

● 舞台技術関連講座**労働安全衛生法施行令の一部改正**

- ▶ 現場の人間ではないが、現場スタッフにしっかり伝えていけたらと思う。いかにヒューマンエラーをなくすかが大切と感じた。
- ▶ 管理目線、業者目線で受講したが、演者目線を意識して管理業務に活かせるように勉強していきたい。

劇場・音楽堂のITV設備の比較と課題検討

- ▶ 遅延の他にも注意点が分かりやすく確認できて良かった。
- ▶ 私のホールもITVが古く、改修予定があり参考になった。時期は未定だが、その時までにはさらに進化して遅れが少なくなるとうれしい！

舞台美術家の仕事、舞台美術の活かし方・可能性

- ▶ ぜひ地域に戻り、小さいものからでもデザイン創造を意識する仕事をしていきたいと思った。
- ▶ 作品に対する裏方としての向き合い方を改めて学ぶことができた。「台本から発見し発想する」。この言葉にはハッとさせられるものがあった。

特定ラジオマイクの運用とこれからの課題

- ▶ ワイヤレスマイクやイヤモニの歴史とこれからが知ることができた。
- ▶ 公共施設等は集合施設であることが多い中で、もっとこのようなセミナーを開催していただきたい。

最新の劇場から舞台技術について学ぶ

- ▶ 単に新しい劇場についての情報のみならず、劇場はどうあるべき、劇場とは何かを考える上で最新の考え方を学ぶことができた。地震の体験談も、現代ならではの対応の必要性が分かった。
- ▶ スペックが高いだけが良い施設ではない、全体的な整合性がとれた劇場が求められていることもあることに気づかされた講義だった。また、創造性とは何か？ 小さなことであっても、文化芸術を発信していくことも創造であること、今後の仕事に対して努力が必要ということも理解できた。

● 人材養成基礎講座

- ▶ ちゃんと学ばないままOJTで業務を続けてきたので、改めて学べたらということと、後輩へのレクチャーの参考になるのではないかと思い受講した。最後の「何のためにホールはあるのか」のお話も良かったです。
- ▶ 具体的な事例をたくさん話していただいたため、とて

も参考になり、危機管理意識もかなり強くなった。施設に戻って一つずつ実施していきたいと思う。

- ▶ 劇場・ホールは何のためにあるのか、再認識し、常に問いかけていくべきことを痛感しました。劇場についての基礎知識を得て、やる気が湧いてきました。

「全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 2019」会場風景

開講式



文化庁審議官 内藤 敏也 氏



(公社)全国公立文化施設協会 会長 日枝 久 氏

アートマネジメント関連講座

I 劇場・音楽堂等基盤整備事業



II 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 記録



III 参考資料

舞台技術関連講座



I 劇場・音楽堂等基盤整備事業

II 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 記録

III 参考資料

基礎講座



閉講式



文化庁企画調整課長 榎本 剛 氏



(公社)全国公立文化施設協会 副会長 田村 孝子 氏

Ⅲ 参考資料

基盤整備事業一覧

支援員の派遣による支援事業募集について

専門家チームの派遣募集について

全国劇場・音楽堂等職員

アートマネジメント・舞台技術研修会募集要項

スタッフ交流研修事業募集要項

平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」一覧

事業		概要	
I 情報提供事業	(1) 芸術文化情報提供事業	① 劇場・音楽堂等及び我が国の文化芸術の振興に関する情報、資料の収集・提供	(ア) ホームページでの発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用し、劇場・音楽堂等が必要なかつ有益な情報、活動の幅が広がる情報を分かりやすく整理し、提供 ・アドバイザー、コーディネーター等の人材紹介 ・全国公立文化施設一覧
			(イ) メールマガジンの発行 <ul style="list-style-type: none"> ・劇場・音楽堂等の管理・運営等に役立つ情報の発信 ・発行：原則 毎月1回発行 ・対象：メールマガジン購読希望者
			(ウ) FAQの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・日常相談業務対応等に寄せられた質問から、主な相談内容を「よくある相談」としてホームページに掲載
			(エ) 文化プログラムの参加推進 <ul style="list-style-type: none"> ・協会で運営する公演情報ポータルサイトと文化庁情報ポータルサイトの連携 ・全国の劇場・音楽堂等への参加呼び掛け
	② 劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援	(a) 支援員の派遣による支援 <ul style="list-style-type: none"> ・自主事業の企画・実施、施設の管理・運営等に関する指導助言を行う専門家を派遣 ・派遣方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 館派遣型 ② 地域派遣型 ・派遣回数：1団体3回まで 	
		(b) 日常相談業務対応 <ul style="list-style-type: none"> ・電話、メール、FAX等による相談受付 ・来所による相談受付 ・主な相談内容を「よくある相談」としてホームページに掲載 	
		(c) テーマ別専門家チームの派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・喫緊かつ優先度の高い課題に即した専門家チームを研修会等へ派遣 ・テーマ <ul style="list-style-type: none"> ① 伝統芸能事業企画制作 ② 震災対策・危機管理 ③ 施設、設備の改修(天井耐震化含む) 	
(2) 研修教材の製作企画・編集・発行	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場・音楽堂等における施設運営や人材育成等に資するため、時期に即応し、かつニーズの高いテーマの中から一つを選定して、業務遂行や職員研修、自己啓発等に活用できる教材を編集・発行 		

実施状況	委員等
<ul style="list-style-type: none"> ・専門人材情報の拡充 掲載人員：76名 ・情報プラザの拡充 ・全国公立文化施設検索の充実 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・発行 6月号(H30.6.15)～3月号(H31.3.15) 臨時号(H30.10.1),(11.21),(12.5),(H31.1.18) ・主な内容 研修会開催案内、国等の文化芸術施策に関する情報、助成金情報、調査研究報告、コラム等 ・発送数：約3,800通/1回(平均) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・掲載事例 ・ドローン事故による保険金支払い事例 ・オリンピック・パラリンピックにおけるパブリック・ビューイング申請 ・自然災害による公演中止の対応 	
<ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジンでの案内 ・beyond2020プログラムとのリンク ・文化庁情報とのリンク 	
<ul style="list-style-type: none"> ・募集期間：H30.5.17～6.12 ・実施期間：H30.7.1～H31.1.15(2.27) ・審査会：H30.6.22 ・申込件数：30件80回 ・派遣決定件数：30件79回 ・実施件数：30件78回 支援施設数 63施設 ・派遣支援員数：31名 	<p>審査会委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒井誠((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) ・渡辺日佐夫((公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター) ・佐藤やよい((公社)全国公立文化施設協会 前事務局次長)
<ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：H30.5.17～H31.3.29 ・相談対応件数：(H31.2.20現在) 来所相談 2件 電話・ファクシミリ・メール等による相談 126件 	<p>相談対応者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(公社)全国公立文化施設協会 事務局 ・(公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー・コーディネーター ・各種専門家、団体、等
<ul style="list-style-type: none"> ・募集期間：随時 ・実施期間：H30.5.17～31.3.15 ・実施回数：1回 実施日：H30.11.2 テーマ：(B)震災対策・危機管 研修会：奈良県公立文化施設協議会 自主文化事業情報連絡会及び技術研修会 会場：奈良県橿原文化会館 	<p>派遣講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大石時雄(いわき芸術文化交流館 アリオス 館長) ・本間基照(MS&AD インターリスク総研(株) リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ マネジャー上席コンサルタント)
<ul style="list-style-type: none"> ・タイトル： 「劇場・音楽堂等子どものためのプログラム企画ハンドブック」 ・編集会議：第1回 H30. 8.22 第2回 H30.10.2 第3回 H30.12.18 ・仕様：A5判96頁 ・発行部数：2,600部 ・発行：H31.3 ・配布先：公立文化施設(2,200カ所)、希望者 	<p>編集委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪本洋三(近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻 教授) ・下山久(演劇プロデューサー / エーシーオー沖繩 代表) ・田村孝子((公社)全国公立文化施設協会 副会長) ・美山良夫(慶應義塾大学 名誉教授) ・森本真也子(NPO法人子どもと文化全国フォーラム 代表理事)

平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」一覧

事業		概要	
Ⅱ 研修・交流事業	(1)全国劇場・音楽堂等職員(アートマネジメント・舞台技術)研修会	<ul style="list-style-type: none"> •アートマネジメントと舞台技術に関する専門的研修を体系的に実施することにより、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を支援 	
	(2)地域別劇場・音楽堂等職員(アートマネジメント・舞台技術)研修会	①地域別アートマネジメント研修会	<ul style="list-style-type: none"> •劇場・音楽堂等の企画力、創造力、運営能力、技術の強化や、職員の自発的な研鑽と自己啓発を促すため、若手職員等を対象とした研修会を行う。また、地域職員の交流を深め、相互のネットワーク形成及び情報交換の場とする
		③地域別舞台技術研修会	
	(3)劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業	①実務者派遣研修	<ul style="list-style-type: none"> •地域の劇場・音楽堂等において、アートマネジメント及び舞台技術を担当している中堅職員を、優れた活動を行っている他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行う
		②実務者相互派遣研修	<ul style="list-style-type: none"> •劇場・音楽堂等に勤務する職員を相互に派遣し、共通の問題の改善・向上を目的に、実務研修や交流を行う
		③実務者交換研修	<ul style="list-style-type: none"> •劇場・音楽堂等に勤務する職員を1か月～6か月程度の中期に渡って相互に派遣し、実務に従事しながら研修や交流を行う

実施状況	委員等
<ul style="list-style-type: none"> •企画会議：H30.7.12 •企画調整会議：第1回 H30.10.18 第2回 H31.1.7 •日 程：H31.2.6~2.8 •会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター •プログラム数 共通2講座 基調講演(デービッド・アトキンソン) ファイナルプログラム(近藤良平) アートマネジメント14講座 舞台技術5講座 基礎講座5講座 •参加者：1,179名(延べ4,134名) 	<p>企画委員</p> <ul style="list-style-type: none"> •間瀬勝一 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •草加叔也 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •柴田英杞 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •岸 正人 ((公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター) <p>企画調整委員</p> <ul style="list-style-type: none"> •伊藤美歩 ((公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター) •小川幹雄 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •岸 正人 •草加叔也 •酒井 誠 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •柴田英杞 •鈴木輝一 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •田村孝子 ((公社)全国公立文化施設協会 副会長) •中川幾郎 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •中村よしき(東京芸術劇場 事業企画課 次席) •平野英俊 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー) •本間基照 ((公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター) •間瀬勝一 •本杉省三 ((公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー)
<ul style="list-style-type: none"> •全国7地域で開催 •開催期間：H30.8~H31.2 •実施地域・日程・会場・参加者数 北海道：H30.8.28~8.29 北広島市芸術文化ホール 23名 東 北：H30.10.4~10.5 五所川原市ふるさと交流圏民センター 25名 関東甲信越静：H31.1.16~1.17 国立劇場 83名 東海北陸：H31.1.24~1.25 富山県民会館 47名 ※舞台技術研修会と同日開催 近 畿：H31.2.14~2.15 吹田市文化会館メイシアター 88名 ※舞台技術研修会と合同開催 中 四 国：H31.1.23(水)~1.24 おかやま旧日銀ホール(ルネスホール) 43名 九 州：H30.9.11~9.12 長崎ブリックホール(国際会議場) 62名 	
<ul style="list-style-type: none"> •全国7地域で開催 •開催期間：H30.10~H31.2 •実施地域・日程・会場・参加者数 北海道：H30.10.24~10.25 音更町文化センター(ふれあいホール) 20名 東 北：H30.11.15~11.16 名取市文化会館 48名 関東甲信越静：H30.11.12 ホクト文化ホール(長野県県民文化会館) 186名 東海北陸：H31.1.24~1.25 富山県民会館 30名 ※アートマネジメント研修会と同日開催 近 畿：H31.2.14~2.15 吹田市文化会館メイシアター 88名 ※アートマネジメント研修会と合同開催 中 四 国：H31.1.17~1.18 高知県立県民文化ホール 54名 九 州：H30.12.6~12.7 宜野座村文化センター(がらまんホール) 37名 	
<ul style="list-style-type: none"> •募集期間：H30.5.17~6.12(再募集 9.14~10.5) •実施期間：H30.7.10~12.31のうち、7~14日間程度。 •応募者：1施設1名 •実施 派遣元：金沢市文化ホール(公益財団法人金沢芸術創造財団) 受入先：埼玉会館/彩の国さいたま芸術劇場 研修期間：H30.7.27~8.4のうち計8日間 	
<ul style="list-style-type: none"> •募集期間：H30.5.17~6.12(再募集 9.14~10.5) •実施期間：H30.7.10~12.31のうち、7~14日間程度。 •応募者：なし 	
<ul style="list-style-type: none"> •募集期間：H30.5.17~6.12(再募集 9.14~10.5) •実施期間：H30.7.10~H31.1.31日のうち、1~6か月間程度 •応募者：なし 	



平成 30 年度文化庁委託事業
「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 支援員の派遣による支援」
募集について

1 主催

文化庁・公益社団法人全国公立文化施設協会

2 目的

本事業は、公益社団法人全国公立文化施設協会（以下、「全国公文協」という）が文化庁から委託を受けて実施する事業であり、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（平成 24 年法律第 49 号。以下、「劇場法」という。）及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」（平成 25 年文部科学省告示第 60 号）を踏まえ、我が国の文化拠点である劇場・音楽堂等（劇場法第 2 条第 1 項に規定する劇場、音楽堂等をいう。以下同じ。）において、実演芸術（劇場法第 2 条第 2 項に規定する実演芸術をいう。以下同じ。）に関する活動や、劇場、音楽堂等の事業が自主的・主体的に行われるよう、自主事業の企画・実施、施設の管理・運営等に関する指導助言を行う専門家（以下、「支援員等」という）を派遣し、企画・運営力等の向上を図ることを目的とします。

3 支援内容

- ・支援内容（テーマ）は、下記「支援員等の業務」（1）～（9）に該当するものとなります。具体的内容は申込書（様式 2）をご覧ください。
- ・本年度は申込者毎に各施設等の課題に対応し優先度の高い支援内容（テーマ）の項目を原則として 1 つに絞ってお申込みください。申込書（様式 1）に記載いただいた支援内容（テーマ）を審査会で検討し決定いたしますので、様式 1（1）～（3）の設問に具体的に記入をしてください。

- (1) 運営方針等に関する指導助言
- (2) 年間事業計画に関する指導助言
- (3) 個別の自主企画事業の企画制作に関する指導助言
- (4) 中期計画（3 か年程度）の企画立案に関する指導助言
- (5) 劇場・音楽堂等が行う芸術文化活動（創作活動）の企画制作に関する指導助言
- (6) 施設の管理・運営に関する指導助言
- (7) 施設の修繕・改修計画の企画立案に関する指導助言
- (8) 劇場・音楽堂等の新設に関する指導助言（基本構想立案段階でも可）
- (9) その他劇場・音楽堂等の活性化につながる指導助言

4 派遣する支援員等

- ・劇場・音楽堂等の活動の活性化に資する文化政策、舞台芸術、管理運営、事業企画、舞台技術、施設改修等の分野に関する有識者又は専門家を派遣します。
- ・原則として、申込者毎に1名の派遣とします。様式1「希望支援員氏名」欄には1名のみ記載してください。審査会で支援内容により複数の支援員の派遣が望ましいと判断された場合は、複数の支援員を派遣いたします。
- ・同じ支援員は、同じ施設等に連続して2年まで派遣が可能です。
例) 平成28年度、29年度に連続して派遣した支援員は、平成30年度は派遣ができません。

5 派遣の種類

- ・館派遣型：1施設を対象に派遣をします。
- ・地域派遣型：複数施設に対しての支援を行います（同一市内、同一県内の複数施設の支援、同一管理者の施設等）。代表施設、連絡担当者を決めてお申込みください。

6 派遣回数、時間

年間最大3回までとし、1回の支援時間は概ね4時間程度とします。

7 実施規模

延90回程度

8 実施期間

平成30年7月10日（火）～平成31年1月15日（火）

9 申込者

施設等の設置者、運営者（指定管理者等）

- ※ 平成27年度から29年度まで3年連続して当事業で支援員の派遣を行った施設等（申込団体が設置者、管理者の双方を含む）は今年度の支援の対象となりません。ご了承ください。

10 申込期間

平成30年5月15日（火）～平成30年6月12日（火）






11 申込方法

- (1) 申込書（様式1、2）を全国公文協ホームページよりダウンロードしてください。
- (2) 申込書（様式1、2）に内容を記入し、メール（pdfファイル）でお送りください。
メールで申込みができない場合は、4ページ記載の申込先・問合せ先までご連絡ください。
※ 申込後、担当者より希望内容について確認のご連絡をすることがあります。

12 審査会

- ・学識経験者等による「審査会」を開催し、派遣先、支援内容、実施回数等を決定します。
- ・審査会での審査により、ご希望頂いた回数の派遣や派遣そのものがない場合があります。

13 申込から実施までの流れ

- ・申込期間 平成 30 年 5 月 15 日（火）～平成 30 年 6 月 12 日（火）

 - ※ホームページより申込書（様式 1、2）をダウンロードし、メール(pdf ファイル)でお送りください。
- ・審査会 平成 30 年 6 月下旬（予定）

 - ※申込者の出席は不要です
- ・審査結果通知 平成 30 年 7 月上旬（予定）

 - ※郵送又はメールにより、支援員名、実施回数、実施内容等を通知します。
- ・支援員等との日程調整、打合せ等 決定通知が届き次第、支援員等に連絡の上、日程、支援内容の詳細等を調整してください。

 - ※原則申込者が支援員等へ直接連絡し、日程等調整をして頂きます。
- ・事業計画書提出 事業実施 1 か月前を目途にご提出ください。

 - (pdf ファイル又は郵送)
- ・支援事業実施 平成 30 年 7 月 10 日（火）～平成 31 年 1 月 15 日（火）
 - ①旅費請求書提出 ・各支援実施 2 週間前迄に、ご提出ください。
 (pdf ファイル又は郵送)
 - ②謝金申請書提出 ・支援員事業がすべて終了後、1 週間以内に、ご提出ください。
 - ③報告書提出 ・支援員事業終了後 2 週間以内に、ご提出ください。

14 申込上の注意

- (1) 支援員の派遣希望がある場合
 - ・特定の支援員等を希望する場合は、申込用紙に当該支援員等への連絡の有無をご記入ください。
- (2) 特定の支援員等の派遣希望がない場合
 - ・公文協ホームページ内「専門人材情報」をご活用ください（ただし、選んでいただいた方を、必ずしも派遣できるわけではありません。ご了承ください）。
 専門人材情報 <https://www.zenkoubun.jp/jinzai/index.html>
 - ・特定の支援員のご希望がない場合は、申込書、希望支援員の氏名欄に「マッチング希望」と記入してください。審査会に諮り、希望分野の支援員等を申込者に提案します。

15 謝金等

謝金及び旅費については、全国公文協が規程により直接支援員等に対し支払います。原則、申込者の立替等はありません。



平成 30 年度文化庁委託事業

「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 専門家チームの派遣」
募集について

1 主催

文化庁・公益社団法人全国公立文化施設協会

2 目的

本事業は、公益社団法人全国公立文化施設協会（以下、「全国公文協」という。）が文化庁から委託を受けて実施する事業であり、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」（平成 24 年法律第 49 号。以下、通称「劇場法」という。）及び「劇場・音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」（平成 25 年文部科学省告示第 60 号）を踏まえ、我が国の文化拠点である劇場・音楽堂等（劇場法第 2 条第 1 項に規定する劇場、音楽堂等をいう。以下同じ。）において、喫緊かつ優先度の高い課題に対応した専門家チームを地域で開催する研修会や講習会等に派遣し、指導・助言を行い、劇場・音楽堂等の活性化を図ることを目的とします。

3 事業の概要

- ・複数の劇場・音楽堂等や地方自治体、関係機関・団体等の職員、関係者等を対象にした研修会、講演会、勉強会等に、テーマに沿った専門家チームを講師として派遣します。
- ・専門家は、実施内容、実施時間、希望講師等を申込者と話し合いの上、2 名～3 名程度を派遣します（目安 1 名 1 時間～2 時間程度）。
- ・派遣する専門家（講師）の旅費を全国公文協が負担します。
- ・派遣する専門家のテーマ
 - A) 伝統芸能事業企画制作
 - B) 震災対策・危機管理
 - C) 施設、設備の改修（天井耐震化含む）

4 テーマの内容

- A) 伝統芸能事業企画制作
 - ・伝統芸能事業の概念、劇場・音楽堂等の取組み、企画制作、取組み事例紹介等
 - ・平成 29 年度「劇場・音楽堂等 伝統芸能事業 企画制作ハンドブック」（H30.3 刊行 全国公文協）等をもとに、実践的な知識やノウハウの提供を行います。
- B) 震災対策・危機管理
 - ・災害に対する日常管理、災害時の初動対応、防災訓練、災害対応事例の紹介等

- ・平成 29 年度「地震だ!! どうする!? 劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック」
(H30.3 刊行 全国公文協) や過去に作成したリスクマネジメント関係の資料を活用し、実践的な知識とノウハウの提供を行います。

C) 施設、設備の改修(天井耐震化含む)

- ・施設・設備改修の基本的考え方、長寿命化、改修のプロセス、改修事例の紹介等
- ・これまでに作成した改修ハンドブック等の資料を活用するとともに、最新の情報も含めて実践的な知識とノウハウの提供を行います。

5 対象とする研修会等

- ・劇場・音楽堂等や地方自治体、関係機関・団体等が主催(共催)する研修会、講演会、フォーラム、勉強会等で複数の団体等から参加者を募集するもの。
- ・研修会等が平成 31 年 3 月 15 日までに実施されるもの。

6 費用

- ・派遣する専門家の旅費(交通費、宿泊費、日当)を全国公文協が負担します(金額は当協会の規定によります)。
- ・旅費以外の費用(例 謝金)については、主催者等の負担となります。

7 申込期間及び方法

- ・申込期間: 随時(予算の範囲内での実施となりますので、希望の方はお早めにご連絡ください)
- ・「申込書」に必要事項を記載の上、「9 申込先・問合せ先」までメール(PDF ファイル)でお送りください。
- ・受付後、担当者より希望内容等確認の上、実施を決定いたします。

8 その他

- ・日程の都合等により希望された専門家(講師)を派遣できない場合があります。
- ・「専門家チーム派遣講師一覧」に記載した講師以外の講師となる場合があります。



平成30年度文化庁委託事業

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会2019

平成31年2月6日〔水〕7日〔木〕8日〔金〕

国立オリンピック記念青少年総合センター

主催：文化庁 公益社団法人全国公立文化施設協会

お申込み受付期間：平成30年12月5日〔水〕～平成31年1月17日〔木〕
お申込みはこちら（先着順）

（公社）全国公立文化施設協会ホームページ
www.zenkoubun.jp/



公益社団法人全国公立文化施設協会

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 2019

本誌6ページ「参加申し込みについて」に記載の注意事項をご参照ください。

お申込みはこちらから

〔公社〕全国公立文化施設協会 www.zenkoubun.jp/training/art.html

プログラム内容及び講師は変更になる場合がございます。

アートマネジメント関連講座 舞台技術関連講座 基礎講座 共通

これらカテゴリーを横断しての受講も可能です。

重複する時間帯のプログラムを同時選択することはできません。

2 | 6 | 水 11:00 ~ 11:15 | 開講式

2 | 6 | 水 11:15 ~ 12:00 | 基調講演

日本における文化と観光

金融アナリストとして活躍されたのち、日本の国宝や重要文化財の修復を手がける小西美術工務社のトップとして従事されてきたアトキンソン氏。これまでの多彩な経験とそのご見識にもとづき、日本における文化発信と観光、文化政策に関わるお話をお伺いする予定です。アトキンソン氏のお話は、劇場・音楽堂等に携わるすべての人にとって、文化施設はどうあるべきかを再考するきっかけとなるのではないのでしょうか。

デービット・アトキンソン (株)小西美術工務社 代表取締役社長

アートマネジメント関連講座

2 | 6 | 水 13:00 ~ 15:00 | 企画制作

中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開

自治体からの限られた「事業費」のなかで、地域に対してどのような事業展開が図られるか、負担等による運営機会の提供を中心とした中小規模館に向けて、今ある施設を活用して、予算をかけずにどのような事業展開が図れるか、ゼロ若しくは少額予算で事業展開を行っている先行事例を紹介するとともに、会場での意見交換により企画立案を検討します。

講師 | 小西昌幸 東京ホール 元館長
| 出口亮太 長崎市子トセピアホール 館長
モデレーター | 岸正人 (公社)しま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場施設等運営 課長

2 | 6 | 水 13:00 ~ 15:00 | 安全管理

公立文化施設の大規模改修

一災害への備えとバリアフリー化に向けて一

地震等自然災害への備え、建築及び建築設備や舞台設備の老朽化、少子・高齢化社会対応など取組むべき課題が山積しています。今回は、各種意見の取りまとめから公募プロポーザルによる設計者選定、優先すべき改修計画に伴う一時中断など、さまざまな場面を経験してきた市文化会館の事例と10事例の改修事例調査にもとづく改修計画の課題発表から、文化施設における災害への備えとバリアフリー化について、参加者のみなさんと考えてみたいと思います。

講師 | 関山知子 東京都文化生涯学習部文化生涯学習課長
モデレーター | 杉本浩三 日本大学理工学部特任教授

2 | 6 | 水 13:00 ~ 15:00 | ワークショップ/企画制作

指導者養成演劇ワークショップ

一手から手へコミュニケーションをつなぐ一

人と人、人と地域、人と社会をつなげる場所として、地域の劇場が演劇を通して出来ることは何か。一人より二人、二人より三人、三人よりも大勢で創り上げるモノは、必ず人の中に何かを生み出し、それが明日へつなげていくモノになります。つながりは、すぐ近くにある手から手へと、多くの手が一つのカタチをつくっていきます。コミュニケーションの輪をどのように広げ、全員であるカタチを創るプロセスを体験します。

講師 | 河田蘭子 演出家
アシスタント | 木村雅子 俳優
モデレーター | 酒井誠 演劇制作アドバイザー

2 | 6 | 水 15:30 ~ 17:30 | 文化政策

劇場・音楽堂等及び芸術団体の評価制度を考える

一日本芸術文化振興会におけるアーツカウンシル機能の成果報告一

平成 23 年度から日本芸術文化振興会に導入されたアーツカウンシル機能は、試行期を経て平成 28 年度に本格的な導入に至りました。現在、芸術団体への評価は 7 年目に入り、平成 30 年度からは劇場・音楽堂等に評価の範囲が拡大しています。8 年間に渡る評価制度の取組と成果を報告すると共に、今後、我が国における助成事業のあり方と評価方法について議論します。

講師 | 矢田文雄 (株)日本芸術文化振興会 基金部長
| 西川信廣 (公社)日本劇団協議会 会長
モデレーター | 栗田英紀 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー

2 | 6 | 水 15:30 ~ 17:30 | 安全管理

自然災害(地震、風水害)への備え。

一平成 29 年度「地震だ!! どうする? 劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック」のポイントと、業務継続計画(BCP)の策定一

地震、風水害など、大規模自然災害が発生しています。公立文化施設では利用者はもちろんのこと、地域住民のための災害拠点としての役割を果たすことも求められます。このような状況に迅速に対応できるように、平成 29 年度「地震だ!! どうする? 劇場・音楽堂等 震災対応ハンドブック」の内容を中心に、初動対応のポイントを紹介します。また災害時には人員や電気・水道等のインフラも限られます。そのような制限のあるなかでも業務を継続しなければなりません。このための計画を業務継続計画(BCP)といいます。本講座では、BCPの意義と、策定のポイントについても紹介します。

モデレーター・講師 | 本間基樹 MS&AD インターリスク総研 (株) リスクマネジメント 第一部 災害リスクグループ マネジャー・上席コンサルタント ほか1名

2 | 6 | 水 15:30 ~ 17:30 | プレゼンテーション(演劇・舞踊)

劇場・ホールの自主制作公演の紹介 演劇・舞踊編

一2020 年度以降の連携と全国展開に向けて一

全国の劇場・ホールにおいて、自主事業として演劇やダンス公演、コンサート等を企画・制作する活動が増えてきており、またその公演等を複数施設で共同制作したり、他施設にツアーを行ったりする事例も数見されるようになりました。このプログラムでは、2020 年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの担当者により、事業のプレゼンテーションを行い、共同制作やツアーの相手先施設とのマッチングを目指します。

講師 | 2020 年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの事業担当 3名
モデレーター | 岸正人 (公社)しま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場施設 事務局 課長

27 木 10:00～12:00

組織・事業の管理運営

マーケティング入門

「マーケティング」という言葉に対するアート関係者の反応はおおむね2つに分類されます。1つは「(商業主義の)悪魔の手先」、もう1つは「魔法の杖(集客のテクニック)」。これらはいずれもマーケティングの本質を捉えているとは言えません。本講義ではマーケティングや消費者行動に関する基礎理論の紹介を通して、目の前の事象の背景にあるメカニズムを理解し、実践的な解決方法を立案する視座を提供することを目的とします。

講師 | 川又啓子 青山学院大学 総合文化政策学部 教授
モデレーター | 伊藤美歩 (有) アーツブリッジ 代表

27 木 10:00～12:00

文化政策

自治体文化政策の基本を理解する

—劇場・音楽堂経営やその実務に携わる人のために—

この講座は、公立の文化ホール、市民会館、劇場、音楽堂等の経営や現場実務に携わる人を対象としてお話しします。もちろん、自治体の文化行政担当部署の職員さんもお聞き頂ければ、と思います。

自治体文化政策はなぜ必須不可欠な行政分野となっているのか。市民文化政策と都市文化政策の決定的な違い、市民文化政策と文化的人権、都市文化政策と都市の経済活性化、観光政策との関係、また、文化芸術基本法、劇場・音楽堂活性化法や公共的な劇場経営の基本を理解し、劇場の経営戦略を明確化すること。その他、今年度施行された障害者による文化芸術活動の推進に関する法律、指定管理者制度留意点と今後の方向性、行政(施設設置者)と公設財団(指定管理者など)のあるべき姿など、現場が身につけるべき文化政策理論を分かりやすくお話しします。

モデレーター・講師 | 中川健郎 日本文化政策学会顧問(初代会長)

27 木 10:00～12:00

プレゼンテーション(音楽)

劇場・ホールの自主制作公演の紹介 音楽編

—2020年度以降の連携と全国展開に向けて—

全国の劇場・ホールにおいて、自主事業として演劇やダンス公演、コンサート等を企画・制作する活動が増えてきており、またその公演等を複数施設で共同制作したり、他施設にツアーを行ったりする事例も散見されるようになりました。このプログラムでは、2020年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの担当者により、事業のプレゼンテーションを行い、共同制作やツアーの相手先施設とのマッチングを目指します。

講師 | 2020年度以降に共同制作やツアーを予定する複数の劇場・ホールの事業担当者
モデレーター | 中村よしき 東京芸術劇場 事業企画課 次長(音楽制作プロデューサー)

27 木 13:00～15:00

組織・事業の管理運営

「働き方改革」は文化施設に何をもちたらずか

劇場・ホールは、元々開館時間が長く、職員もその開館や事業実施に伴って週末も含めたシフト勤務となっています。また、指定管理者制度導入後、管理期間の継続が保証できないことを理由に有期雇用化が著しく進行しています。これらに加えて、2018年4月からの有期雇用者の無期転換や政府の進める「働き方改革」など、雇用や組織が抱える新たな課題も持ったなしとなっているなか、事例報告等を交えて今後の雇用環境を考えます。

講師 | 春日龍人 (公社)日本芸術家団体協議会
| 市川恵 (労労士法人) 専任労士事務所 社会保険労務士
モデレーター | 岸正人 (公社)としま未来文化財団 豊島区立芸術文化劇場施設事業課 課長

27 木 13:00～15:00

ワークショップ/企画制作

親子のための伝統芸能ワークショップ

—ことば遊びとリズム遊びの表現—

地域劇場は地域住民一人一人のもの。文化芸術の地域アイデンティティーは自然・風土の日常生活が原点。それは江戸期まで日本全土に流れ、広がりがありました。近代文化芸術の変革の中でも生き残ったのが伝統芸能です。その核を親子伝統芸能ワークショップによって子どもの時から体感し、覚醒させて、地域劇場の企画制作に役立てればと考えました。風流、地歌の伝統の中の創造の核「言葉遊び」「リズム遊び」に焦点を絞って探ります。

講師 | 葛タカ女 地味舞 葛流家元
| 望月忠慶 邦楽電子音楽家
| 野野孝男 NPO法人舞台芸術21ネットワーク 制作・理事
モデレーター | 平野英俊 舞踊評論家

27 木 13:00～15:00

企画制作

「観劇サポート」とは!

舞台表現の鑑賞にはさまざまなお客様が来館されます。舞台表現がみえない、音声が入らない、日本語がわからないなど、障がい者をはじめ高齢者や海外からのお客様も来館されます。健常者目線で事業を企画していませんか?今日は、視覚障がい、聴覚障がいの事例を例に「鑑賞サポート」対応のヒントをみつけないかと思ひます。

講師 | 栗川麻子 NPO法人シアターアクセシビリティネットワーク (T-a-net) 理事長
| 美月めぐみ ぽっかりぽっかり女優
モデレーター | 麗葉勝一 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー

27 木 15:30～17:30

企画制作

“ハコ”を活かして!

“文化による地域づくり”を目指し全国に2000以上の公立文化施設が存在する日本。6年前に通称「劇場法」も整備され各地の公共文化施設が様々な試みを始めました。そんな中、長年無料でホールを終日開放する集まりを行う2つの施設の取り組みについてお話しします。

サントリーホールは2005年から毎年の季節に「オープンハウス〜サントリーホールで遊ぶ!」を開催、大ホール、小ホール、ロビーまわり等を開放しコンサートを行っています。又、静岡グランシップは2006年から地域ボランティア発案で子どもの為の様々な遊びの場を提供しています。今ではホール全館を使い、地域の名物になり成長して訪れる子もいます。皆さまのホールを活かすために芸術団体、ボランティア、職員(ホール)の情熱と長年の努力を参考にさせて頂ければと思います。

講師 | 鈴木基規 (公社)静岡県文化財団 事務局長兼総務課長
| 長谷川肇樹 サントリーホール 企画制作部長兼 / プログラミングディレクター
モデレーター | 田村孝子 (公社)全国公立文化施設協会 副会長

27 木 15:30～18:00

企画制作

企画立案と若手人材の活用

—邦楽デモンストレーションと舞台のしつらえ—

限りある財源でどのように企画を立案していくかを考えると共に、日本の伝統文化を推進していく担い手をどのように育成し、積極的に活用を図っていくか、その方法を知ります。また、江戸文化の象徴ともいえる「長唄」を取り上げ、鑑賞解説を行うと共に、若手人材の育成と活用について指導者のお話と、流派を超えて結成した長唄・囃子青年楽団の演奏をお楽しみいただきます。

モデレーター兼講師 | 葛西聖司 古典芸能解説者
講師 | 味見純 東京藝術大学音楽学部邦楽科准教授 楽協会会長
| 村屋勝三郎 (一般) 邦楽会八世家元
| 藤原寛 福原流流方
| 松永忠次郎 松永流流方

曲目:「二人物久」又は「勧進帳(抜粋)」、若曲集(長唄メドレー)
演奏:長唄・囃子青年楽団「清響会」(有) 岩本富士子、岩本環璃子、村治将之助(三味線)坂口あまね、味見優、鈴木雄司(囃子)山田崇、長尾基史、中島一樹、高木瑠紀
舞台進行 | (公社)さいたま市文化芸術事業団 赤羽櫻哲也、井上和彦、神保富美子
モデレーター | 柴田英紀 (公社)全国公立文化施設協会 アドバイザー

舞台技術関連講座

2 | 6 | 水 13:00 ~ 15:00 舞台技術

労働安全衛生法施行令の一部改正
—高所作業のあり方を学ぶ—

2018年5月厚生労働省から「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令案要綱」と「労働安全衛生規則等の一部を改正する省令案要綱」の諮問と答申が公表されました。これは、高所作業を行う労働者の墜落による労働災害を防止するための措置で、高所からの墜落による労働災害を防止するための措置を強化するものであることから、政令案及び省令案要綱の趣旨とポイントについて学びます。

講師 | 片野豊 (公社) 日本照明学会 安全委員
モデレーター | 草加辰也 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

2 | 6 | 水 15:30 ~ 17:30 舞台技術

劇場・音楽堂のITV設備の比較と課題検討

劇場・音楽堂のITV設備は、舞台を遠隔で監視する上での重要な機能を担うだけでなく、舞台袖での演奏やコーラスなどでは、演出を支援する重要な機能を担っている。周知の通りカメラの広角化やPTZ機能・地視性能の向上に加えて、モニターのハイビジョンや4Kなどの高画質化。そして画像の通信システムなどが飛躍的に進歩してきている。このことからその組み合わせなどについて実際に実機を通して体感し、今後の改善等の一助にしていく。

講師 | 坂下仁 ヤマハサウンドシステム (株) 設計企画部設計設計課 課長代理
| 遠原康二 ヤマハサウンドシステム (株) 設計企画部 部長
モデレーター | 草加辰也 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

2 | 7 | 木 10:00 ~ 12:00 舞台技術

舞台美術家の仕事、舞台美術の活かし方・可能性

演劇やミュージカル、バレエ、オペラなどの舞台芸術にとって、舞台美術は舞台照明や舞台音響、衣裳、メイクと共に欠くことのできない重要な役割を担う。特に舞台美術は観客にとって作品の印象を視覚的に大きく左右する重要な役割を担っている。その舞台美術を生み出す舞台美術家は、地域の劇場公演では最も関係が希薄な舞台関係者である場合が少なくない。このプログラムでは、舞台美術家の仕事を知るとともに、地域で制作する公演において舞台美術の活かし方、可能性について考える。

講師 | 土屋茂昭 舞台美術家
モデレーター | 草加辰也 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

2 | 7 | 木 13:00 ~ 15:00 舞台技術

特定ラジオマイクの運用とこれからの課題

—劇場で使うワイヤレスマイクの現状を知り、歴史と未来を探る—

特定ラジオマイク(A型ワイヤレスマイク)の盗信防止を目的として、利用者相互間の運用調整業務を行う機関として設立をされたのが「一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構(特ラ機構)」である。劇場・音楽堂等との関係は、陸上移動局免許を必要とするA型ワイヤレスマイクの使用についてである。ここ数年、このA型ワイヤレスマイクの周波数移行が行われてきたが、その原因とこれまでの経緯、そして現状について学ぶとともに、これから新たに導入する上での課題や、A型ワイヤレスマイク自体の課題についても学ぶ。その原因とこれまでの経緯、そして現状について学ぶとともに、これから新たに導入する上での課題、そしてA型ワイヤレスマイク自体の課題についても学ぶ。

講師 | 渡邊邦男 (一社) 特定ラジオマイク運用調整機構(特ラ機構) 舞台音響デザイナー
| 甲田乃次 (一社) 特定ラジオマイク運用調整機構(特ラ機構) テクニカルチーフ
モデレーター | 草加辰也 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

2 | 8 | 金 10:00 ~ 11:45 ファイナルプログラム

「コンドルズ」の活動から

NHK教育「からだあそび」、NHK総合「サラリーマンNEO」の演出出演をはじめ、野田秀哉演出NODA・MAP「パイパー」など、メディア、舞台の現場で多数の活躍をされている近藤良平氏。また、主宰するダンスカンパニー「コンドルズ」の活動では全国津々浦々の劇場・音楽堂等を廻り公演をされています。パフォーマーとしてご活動されてきたご経験から、表現者としての思いや、劇場・音楽堂等について感じていることなどもお伺いします。多角的な視点でお話しいただく貴重な機会となります。ぜひ聴講ください。

近藤良平 コンドルズ主宰

2 | 8 | 金 11:45 ~ 12:00 閉講式

2 | 7 | 木 15:30 ~ 17:30 舞台技術

最新の劇場から舞台技術について学ぶ
—札幌文化芸術劇場 hirtaru—

2018年10月札幌市に都市再開発建物である「さっぽろ創世スクエア」の低層階に「札幌文化芸術劇場 hirtaru」「札幌文化芸術交流センター SCARTS」「札幌市図書館・情報館」、そしてカフェやレストランからなる「札幌市民交流プラザ」が誕生した。その中核を成すのが、2,302席で3層のバルコニー席と北海道初の多面舞台を備えた「札幌文化芸術劇場 hirtaru」である。この劇場の整備を通して、最も新しい劇場計画と舞台技術のこれからについて学ぶ。

講師 | 伊藤久幸 (公社) 札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 舞台技術部長
モデレーター | 草加辰也 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

基礎講座

2 | 6 | * ~ 7 | *

人材養成基礎講座

本講座は、劇場・音楽堂等に勤務するすべての方を対象に、劇場・ホールについての概念から、管理運営、事業企画、舞台技術などの全般について体系的に学ぶことを目的とします。もちろん、セクション毎に求められる専門性や分野は様々ではありますが、すべての人材が共通に身に着けるべき基礎的素養を学ぶ場としていますので、いずれの講義においても、ご所属の部署を問わず参加することができる内容となっています。2日間にわたる全5講座のうち、講座毎の単独受講も可能ですが、ぜひ全講座通しての参加をお勧めします。個人が共通理解を深めることが組織運営の向上と繋がっていきます。なお、テキストは「劇場・音楽堂等人材養成テキスト 基礎編」(平成26年度発行)を再編したものを活用し、主に執筆者による講義を準えて形式で行う予定です。

講師 | 田村孝子 (公社) 全国公立文化施設協会 副会長
モデレーター・講師 | 小川幹雄 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー
| 鈴木輝一 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー
| 関兼勝一 (公社) 全国公立文化施設協会 アドバイザー

2月6日(水) ※時間表が変動的ですのでご注意ください。

講座1	13:00 ~ 14:30
	第1章 劇場・ホールとは (田村孝子)
講座2	14:45 ~ 17:30 ※途中休憩があります。
	第2章 施設運営とは (関兼勝一)
	第3章 劇場・ホールの事業とは (関兼勝一)

2月7日(木)

講座3	10:00 ~ 12:00
	第4章 劇場空間とは (鈴木輝一)
講座4	13:00 ~ 15:00
	第5章① 舞台業務の概要 (小川幹雄)
講座5	15:30 ~ 17:30
	第5章② 舞台設備 (鈴木輝一)

講座タイムテーブル

- アートマネジメント関連講座
- 舞台技術関連講座
- 基礎講座
- 共通

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
2月6日(水)		開講式 基礎講演 日本における文化と観光		中小規模館における 予算ゼロのおもしろ 事業展開	公立文化施設の 大規模改修	指導者養成演劇 ワークショップ	劇場・音楽堂等及び 芸術団体の評価制度を 考える			情報交換会	
				労働安全衛生法施行令の 一部改正			自然災害(地震、風水害) への備え	劇場・ホールの 自主制作公演の紹介 演劇・舞踊編			
				第1章 劇場・ホールとは		第2章 施設運営とは 第3章 劇場・ホールの事業とは	劇場・音楽堂のITV設備の 比較と課題検討				
2月7日(木)		マーケティング入門		「働き方改革」は 文化施設に 何をもたらすか	親子のための伝統芸能 ワークショップ		「ハコ」を活かして!	企画立案と若手人材の活用			
		自治体文化政策の 基本を理解する		「観劇サポート」とは!			最新の劇場から 舞台技術について学ぶ				
		劇場・ホールの 自主制作公演の紹介 音楽編		特定ラジオマイクの 運用とこれからの課題			第5章② 舞台設備				
		舞台美術家の仕事、 舞台美術の 活かし方・可能性		第5章① 舞台業務の概要							
		第4章 劇場空間とは									
2月8日(金)		ファイナルプログラム 「コンドルズ」の 活動から	閉講式								

全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 2019 参加申し込みについて

主催	文化庁・公益社団法人全国公立文化施設協会
目的	劇場・音楽堂等の活性化、地域の文化芸術の振興を目的として、アートマネジメントと舞台技術に関する専門的研修を体系的に実施することにより、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を支援する。
開催期間	平成31年2月6日(水)・7日(木)・8日(金)
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

対象
劇場・音楽堂等職員、地方自治体の文化芸術振興行政担当者、アートマネジメント教育関係者、舞台技術関係者、学生、アートマネジメント・舞台技術に関心のある方、一般の方等

お申込み
受付期間 平成30年12月5日(水)～平成31年1月17日(木)
※先着順。定員に達し次第締切
申込方法 全国公立文化施設協会 ホームページからお申込みください。
<http://www.zenkoubun.jp/training/art.html>
・ホームページから申込みが出来ない方、申込内容の変更をご希望の方は、お電話で事務局までご連絡ください。
・平成31年1月下旬に、申込者全員に受講票をメールでお送りします。1月末までに届かない場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

お申込みにあたっての注意事項
・お申込みは先着順となります。定員に達し次第締切ります。お早めにお申込みください。
・本年度より旅費の補助はございません。
・「アートマネジメント」「舞台技術」「基礎講座」「共通」のカテゴリーを横断してのプログラム選択は可能です。
・3日間すべての時間帯のプログラムを受講いただいた方で、希望される方には修了証を発行します。
・「基礎講座」のすべてのプログラムを受講いただいた方には、「全国劇場・音楽堂等人材養成講座」の修了証を発行します。
・2月7日(木)15:30～18:00の「企画立案と右手人材の活用」一斉実演デモンストレーションと舞台のしつらえーでは、17:40(予定)よりデモンストレーションを行います。本プログラムを受講されていない方もデモンストレーション部分のみご覧いただけます。ぜひご参加ください(演奏開始後の途中入場はできませんのでご了承ください)。

情報交換会
情報交換、参加者相互の親睦を目的に情報交換会を行います。参加希望の有無を申込時に入力してください。
日時：平成31年2月6日(水) 18:00～19:30
場所：レストラン「とき」(カルチャー棟2階)
参加費：4,000円

宿泊について
研修会会場施設内での宿泊が可能です。
ご希望の方は、直接センターへお申込みください。
電話：03-3469-2525
<http://nyc.niye.go.jp/category/facilities/dormitories/>

交通案内(アクセス)
会場(施設名)：国立オリンピック記念青少年総合センター
所在地：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
ホームページ：<http://nyc.niye.go.jp/>
アクセス：<http://nyc.niye.go.jp/train/>
電話：03-3469-2525 FAX：03-3469-2277
小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約10分
※参宮橋駅より会場の間に踏切があり、10分以上かかる場合があります。時間に余裕をもってお越しください。
■東京駅から
・JR中央線約15分 新宿駅乗り換え
→小田急線 各駅停車 約5分 →参宮橋駅 下車 →徒歩約10分
■小田急線
・参宮橋駅下車 →徒歩約10分
■羽田空港から
・東京モノレール 約25分 浜松町駅乗り換え
→JR山手線 約25分 新宿駅乗り換え
→小田急線 各駅停車 約5分 →参宮橋駅 下車 →徒歩約10分
■東京メトロ千代田線
・代々木公園駅(C02)下車(代々木公園方面4番出口) →徒歩約10分

[周辺地図]



全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会 2019 事務局

公益社団法人 全国公立文化施設協会
〒104-0061 東京都中央区銀座2-10-18 東京都中小企業会館4F
電話：03-5565-3030 FAX：03-5565-3050
E-mail：art@zenkoubun.jp
担当：堀江 / 菅生 / 向井 / 高山

[研修会の詳細情報・申込フォーム等]
<http://www.zenkoubun.jp/training/art.html>
研修会についてのお問合せは、事務局までご連絡ください。
企画・制作：公益社団法人 全国公立文化施設協会
企画委員：岸正人、草加毅也、柴田英紀、田村孝子、関兼勝一

全国公立文化施設協会のQRコードです。
最新情報はこちらからご覧ください。





平成30年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等基盤整備事業」

「劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業」募集要項

1 主催

文化庁、公益社団法人全国公立文化施設協会

2 事業の目的

劇場・音楽堂等のアートマネジメントや舞台技術等の担当職員に他の劇場・音楽堂等での実務研修の機会を提供することによって、劇場・音楽堂等の活性化と地域の文化芸術活動の充実を図ることを目的とします。

3 事業の内容

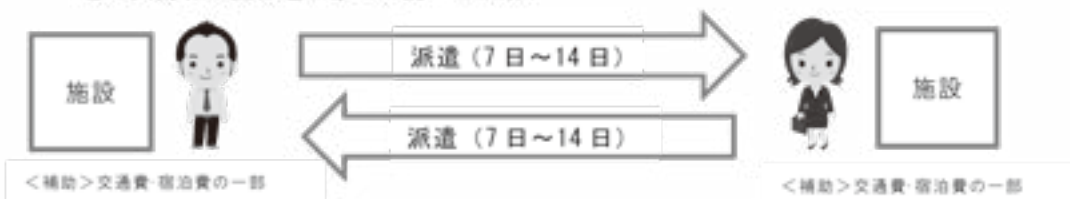
(1) 劇場・音楽堂等の職員を研修生として他の劇場・音楽堂等に短期間派遣する「実務者派遣研修〈A型〉」や施設相互に短期間派遣する「実務者相互派遣研修〈B型〉」、及び中期間実務者を交換し実務に従事しながら研修を行う「実務者交換研修〈C型〉」等の交流研修を実施します。

(2) 当事業には、以下の3種類の研修があります。

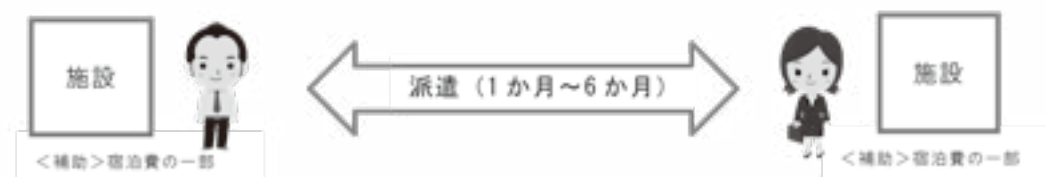
① 実務者派遣研修〈A型〉(短期)



② 実務者相互派遣研修〈B型〉(短期)



③ 実務者交換研修〈C型〉(中期)

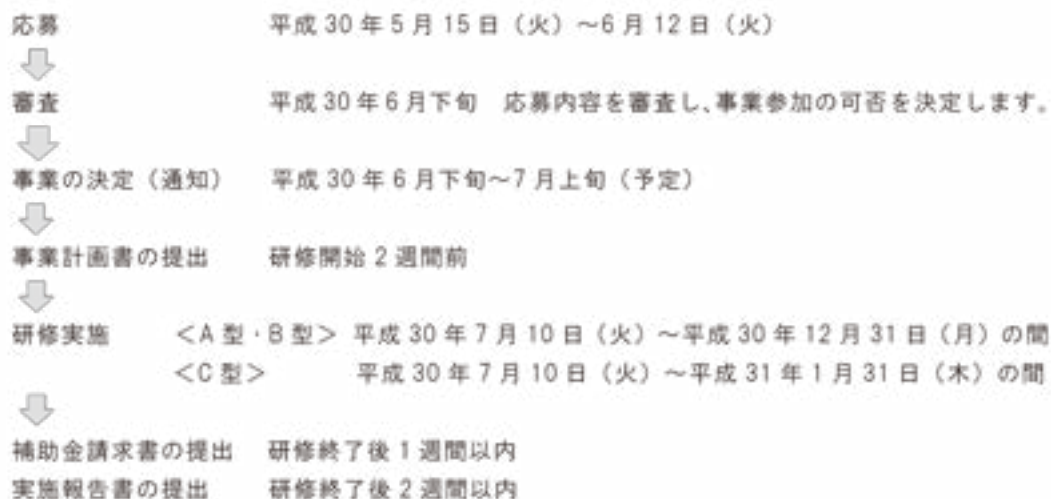


- (3) 研修生の派遣に伴う費用を、公益社団法人全国公立文化施設協会（以下「全国公文協」という）が補助します。
- ① 研修生の交通費（実務者派遣研修〈A型〉、実務者相互派遣研修〈B型〉）
 - ② 研修生の宿泊費の補助（実務者派遣研修〈A型〉、実務者相互派遣研修〈B型〉、実務者交換研修〈C型〉）
 - ③ 指導員に対する指導謝金（実務者派遣研修〈A型〉）
- (4) 研修生の派遣を希望する施設・団体（以下「派遣元」という）、または受入れを希望する施設・団体（以下「受入先」という）のどちらからでも応募できます。
- (5) 「実務者派遣研修〈A型〉」の派遣希望施設、受入希望者が未定の場合は、全国公文協がマッチングを行うことも可能です（状況によりご希望に添えない場合もあります）。「実務者相互派遣研修〈B型〉」、「実務者交換研修〈C型〉」につきましては、交換先の施設・団体を調整の上ご応募ください。
- (6) 応募多数の場合は、書類選考を行います。実務者相互派遣研修〈B型〉、実務者交換研修〈C型〉については、双方の参加希望者の応募内容から総合的に判断いたします。
- (7) 同一の研修内容で、本研修と文化庁の他の助成事業に重複して参加することはできません。
- ＜重複して参加することのできない事業＞
- ① 文化庁 平成30年度文化芸術振興費補助金
「劇場・音楽堂等機能強化推進事業—地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業—」（独立行政法人日本芸術文化振興会受託）の支援決定施設が行う人材養成事業
 - ② 文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「実演芸術連携交流事業」
平成30年度国内専門家フェロシップ制度（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会受託）
 - ③ その他文化庁の助成を受けている事業
ホールが文化庁の助成を受けて実施している研修事業と本研修に同一内容で重複して参加することはできません。研修で携わる公演事業等が文化庁の助成を受けている（例：文化庁の助成を受けている自主制作オペラ公演の制作業務を学ぶ）ということに関しては問題ありません。

4 事業実施期間

- 実務者派遣研修〈A型〉・実務者相互派遣研修〈B型〉
平成30年7月10日（火）から平成30年12月31日（月）のうち、7～14日間程度。
- 実務者交換研修〈C型〉
平成30年7月10日（火）から平成31年1月31日（木）のうち、1～6か月間程度。

5 事業の流れ



※ 研修終了後にご提出いただく報告書等を基に、事業実施報告書を作成し、全国公文協ホームページに掲載する予定です。
また、報告書等は、全国公文協が実施する研修会等で活用する場合があります。

6 事業内容

① 実務者派遣研修 <A型> (短期)

地域の劇場・音楽堂等において、アートマネジメント及び舞台技術を担当している中堅職員を、優れた活動を行っている他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行います。

	派遣元	受入先
対象者	<p>研修生</p> <p>地域の劇場・音楽堂等において、原則として常勤として雇用され、企画、管理、運営、舞台技術の中心的役割を担う職員で、原則として3年以上の実務経験を有する者。</p>	<p>指導員</p> <p>地域の劇場・音楽堂等の企画、運営、舞台技術に関して優れた活動を行い、劇場・音楽堂等において、一定期間、指導者の任に就ける者。</p>
補助額	<p>交通費</p> <p>研修生が移動する際に必要な、往復の交通費を支給します (経済的かつ合理的な経路に限ります)。</p> <p>①宿泊を伴わない場合 派遣元最寄り駅(研修生の勤務先又は自宅のうち受入先に近い方)から受入先最寄り駅までの往復交通費×研修日数分</p> <p>②宿泊を伴う場合 派遣元最寄り駅(研修生の勤務先又は自宅のうち受入先に近い方)から受入先最寄り駅までの交通費×1往復分</p> <p>受入館からさらに他の施設へ移動する際の交通費は対象外となります。飛行機利用の場合は、領収書等金額の証明となる書類(写)を提出してください。</p>	<p>指導謝金</p> <p>指導1日につき上限15,300円。 指導のために要した日数、時間数、研修内容を記載した研修日報を提出していただき、確認できる場合に支給します。</p>
	<p>宿泊費</p> <p>宿泊を伴う場合に支給します。研修生の研修先での宿泊費の2分の1、かつ3万円を限度とします。宿泊費の領収書(写)を提出してください。</p>	
様式	様式1(派遣元用)	様式2(受入先用)
	応募時に派遣元と受入先が決定している場合、派遣元が応募書類をご提出ください。	

② 実務者相互派遣研修 <B型> (短期)

劇場・音楽堂等に勤務する職員を相互に派遣し、共通の問題の改善・向上を目的に、実務研修や交流を行います。

対象者	研修生 地域の劇場、音楽堂等において、原則として常勤として雇用され、企画、管理、運営、舞台技術の中心的役割を担う職員で、原則として3年以上の実務経験を有する者。	
補助額	交通費	研修生が移動する際に必要な、往復の交通費を支給します (経済的かつ合理的な経路に限ります)。 ① 宿泊を伴わない場合 派遣元最寄り駅(研修生の勤務先又は自宅のうち受入先に近い方)から受入先最寄り駅までの往復交通費×研修日数分 ② 宿泊を伴う場合 派遣元最寄り駅(研修生の勤務先又は自宅のうち受入先に近い方)から受入先最寄り駅までの交通費×1往復分 受入先からさらに他の施設へ移動する際の交通費は対象外となります。 飛行機利用の場合は、領収書等金額の証明となる書類(写)を提出してください。
	宿泊費	宿泊を伴う場合に支給します。 研修生の研修先での宿泊費の2分の1、かつ3万円を限度とします。 宿泊費の領収書(写)を提出してください。
様式	様式1(派遣元用)を相互派遣する双方の館ごとにご提出ください。	

③ 実務者交換研修 <C型> (中期)

劇場・音楽堂等に勤務する職員を1か月～6か月程度の中期に渡って相互に派遣し、実務に従事しながら研修や交流を行います。

対象者	研修生 地域の劇場、音楽堂等において、原則として常勤として雇用され、企画、管理、運営、舞台技術の中心的役割を担う職員で、原則として3年以上の実務経験を有する者。	
補助額	宿泊費	研修生の研修先での宿泊費の実費を支給します。 支給は、実費相当額かつ1か月当たり6万円を限度とします(1か月に満たない期間については日割計算)。 入居・退去に必要な諸経費、駐車場費、駐輪場費、光熱水費、通信費等は支給の対象外となります。 宿泊費の領収書(写)を提出してください。
様式	様式1(派遣元用)を交換派遣する双方の館ごとにご提出ください。	

7 応募について

応募様式を全国公文協ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入・押印の上、応募期間内に、下記メールアドレスへカラーPDF ファイルにて提出してください。
(Eメールを送信できない場合は、事務局へお電話でご相談ください。)

応募期間 平成30年5月15日(火)～6月12日(火)

応募書類提出先 staff@zenkoubun.jp
〒104-0061 東京都中央区銀座2-1-18
東京都中小企業会館4階
公益社団法人 全国公立文化施設協会
スタッフ交流研修事業 事務局

全国公文協ホームページ <http://www.zenkoubun.jp/>
<スタッフ交流研修事業(国内交流研修)の報告書等はこちらでご覧いただけます>
<https://www.zenkoubun.jp/training/staff.html>



平成30年度文化庁委託事業

劇場・音楽堂等基盤整備事業報告書

平成31年(2019年)3月発行

編集・発行 公益社団法人 全国公立文化施設協会
〒104-0061
東京都中央区銀座2丁目10番地18号 東京都中小企業会館4階
TEL: 03-5565-3030 FAX: 03-5565-3050
E-mail: bunka@zenkoubun.jp
ホームページ: <https://www.zenkoubun.jp/>

編集協力・印刷 株式会社ぎょうせい



THE ASSOCIATION OF PUBLIC THEATERS AND HALLS IN JAPAN
公益社団法人全国公立文化施設協会